



Until we are all equal

# A Gathering Storm 勢いを増す嵐

A study on the gendered impact of climate change on the rights of adolescent girls and young women in the Sahel

サヘル地域の女の子とユースの権利に対する気候変動のジェンダー的影響に関する調査

# Full report



本調査はプラン・インターナショナル(以下プラン)の企画および財政と実務支援のもと、プランの共同調査者となったユース女性とメンター30名が共同して実施した。子どもの権利とジェンダー平等の向上に対する支援と献身に対し、プランに心より感謝申し上げたい。

本調査と報告書の実施・完成に際し、専門知識と献身的な姿で多大な貢献をいただいた、以下の調査コンサルタントの方々に感謝申し上げたい。

Nastasia Thebaud-Bouillon-Njenga (調査調整者)

Lucille Akelo Onyango

Allison Cantor

Aboubakar Kamagaté

調査活動はhera - 健康である権利により管理された。

本報告書の引用:

*Thebaud-Bouillon-Njenga, N. & Onyango, L. A. & Cantor, A. & Kamagaté, A. (2024) "Study on the gendered impact of climate change on adolescent girls and young women in the Sahel: multi-country analysis in Burkina Faso, Guinea, Mali, Niger and Nigeria" Plan International and hera.*

「[...] 人びとが私たちが気にしてくれていると知り、嬉しいです」

ユース女性の参加者(18~24歳)、ワラム、ニジェール

## 謝辞

本報告書は、今回の重要な調査へのプランの財政的支援によって完成された。プランの、子どもの権利とジェンダー平等の推進に対する揺るぎない支援と尽力に、心から感謝申し上げたい。

本報告書の顧問業務はheraに完全委託され、heraの専門調査チームが本調査・本報告書作成に際し、重要な役割を果たした。本調査を主導したheraの顧問チームは、Nastasia Thebaud-Bouillon-Njengaが率い、Lucille Akelo Onyango・Allison Cantor・Aboubakar Kamagatéで構成され、Marieke Deville・Alice Schmidt・Eleonore Deboutte・Audrey Diaw・Xitlali Sandino・Fatou Diop Sallの多大な支援を得て活動した。

本調査は、素晴らしい共同調査者のユース女性と彼女たちのメンターで構成されたチームと共同で実施された。調査過程全体での、彼女たちの時間・努力・貢献・熱心な関与・献身的な姿勢が、本調査を可能にし、有意義なものにした。本報告書は、この有意義かつ必須の協働の成果である。下記の表に記載された、献身的な25名の共同調査者のユース女性と5名の素晴らしいメンターの方々に、心から感謝申し上げたい。

	共同調査者	メンター
ブルキナファソ	<ul style="list-style-type: none"><li>Nadège Nitiema</li><li>Barkissa Zouon</li><li>Patindimba Micheline Nikiema</li><li>Aïda Sako</li><li>Aïchatou Touré</li></ul>	Pengd-wendé Adèle Zoungrana Sawadogo
ギニア	<ul style="list-style-type: none"><li>Aminata Guillaume Camara</li><li>Aminata Traore</li><li>Macire Fadiga</li><li>Fatoumata Yarie Bangoura</li><li>Bountouraby Bangoura</li></ul>	Eugenie Loua
マリ	<ul style="list-style-type: none"><li>Mariam Dara</li><li>Mariam Mounkoro</li><li>Fatoumata Diarra</li><li>Kamissa Kane</li><li>Fatoumata FOFANA</li></ul>	Babera Mariam Gogo
ニジェール	<ul style="list-style-type: none"><li>Ibrahim Bello Asmaou</li><li>Mariama Amadou Sadou</li><li>Moussa Bana Samsiya</li><li>Moussa Hama Rakia</li><li>Nafissatou Hamadou Hamidou</li></ul>	Salou Harouna Salou
ナイジェリア	<ul style="list-style-type: none"><li>Fatima Muhammad Mafi</li><li>Halima Yerima Muhammad</li><li>Adama Ibrahim</li><li>Safiya Mallum Izge</li><li>Lydia Barnabas</li></ul>	Rifkatu Lalai

データ収集活動に参加した約1,000名の思春期の女の子およびユース女性(AGYW)の貴重な貢献に対し、深く感謝の意を示したい。深刻な困難を日々経験しながらも、彼女たちは自身の実体験・希望・困難・期待・提言を共有してくれた。

彼女たちの参加に深く感謝するとともに、革新的で力づくに貢献する調査手法であるフェミニスト参加型行動調査(FPAR)を採用した今回の多国間調査が、彼女たち自身・家族・コミュニティの生活に、可視化された長期的な政策変更と行動を伴う影響につながることを心から願っている。

本調査はプラン内では、西アフリカおよび中央アフリカ地域ハブ(WACAH)から積極的な支援を受け、特にJuli-Collette Nsah-BongsiisyとAmevi Djadouの多大な貢献に感謝したい。

プランのBelem Fousseni(ブルキナファソ)・Louis Bendou(ギニア)・Mohamed Agaly Ag Yehia(マリ)・Nafissa Amidou(ニジェール)・Soulé Maman(ニジェール)・Lumba Auwal(ナイジェリア)・James Lamba Yusuf(ナイジェリア)は、**運営・技術面でのあらゆる調整が整うのを保証し、調査過程を常に支えた重要な存在**だった。また、この大規模な調査の運営面の調整と詳細計画を構築のために時間と労力を費やし、本調査を可能にしてくれた以下の国別事務所の技術・管理・支援チームの職員にも感謝申し上げたい。

- **ブルキナファソ:** Paul Fagnon・Abdou Aziz Compaore・Cyrille Kere・Patrice Zongo・Claude Kane;
- **ギニア:** Evariste Sindayigaya・Finda Iffono・Maimouna Barry・Mamadou Oury Diallo・Aminata Diallo・Tamba Michel Kamano・Albert Faya Kamano・Antoinette Guilavogui・Leonie Sogoni Beavogui・Fatoumata Amadou Bah・Albert Mamy;
- **マリ:** Jackson Acha Atam・Amadou Guindo・Modibo Doumbia・Gaoussou Coulibaly・Baboye Bocoum;
- **ニジェール:** Innocent Mumararungu, Moussa Abdou, Maman Nourou, Sani Issa;
- **ナイジェリア:** Charles Emmamuzou Usie・Helen Mfon-Obong Idiong・Comfort Runyi Effiom・Chinelo Amaechina・Tunde Aremu・Annie Jubemi・Onaji Joshua・Adedolapo Adebogun。

プランは本調査に対し、直接かかわった5カ国の国別事務所(CO)(ブルキナファソ・ギニア・マリ・ニジェール・ナイジェリア)に加え、WACAH・国内組織(CNO・DNO・BNO・NNO)を通じたものも含め、資金援助を行った。調査過程全体を通じた運営委員会の支援に感謝したい。

本調査は、プラン・hera・共同調査者のユース女性・AGYW間での有意義で欠かせない協働の証である。女の子とユース女性の生活の、重要で持続的な改善へ寄与するものとなることを願う。

## 目次

謝辞	iv
1 要約	1
2 背景とはじめに	5
3 調査方法と手法	6
3.1 対象と手法	6
3.2 共同設計・データ収集・分析	8
3.2.1 共同設計	8
3.2.2 データ収集	8
3.2.3 データ分析	11
3.3 制限事項と困難	12
4 政策構築	13
4.1 気候変動に対する政策構築	13
4.2 地域的人権体制とそのジェンダー的側面	13
4.3 気候変動とジェンダーの主要指標	16
5 複数国に関する文献レビュー: 第1段階の調査結果の要約	18
5.1 影響	18
5.2 政策枠組み	19
5.3 利害関係者とプログラムのマッピング	19
5.4 第1段階からの提言	20
6 サヘル地域での気候変動のAGYWに対するジェンダー的な影響: FPARによる複数国の調査結果(第2段階)	20
6.1 気候危機下のAGYW: 知識・経験・影響を受けた権利・満たされないニーズ	20
6.2 サヘル地域のAGYWの食料を得る権利に気候変動が与える影響	28
6.2.1 AGYWが地域で経験・目にしている深刻な食料不安	29
6.2.2 AGYWとその家族の食料を得る権利の全ての構成要素が気候変動の影響を受けている	31
6.2.3 AGYWは食料不安の対処と生き延びるために戦略を用いる	38
6.2.4 AGYWの食料を得る権利と他の主要な人権との関連性	40
6.3 サヘル地域のAGYWの水を得る権利に気候変動が与える影響	42
6.3.1 AGYWの水を得る権利に気候変動が与える影響	43
6.3.2 AGYWの水を得る権利と他の主要な人権との関連性	48
6.4 サヘル地域のAGYWの教育を享受する権利に気候変動が与える影響	50
6.5 サヘル地域のAGYWの健康を享受する権利に気候変動が与える影響	56
6.6 SGBVとSRHRに気候変動が与える影響	58

6.6.1 社会的規範・タブー・恥の意識による対応の欠如 .....	58
6.6.2 気候変動下でのAGYWへのSGBVとその影響 .....	59
6.7 AGYWのSRHRに気候変動が与える影響 .....	61
6.8 助長要素: 環境悪化と安全性の低下 .....	63
6.8.1 環境悪化と所有物破壊との交差 .....	63
6.8.2 紛争・避難・危険の交差 .....	68
7 サヘル地域での適応とレジリエンスの積極的先導者としてのAGYW .....	69
7.1 サヘル地域で現在AGYWによって行われている適応・軽減策 .....	69
7.2 気候変動の影響への対策実施に対してAGYWが経験する障壁 .....	70
8 FPAR手法: 調査と政策決定でのAGYWの代表性強化に欠かせない段階 .....	72
8.1 参加者のAGYWのFPARの経験 .....	72
8.2 共同調査者のユース女性のFPARの経験 .....	75
8.2.1 調査実施前の知識と期待の評価: 共同調査者による事前オンライン調査の結果 .....	75
8.2.2 第1・2回ワークショップからの主要な学習の評価: 共同調査者による中間調査オンライン調査の結果 ..	76
8.2.3 FPAR手法の主要な学習の評価: 共同調査者による調査終了時評価の調査結果と 第2回ワークショップ中の考察セッションの内容 .....	78
9 結論と政策上の課題 .....	82
10 提言 .....	83
10.1 国家当局に対し .....	83
10.2 CSO・国際NGOや現地NGO等の開発パートナー・ECOWASやAU等の地域/大陸組織に対し ..	84
10.3 プランに対し .....	84
ANNEX 1: Stakeholders Mapping .....	I
ANNEX 2: Detailed RECOMMENDATIONS .....	III
To PLAN International .....	VII
RECOMMENDATIONS FROM CO-RESEARCHERS AND PARTICIPANTS .....	X
ANNEX 3: Research Questions .....	XIV
ANNEX 4: CODEBOOK (Used for Data Analysis) .....	XV
ANNEX 5. Selection of Co-Researchers, Mentors and STudy Participants .....	XIX
ANNEX 6. Key Workshop Insights from Co-Researchers .....	XXI

## 図表一覧

表 1. 参加者のAGYWのデータ収集場所 .....	8
表 2. ピアツーピア調査(Kobo Toolbox)に参加したAGYWの人数 .....	10
表 3. フォトボイス手法に参加したAGYWの人数 .....	11
表 4. 主要指標と統計 .....	16
表 5. 対象全体の質的データでの頻度表 - 言及がみられるFGDと質的調査データ文書の件数 .....	22
表 6. Actors involved in initiatives, projects, programmes at the intersection of climate change and women's rights/gender .....	I
表 7. Key insights from workshops.....	XXI

## 図一覧

図 1. 下位テーマ領域 .....	7
図 2. おおよそのデータ収集地点の位置 .....	9
図 3. AUの枠組み .....	14
図 4. 地域・準地域枠組み(ECOWASとECCAS) .....	15
図 5. AGYWのコミュニティに影響を与える異常気象に関する調査結果(n=472) .....	24
図 6. 主要なテーマ領域の分析 .....	25
図 7. 気候変動によって満たされないニーズの調査結果 .....	25
図 8. 気候変動によって満たされないニーズの国別の調査結果(n=472) .....	26
図 9. 気候変動によって満たされないニーズの実体験別の調査結果 .....	26
図 10. 気候変動によって満たされないニーズ(食料・水・教育)の実体験の特徴別の調査結果(n=472) .....	26
図 11. AGYWが参加する活動の調査結果(n=472) .....	27
図 12. 気候変動で影響を活動が受けた実体験別の参加者のAGYWの内訳 .....	28
図 13. 荒廃した土地のフォトボイス写真 .....	31
図 14. 一部が枯れている木のフォトボイス写真 .....	32
図 15. 枯れた木のフォトボイス写真 .....	32
図 16. まわりに新鮮な草が全くない牛のフォトボイス写真 .....	33
図 17. 干ばつによる土壌劣化のフォトボイス写真 .....	34
図 18. プラスチック廃棄物による土壌劣化のフォトボイス写真 .....	34
図 19. 気候変動による気温上昇が及ぼすマンゴーの貯蔵と品質への影響のフォトボイス写真 .....	37
図 20. 気候変動による気温上昇が及ぼすバナナの木への影響のフォトボイス写真 .....	38
図 21. 過去3年間の水の傾向の調査結果(n=472) .....	44

図 22. マリの干上がった川床(magot)のフォトボイス写真 .....	45
図 23. コンデューガ地域の完全に干上がった川床(河川)のフォトボイス写真 .....	46
図 24. ブルキナファソの干上がった川床のフォトボイス写真 .....	46
図 25. ナイジェリアの水不足で混みあった公共水道の蛇口のフォトボイス写真 .....	47
図 26. ギニアの水不足により供給に制限がかけられた水の供給所のフォトボイス写真 .....	47
図 27. ブルキナファソの水を運ぶ女性のフォトボイス写真 .....	48
図 28. 浸食の長期的な影響のフォトボイス写真 .....	48
図 29. ギニアの洪水により流されて間もない道路に現地の人を作り、架けた橋のフォトボイス写真 ...	52
図 30. 廃棄物で塞き止められた水路のフォトボイス写真 .....	64
図 31. ギニアの水流と豪雨により崩壊されても居住者が居続ける家屋のフォトボイス写真 .....	65
図 32. 暴風雨により破壊された家屋のフォトボイス写真 .....	65
図 33. ナイジェリア・コンデューガの木炭生産のための伐採状況のフォトボイス写真 .....	66
図 34. 耕作可能な地表が極めて乾燥し、農業に適さなくなった様子を示すフォトボイス写真 .....	67
図 35. マリの共同調査者のFPAR手法の経験に関する語り .....	75

## 略語集

AGYW	思春期の女の子およびユース女性
ACERWC	アフリカ子どもの権利と福祉に関する委員会
ACRWC	アフリカ子どもの権利および福祉に関する憲章
AOGD	プラン・インターナショナルが重点的に取り組む次の6つの活動分野のこと
AU	アフリカ連合
CEFM	早すぎる強制された結婚
CO	国別事務所
CSO	市民社会組織
ECCAS	中部アフリカ諸国経済共同体
ECOWAS	西アフリカ諸国経済共同体
FGD	フォーカス・グループ・ディスカッション
FGM	女性性器切除
FPAR	フェミニスト参加型行動調査
GBV	ジェンダーに基づく暴力
KII	重要な情報提供者へのインタビュー
N	回答数
NAP	国別行動計画
NDC	国が決定する貢献
OECD	経済協力開発機構
SGBV	性とジェンダーに基づく暴力
SIGI	OECD社会制度とジェンダー指数
SRHR	性と生殖に関する健康と権利
UNFCCC	国連気候変動枠組条約
WACA	西部・中央アフリカ

# 1 要約

## はじめに

本報告書は、プランに代わりheraの顧問チームが複数国を対象に行った調査結果をまとめたものである。本調査の具体的な目的は、サヘル地域のAGYWの実体験に焦点を当て、気候変動が彼女たちの権利に影響を及ぼしていることを示すことである。調査の包括的な目標は、プランとそのパートナーの「ジェンダー・トランスフォーマティブなプログラム策定と効果的な対応策の策定」に反映させることである。

本調査は2段階で実施された。2022年5月中旬～7月末に実施された第1段階では、気候変動の影響のジェンダー的な違いに関連する政策上の問題を探るとともに、既存のアクターとプログラムをマッピングするため、文献レビューと対象者を限定した重要な情報提供者へのインタビュー(KII)が実施され、対象国はサヘル地域の10カ国(ブルキナファソ・カメルーン・チャド・ガンビア・ギニア・モーリタニア・マリ・ニジェール・ナイジェリア・セネガル)であった。本報告書の中心となる第2段階は、2023年4月～2024年10月に実施され、ナイジェリア・ニジェール・マリ・ブルキナファソ・ギニアを対象国とした。本調査は以下の調査の問いの答えを見出すことを目的としている。

1. 思春期の女の子は、気候変動のジェンダー的な影響を自身の生活でどう経験・認識しており、また、彼女たちの仲間の現実の状況はどんなものか
2. 国際・地域・国家・現地レベルの当局に対し、女の子とユース女性は何を望んでいるのか
3. 本調査の一環としてのFPARの採用を、共同調査者はどう経験・認識するのか

## FPAR手法

本調査の第2段階(本報告書で提示)では、FPAR手法を採用した。FPAR手法は、調査での階層構造を強化する力関係を解体することを意図している。そのため本調査は、heraチーム・25名のユース共同調査者・5名のメンター・プランの国別/地域チームとの協働体制により特徴付けられた。それは、調査方法の共同構築がなされ、データ収集・分析・解釈に際しても積極的な協働的関与がみられた。

共同調査者は、調査方法と分析の研修を受け、対象国内での調査実施に準備を整えることを目指した一連の参加型ワークショップに参加した。FPAR手法が協力者の力づけの点でどう影響し得るかを深く理解するため、本調査過程を通してデータは共同調査者により収集された。共同調査者は、メンターとプランの国別事務所から支援を受け、計472名の参加者のAGYWに、ピアツーピア調査を実施した。また、複数回の参加型フォーカス・グループ・ディスカッション(PFGD)を行い、新たな391名の参加者のAGYWを対象に改良版フォトボイス活動を実施した。計863名の参加者AGYWが本調査に関与し、データはMAXQDAとExcelで分析された。

## 調査結果

**調査の問い1: AGYWは、気候変動のジェンダー的な影響を自身の生活でどう経験・認識しており、また、彼女たちの仲間の現実の状況はどんなものか**

全体的に、サヘル地域の調査対象国でAGYWが経験する困難は、気候変動により深化していた。気候変動関連でAGYWが最も頻繁に言及/議論した問題は、異常気象、特に洪水・豪雨・猛暑・干ばつ、にさらされていることだった。

AGYWは、**気候変動**の直接的結果として過剰な降雨量や長期間の干ばつを挙げ、それが農業の季節を不規則にし、作物や家畜の収穫量が減少したため、気候変動と食料不安を直接的につなげていた。**食料不足に加え、農業収入創出と他の食料品購入が不可能である状況が、食料不安を一層深化させ、AGYWの多くが、この事態への対処策として1日の食事回数の減少・食費獲得のための非公式/パートタイム労働への従事・他の人から食料/お金をもらう/借りる等、不健全な手段を探ることを強いられ、残念なことに彼女たちの多くが食料や金銭を得るための取引として性行為に頼らざるを得ないと述べた。**

**本調査は、気候変動のAGYWの生活への影響の与え方を、社会文化的なジェンダー規範が形成していることを明らかにした。彼女たちにリソース獲得のための取引的性行為を強いるだけでなく、異常気象に直接的に関連するリソース不足や満たされないニーズにより、早すぎる強制された結婚(CEFM)に追い込む事例にも言及がされた。参加者のAGYWは、性とジェンダーに基づく暴力(SGBV)や性と生殖に関する健康と権利(SRHR)に関する他の点にも言及し、特に水不足は、彼女たちが水汲みのために長距離を移動する際の危険性高め、暴力や身体的・精神的・セクシャルハラスメントに遭う危険性が高まっていると述べた。**

本調査で、AGYWが月経衛生管理に対して困難を抱えていることも判明した。

**参加者のAGYWの中には、気候変動を自宅外の汚染とも関連付け、廃棄物で埋め尽くされた河川等の環境破壊が洪水等の気候変動の影響を深刻化させると説明した人もいた。また彼女たちは、頭痛・皮膚感染症・めまい・コミュニティでの死亡率の上昇等、暑さに関連する健康問題とも気候変動を結びつけた。洪水や滞水によるマラリアの発生病件数の増加も懸念事項であり、更に参加者のAGYWは、気候変動による洪水や浸食等の異常気象が、コミュニティへのアクセスへつながる道路を流失させ、橋などのインフラを損傷し、停電を起こしているとも訴えた。彼女たちは、異常気象のためにこれまででも既に不足し運営が困難な状態であった医療施設の利用を一層阻害すると指摘した。また、彼女たちの中には、自宅外での様々な廃棄物投棄拡大と関連づけたり、河川への廃棄物投棄等、不適切な廃棄物管理が洪水等の気候変動の悪影響を受ける危険性を高めていると観察していた人もいた。**

気候変動に関連したリソースが減少した状況下で、AGYWは家庭内/世話作業の負担を不平等に重く課せられ、教育の享受の機会が制限されている。不平等に根ざすジェンダー規範は、教育費を賄うリソースの不足・水や薪等のリソースが乏しい状況下でのAGYWの家庭内や世話作業の負担の増加の必要・CEFMにより、教育の享受の機会を減少させた。

## **調査の間2: 国際・地域・国家・現地レベルの当局に対し、AGYWは何を望んでいるのか**

参加者のAGYWは、政策やプログラムでの既存の不備について議論し、何人かが気候変動の影響・関連する社会経済的問題・環境悪化に対処するための政府支援や政策実施の欠如に対して懸念を表明した。また彼女たちは、伐採防止策の失策・汚染に対する不十分な規則・異常気象の影響をコミュニティが受けた後の対応を含む、宣言された取り組みやプログラムの未完遂等、効果がみられない政府の政策と実施の欠如に対する批判もみられた。彼女たちは、コミュニティが食料や水等、当局が対応すべき基本的なニーズを抱えていると指摘した。そして、当局は特に女性やユースに対し、雇用・収入獲得機会の創出と、ポアホール・井戸・排水設備等のインフラ整備を行うべきだと述べた。

加えて、当局は気候変動・環境保護・衛生に対する認識と意識を高め、コミュニティ内の治安強化と犯罪・搾取の減少に努め、コミュニティと連携し意思決定に住民を関与させるべきであると提言した。

### 調査の間3: 本調査の一環としてのFPARの採用を、共同調査者のユース女性はどうか

FPAR手法の協働的性質は、その強みとして頻繁に挙げられた。共同調査者は、仲間・メンター・調査チームと密接な協力の機会が与えられたことを高く評価した。その包摂的で参加型の環境は、調査過程全体を通じた相互学習・支援を促進した。共同調査者は、調査過程が経験・知識・行動実施の可能性を育む貴重な機会であったとし、調査方法とツールの強み、およびピアツーピア形式のAGYWからの証拠の適切な収集能力を評価した。彼女たちは、自身の仕事と経験が評価・感謝されていると感じられて喜びを得た。また調査チームは、FPAR手法に関する参加者のAGYWの意見/感想も取り入れた。参加者は、同手法の重要性と、そのような参加型手法により可能となった学びを指摘した。問題点もいくつか指摘され、今後の調査に対する提言が出された。

全体的に、本調査に参加したAGYWの貢献は、気候変動がコミュニティでのAGYWの食料・水安全保障・健康・将来の展望・幸福に及ぼす多面的で壊滅的な影響を明らかにし、既存の権利侵害を悪化させるこの差し迫った問題に対応するための、包括的で対象を絞った政策・プログラム介入策の緊急の必要性を示している。本調査参加者のAGYWは、自身の望みと提言を共有した。国・地方当局への提言には、気候変動適応策の実施・気候/環境/ジェンダー関連政策と法的枠組みの改定と執行・社会経済的権利(食料/水/教育/健康等)の実現・汚染/効果的な廃棄物管理方法/環境悪化/気候変動への適応に関する啓発活動・気候変動のジェンダー的な影響に対応するプログラム設計のためのAGYWとコミュニティとの連携が含まれた。国際NGOや現地NGOに対しては、財政/技術的支援・啓発・教育・協働に関して組み合わせた提言を出した。また、様々なレベルのアクターによる意思決定やプログラム・活動設計への関与させてもらう必要性を訴えた。女性やユース主導の組織がAGYWの意思決定プロセスへの関与を提唱し、AGYW環境保護協会の設立させることを提案した。メディアに対し、特にユースを対象に気候変動の原因・影響・軽減策に関する正確で入手可能な情報の発信を求めるとともに、コミュニティに植林活動・廃棄物管理・土壌回復・アグロエコロジー・伐採防止策の実施と、気候変動に関する監視委員会の設置や気候変動予防・影響に関する啓発活動の展開を提言した。

調査チームはまた、政策立案・プログラム策定・交差的な参加型調査/知識の共創・コミュニティに応じたプログラム・提唱活動・働きかけ・サービス提供・パートナーシップ・参加の意義・組織内部への提言に関する、プラン・各国政府・市民社会組織(CSO)・国際/現地NGOを含む開発パートナーに対して一連の提言を行った。私たちはアクターに、それらのプログラムの成功を保証するため、その開発にAGYWを関与させる包摂的で協働的な手法を採用するよう強く求めた。既存のジェンダー・社会経済的不平等に起因する問題を気候変動が悪化させていることを踏まえ、AGYWに対するジェンダー不平等解消と人権促進の取り組みは継続・強化されるべきである。

また、私たちのチームは高所得国の各国政府に対し、気候変動への適応策への公平な分担金の支払いと、気候変動に関する公約からの逆行や撤回を停止・本来の方向に戻させることを強く求めた。

本調査は、気候変動とジェンダー・社会経済的不平等による多面的な困難に対応するため、AGYW・各国政府・国際/現地NGO・コミュニティの連携強化を求めている。食料・水・教育・きれいな環境を享受する権利を保証し、SRHRの提供強化のための具体的解決策の模索について、具体的な提言がされ、リサイクルを含む廃棄物管理に関する提言も示された。

## 2 背景とはじめに

気候危機は、既に存在していた人権侵害を助長し、子ども、特に思春期の女の子の権利と生活に多面的で不平等に大きな影響を及ぼす<sup>1</sup>。気候変動は、天然資源の持続可能な入手の阻害・人道危機の悪化・食料/水/健康/暴力からの保護といった重要な人権を脅かし、ジェンダー・社会的不平等を強化させる<sup>2</sup>。ジェンダーの視点を欠く気候変動に対する対応は、ジェンダー不平等を強化する<sup>3</sup>。

西部・中央アフリカ(WACA)諸国、特にサヘル地域の国々は気候危機の影響を極めて重大に受けており、既存の危機と不公正を悪化させている<sup>4</sup>。サヘル危機は多面的で複雑である: 紛争・様々な暴力(深刻なSGBVを含む)・慢性的な食料不安・避難・貧困が複合し、重大なジェンダー関連の事態を起こしており、それらは気候ショックにより一層深刻化している<sup>5</sup>。

同時に、気候正義はジェンダー規範・役割・責任を再定義し、ジェンダー平等を促進する可能性を秘めており、開発への平等な手法を促進し、最終的には持続可能な開発目標達成への前進を促進するものである<sup>6</sup>。

本報告書は、heraの顧問チームがプランの代理で実施した複数国での調査の結果をまとめたものである。本調査は、気候変動のサヘル地域のAGYWの実体験に与える影響と彼女たちの権利に及ぼす影響に焦点を当てている。調査の最終的な目標は、プランとそのパートナーによる「ジェンダー・トランスフォーマティブなプログラム策定と効果的な対応策の策定」に反映させることである。

調査プロジェクトの過程は2段階だった:

- 第1段階は2022年5月中旬～7月末に実施され、文献レビュー<sup>7</sup>と対象者を限定したKII<sup>8</sup>を含んだ。調査チームは対象国を地理的定義上のサヘル地域の10カ国(ブルキナファソ・カメルーン・チャド・ガンビア・ギニア・モーリタニア・マリ・ニジェール・ナイジェリア・セネガル)とした。同調査は2022年11月にプランに提出され、以下の題名が付けられた: 「Climate Change and Girls' Rights in the Sahel: A Gender Analysis in 10 Sahelian Countries」。

---

1 Plan International, International Position Paper “Climate Change: Focus on Girls and Young Women (2019).

2 Awiti, A., O. “Climate change and gender in Africa: a review of Impact and Gender-Responsive Solutions” (2022): <https://www.frontiersin.org/articles/10.3389/fclim.2022.895950/full>.

3 ECOWAS Disaster Risk Reduction Gender Strategy and Action Plan (2020-2030) adopted in 2019: [https://www.gfdr.org/sites/default/files/publication/ECOWAS%20GSAP\\_EN\\_Final.pdf](https://www.gfdr.org/sites/default/files/publication/ECOWAS%20GSAP_EN_Final.pdf).

4 ECOWAS Disaster Risk Reduction Gender Strategy and Action Plan (2020-2030) adopted in 2019: [https://www.gfdr.org/sites/default/files/publication/ECOWAS%20GSAP\\_EN\\_Final.pdf](https://www.gfdr.org/sites/default/files/publication/ECOWAS%20GSAP_EN_Final.pdf).

5 UNHCR “Climate Risk Profile: Sahel” (2021): <https://www.unhcr.org/publications/brochures/61a49df44/representative-concentration-pathways-climate-risk-profile-sahel-region.html>

6 UN Women “Leveraging co-benefits between gender equality and climate action for sustainable development” (2016): [https://unfccc.int/files/gender\\_and\\_climate\\_change/application/pdf/leveraging\\_cobenefits.pdf](https://unfccc.int/files/gender_and_climate_change/application/pdf/leveraging_cobenefits.pdf).

7 Thebaud-Bouillon-Njenga, Nastasia & Diop Sall, Fatou, & Schmidt, Alice. (2022). *Climate Change and Girls' Rights in the Sahel: A Gender Analysis in 10 Sahelian Countries*. heraのプランに対する最終報告書。  
文献レビューはフェミニスト手法を用いて3名の顧問から成るチームにより実施され、サヘル地域の気候変動のジェンダー的な影響・気候変動軽減と適応に関する意思決定での女の子と女性の役割・彼女たちのレジリエンスに重点が置かれた。文献レビューは調査への全体的な枠組みを提供し、二次データソースに焦点を当てた: 気候変動の女の子とユース女性に与える影響に関する公開文献や灰色文献・関連政策と公約・関連分野のアクター。質的データに重点を置いたが、可能かつ重要である場合は量的データも扱った。

8 第1段階の参照:

文献レビューの後、7回の半構造化インタビューを重要な情報提供者と実施した。インタビューの手引を用いたが、情報提供者それぞれの専門と各国で実施された文献レビューの結果に基づき適宜調整がされた。

- 第2段階は2023年4月～2024年10月に実施され、その調査結果は本報告書にまとめられている。この段階では、heraチーム・25名の共同調査者のユース女性・5名のメンター・プランの国別/地域チームが協働し、共同で調査方法の構築・データ収集・データ分析と解釈を行ったFPAR手法を実施した。調査方法の詳細は、プロセス文書(別文書)を参照のこと。

本報告書は、第1段階の要約結果に基づき、第2段階の調査結果について量的・質的分析を示す。

## 3 調査方法と手法

### 3.1 対象と手法

第2段階は第1段階の調査結果に基づき、ブルキナファソ・マリ・ニジェール・ナイジェリア・ギニアの5カ国に焦点を当てた。それらの国々はサヘル地域の異なる下位区分の地域を代表し、ブルキナファソ・マリ・ニジェールは中央サヘル地域、ナイジェリアはチャド湖地域に属し、ギニアは地理的にサヘル地域に位置するが、気候変動の影響として海岸浸食と海面上昇の影響を受けている。

第2段階は、FPAR手法の構築と実施から成り、FPARとは、構造的で力づけを促す変化を目指す調査手法であり、AGYWが調査テーマに関連する専門知識と実体験を有しており、彼女たちの意見と経験が調査と政策行動の中核を成すべきだという考えに基づいている。これは、深くジェンダー化された社会の力構造を反映し得る、データにおけるジェンダーバイアスが存在するという考えに由来する<sup>9</sup>。伝統的な方法に従う調査は、階層的断断の解明ではなく創出を招き、ジェンダー規範と女の子と女性の抑圧を強化し得る<sup>10</sup>。

本調査の共同調査者の以下の発言は、FPAR手法の中核である精神と姿勢を最もよく表している。

**「FPARの中核原則の1つは、影響を受ける人びとの直接参加です。調査過程にAGYWを含めることで、この手法は彼女たちの経験・ニーズ・視点が議論の中心となるようにしています」**  
共同調査者のユース女性、マリ

**「気候変動のAGYWへのジェンダー的な影響に対応する上でのFPAR手法の主な強みには、彼女たちの声のための提唱活動・知識の付与による力づけ・状況に応じた解決策の創出が含まれます」**  
共同調査者のユース女性、ナイジェリア

<sup>9</sup> International Labour Organisation “**Breaking the bias for better gender data**”(2022)、以下にて入手可能:  
<https://ilostat.ilo.org/blog/breaking-the-bias-for-better-gender-data/>.

<sup>10</sup> APWLD, “Feminist Participatory Action Research” <https://apwld.org/feminist-participatory-action-research-fpar/>.

第1段階の結果から、気候変動により女の子とユース女性の権利は一層奪われており、彼女たちの経験や意見は政策立案やプログラムに反映されていないことが判明した。そのことから、プランは本FPAR調査で、ユース女性を共同研究者とし、AGYWを参加させることで、AGYWの声と経験に焦点を当てることを決めた。私たちが行ったFPAR手法では、各国で選定対象者要件に基づき共同調査者のユース女性を選定し、複数の利害関係者との協働により調査プロトコルを策定し、参加型ワークショップで共同調査者のユース女性と調査ツールを共同設計し、彼女たちにデータ収集・分析の研修を実施した。各国2地域で共同調査者のユース女性がデータ収集を実施し、顧問チームによる先行分析後、プランと連携した顧問チームが設計した共同ワークショップで、共同調査者のユース女性は自身で収集したデータの解釈の支援を受けた。heraの顧問チームによる量的・質的データ分析と共同調査者のユース女性による解釈が、本報告書の調査結果の基盤となっている。

開始段階でプランと合意した通り、Annex1に詳述された調査の問いの概要は以下の通り:

1. 思春期の女の子は、気候変動のジェンダー的な影響を自身の生活でどう経験・認識しており、また、彼女たちの仲間の現実の状況はどんなものか
2. 国際・地域・国家・現地レベルの当局に対し、女の子とユース女性は何を望んでいるのか
3. 本調査の一環としてのFPARの採用を、共同調査者はどう経験・認識するのか

第1段階の調査結果に基づき、選定された下位テーマ領域には食料安全保障・教育・SRHRと統合したSGBVからの保護が含まれた。AGYWを変革の積極的な主体として認識することが横断的問題として特定された。

図 1. 下位テーマ領域



## 3.2 共同設計・データ収集・分析

### 3.2.1 共同設計

各国で5名の共同調査者のユース女性と1名の調査メンターが、包摂的なプロセスを経て選定・契約された。プロトコルは複数の利害関係者間協議に基づき設計・改訂された。その後、共同調査者のユース女性は共同設計ワークショップに参加し、プロトコルに記載された調査方法の開発に貢献した。FPAR手法の一環として、それらの国別ワークショップは、協働過程を通じて共同調査者のユース女性とメンターが調査方法(特にプロトコル)の適応・修正への関与を意図していた。データ収集方法は共同設計プロセスにより決定され、開始会議・専用のデータ収集会議・国内共同設計ワークショップを含む協働過程を通じた調査過程の一環として各国状況に合わせてられた。調査質問票やフォトボイスガイド等のツールは、プランの支援のもと、共同調査者のユース女性・メンター・heraチームの協働過程の成果である。例えば、調査質問票(デジタル版ピアツーピア調査)作成のため、初回のワークショップの一環として、heraチームが共同調査者のユース女性に調査質問の作成方法を指導し、彼女たちは一連の質問を作成できた。その後、各国からの全質問をheraチームが統合し、最終版のツールの作成のために再構築した。また、フォトボイスの手引き作成のために、heraチームが手引きの骨格を策定し、共同調査者のユース女性がFGDで実施したい活動を提案する余地を残した。調査方法全体の全ての主要要素(方法・スケジュール感・参加者のAGYWの人数・手法等)は、heraチームが調整した参加型手法の結果であり、真に協働的な調査プロトコルが実現した。全ワークショップ実施前には、ユース女性の安全と幸福に対する潜在的な脅威を特定・軽減するため、保護リスク評価を実施し、プランに倫理承認を申請した。調査過程を通じて、heraチームはFPAR手法が共同調査者とメンターの調査体験に与えた影響に関する匿名データを収集するため、共同調査者のユース女性にアンケートへの回答を依頼した。

### 3.2.2 データ収集

調査プロトコルが確定すると、各国の倫理機関とプランに提出された。倫理審査の承認を得た後、チームは共同調査者のユース女性とメンターに対し、事前データ収集セッションを企画し、各国でデータ収集が開始された。

データ収集は、プランが選定した各国2カ所の安全な場所で行われ、各地域で約5日間行われた(表1参照)。

表 1. 参加者のAGYWのデータ収集場所

	地域	地方自治体
ブルキナファソ	北部	ワヒグヤ
ギニア	キンディアとコナクリ	コイヤとフォレカリア
マリ	セグー	セグーとブラ
ニジェール	ティラベリ	ティラベリとワラム
ナイジェリア	ボルノ	ジェレとコンデューガ

図 2. おおよそのデータ収集地点の位置<sup>o</sup>



1- ジェレ、ナイジェリア/2- コンデューガ、ナイジェリア/3- ティラベリ、ニジェール/4- ワラム、ニジェール/5- フヒグヤ、ブルキナファソ/6- セグー、マリ/7- ブラ、マリ/8- コイヤ、ギニア/9- フォレカリヤ、ギニア

調査の問いを進めるにあたり、データ収集には以下の2つの補完的要素を含めた。

**ピアツーピア調査:** 思春期の女の子への気候変動のジェンダー的な影響と実体験を探るため、共同調査者のユース女性は、安全なデータ収集アプリケーションであるKobo Toolbox10を搭載したモバイル端末を用いてピアツーピア調査を実施した。本調査は、プロセスのまとめ文書の資料で確認できる。

**改良版フォトボイス手法:** 本調査で提案した改良版フォトボイス手法は、視覚的デジタルツールとしてのフォトボイスと、参加型で動的な手法であるPFGDという2つの手法を組み合わせたものである。私たちの調査チームによるフォトボイス手法は、3日間の、以下の4段階から構成された:

- **第1段階:** 共同調査者のユース女性がメンターの支援を受け、PFGDを主導し、活動内容は共同調査者のユース女性とheraチームが作成した一連の活動で構成された。
- **第2段階:** 最大50名の参加者のAGYWの中から、5名~10名が事前に選抜され、フォトボイス手法の第2・3・4段階に以下のように携わった。写真撮影セッションのためにコミュニティに赴く前に、共同調査者のユース女性・メンター・選ばれた参加者のAGYWとのブリーフィングが実施された。
- **第3段階:** 共同調査者のユース女性によって、選ばれた参加者のAGYWと共に、調査テーマに関するフォトボイス/視覚的デジタル手法が実施された。本フォトボイスでは、プランから提供されたタブレット端末を用いて写真を撮影しに行くことが求められた。
- **第4段階:** それら参加者のAGYWは、コミュニティでのフォトボイスセッション参加後に、コミュニティで撮影した写真に基づいた議論を可能にするため、同じ5~10名の参加者のAGYWで、共同調査者のユース女性の進行による写真に基づくFGDに参加した。

調査参加者は、各国で2つの別々のサンプリング枠からプランにより事前に選ばれた。本調査には、量的調査方法(KoboCollect)に472名、質的調査方法(FGDを含むフォトボイス)に391名のAGYWが参加し、計863名のAGYWが対象となった。具体的には、量的調査方法に15～17歳の思春期の女の子279名と18～24歳のユース女性191名の、計472名のAGYWが参加し(表2参照)、質的調査方法に、15～17歳の思春期の女の子200名と18～24歳のユース女性191名の、計391名のAGYWが参加し(表3参照)、本複数国での調査には、計863名のAGYWが参加した。

表 2. ピアツーピア調査(Kobo Toolbox)に参加したAGYWの人数

地方自治体		15～17歳のAGYWの参加者数	18～24歳のAGYWの参加者数	回答を控えた	場所別合計	国別合計
ブルキナファソ	ワヒグヤ	29	23	0	52	52
ギニア	コイヤ	31	18	1	50	100
	フォレカリア	31	19	0	50	
マリ	セゲー	30	20	0	50	100
	ブラ	29	20	1	50	
ニジェール	ティラベリ	29	21	0	50	112
	ワラム	41	21	0	62	
ナイジェリア	ジェレ	31	24	0	55	108
	コンデューガ	28	25	0	53	
全対象国		279	191	2	472 <sup>11</sup>	

交差性という観点では、ピアツーピア調査に参加したAGYWは、障害・慢性疾患・結婚・避難/移住に関する自身の実体験への具体的な質問に回答した。彼女たちの約12%(471名中56名)が障害の実体験を有すると回答し、約24%(470名中115名)が慢性疾患の実体験を有すると回答した。また、約35%(468名中168名)が避難・移住の実体験に言及し、20%(471名中96名)が過去/現在の結婚の実体験に言及し、その中にはCEFMの実体験を有している者もいる。

<sup>11</sup> 調査対象の参加者のAGYW473名の内、ティラベリ(ニジェール)の1名は調査への同意を拒否したため、年齢を含むいかなる質問にも回答せず、調査に参加しなかった。そのため、量的調査方法(Kobo)の参加者のAGYWの数は472名である。

表3. フォトボイス手法に参加したAGYWの人数<sup>12</sup>

地方自治体	15～17歳のAGYWの参加者数	18～24歳のAGYWの参加者数	場所別合計	写真撮影セッションと写真に基づくFGDへの参加者数	国別合計	
ブルキナファソ ワヒグヤ	20	20	40	5	40	
ギニア	コイヤ(Fily)	25	25	50	5	100
	フォレカリア	25	25	50	5	
マリ	セグー	24	20	44	11	83
	ブラ	22	17	39	9	
ニジェール	ティラベリ	20	20	40	5	80
	ワラム	20	20	40	5	
ナイジェリア	ジェレ	24	24	48	7	88
	コンデューガ	20	20	40	6	
全対象国	200	191	391			

### 3.2.3 データ分析

データは、参加者のAGYWの機密性と安全性を考慮したプランのデータ管理・保存・削除に関するグローバル・ポリシーに従って収集・保存・管理された。分析はFPAR手法とも整合する、反復的手法で実施された。heraチームが先行分析を行う間、共同調査者のユース女性とメンターは、2つの目的を持って国内データ解釈ワークショップに参加した。目的の1つは、調査過程の全段階を共同調査者のユース女性が理解できるようデータ分析ツール・方法について彼女たちを訓練するため、参加型手法により共同調査者のユース女性と共にデータを解釈することであった。もう1つの目的は、彼女たちが量的・質的データ解釈の実施・結果の三角測量・主要な提唱活動の成果を通してなど、調査結果の周知活動に取り組むことであった。ワークショップ終了後、heraチームは共同調査者のユース女性とメンターのデータ解釈と三角測量の結果を考慮しつつ、最終分析を実施した。

質的分析は、混合手法分析ソフトウェアMAXQDA<sup>13</sup>を用いて実施された。調査プロトコルで定義された調査の問いと主要なテーマ領域に基づき作成されたコードブックを用いて、質的コード化が完了した。コードブックは、初回のコード化とデータ解釈ワークショップの完了後、調査チームによって改善された。

<sup>12</sup> 調査方法の集約的性質により、改良版フォトボイス手法の参加者は、移住/避難・結婚・慢性疾患・障害に関する自身の実体験について詳細を提供しなかった。だが、ギニアのいくつかの詳細には言及できる: コイヤ(Fily)のユース女性参加者(18～24歳)25名の内、4名が障害者と自認し、3名が移住経験を有していた。同地域の思春期の女の子の参加者(15～17歳)25名の内、6名が障害者と自認し、10名が中途退学していたが職業訓練を受けており、8名が移住経験を有していた。フォレカリアのユース女性参加者(18～24歳)25名の内、3名が障害者と自認し、12名が移住経験を有し、8名が中途退学したが職業訓練(石鹸製造と裁縫)を受けていた。同地域の思春期の女の子の参加者(15～17歳)25名の内、10名が移住経験を有し、15名が中途退学したが職業訓練(石鹸製造と裁縫)を受けていた。

<sup>13</sup> <https://www.maxqda.com/>

結果の信頼性を保証するため、調査チームはコード化された文書に対し、異なる人物による同一文書のコード化を比較するコーダー間信頼性を検証した; 具体的には、全調査者が同一文書を各々コード化した後、それらをMAXQDAに一括入力し自動的なコーダー間信頼性分析を実施した。良好な信頼性値を維持するため、改善版コードブックを用いて、これは再度実施された。チームメンバーの文書のコード化で適切な合意レベルが達成された後、コードブックを確定し最終コード化が実施された。確定版コードブックは、PFGD・フォトボイスのFGD・調査の自由回答式の回答から得られた質的データをコード化した。それらテーマ領域横断的な傾向を探るため、各種コードマトリックス・ブラウザ/コード間関係ブラウザ/コードマップ機能等のMAXQDAの様々な機能が使用され、データ分析で計58文書がコード化された。それらの分析機能で、調査対象全文書と国家間のコードとテーマの交差関係を示すデータが与えられた。

量的分析はExcelのピボットテーブルを用いて実施し、ピアツーピア調査結果変数の記述統計を生成した。データ可視化技術を用いて関連変数のチャートやグラフを作成した。分析前にデータは整理・匿名化された。

本報告書はheraチームが作成し、共同調査者のユース女性・メンター・複数レベルのプランチームへ審査のために提出された。本報告書は、協働的かつ参加型手法により得られた成果である。

### 3.3 制限事項と困難

本調査の第2段階でサヘル地域の5カ国を対象とした決定は、第1段階の調査結果に基づく十分に根拠のあるものだったが、政治的不安定な状況下の国々での活動には特有の制約がある。AGYWに対する保護と安全の評価および適切な対応がなされるように求められる努力と調整の程度から、データ収集は特定の場所に短期間滞在可能な参加対象者のAGYWに限定された。回答者バイアスは、あらゆる調査、特に様々な不平等が交差する気候変動のような問題に関する調査には、伴う可能性がある。気候変動の開始時点が定まっていないため、参加者のAGYWが気候変動に起因するものと、ジェンダー不平等・社会的規範・汚職・人道危機・紛争・貧困等、他の社会・経済・政治的問題に起因したものの区別が困難であった可能性がある。この回答者バイアスは本調査特有のものではないが、潜在的な偏りを理解する上で言及する価値がある。ただし、本報告書はAGYWの声を中心に据えた、様々な視点からこのテーマを扱うことを試みている。

FPAR手法は本質的に、伝統的な調査手法より長い時間を要する。これは様々な利害関係者との協働を通じて権力階層を打破するという調査手法としての強みである一方、真に参加型にするには時間を要するため、時間とリソースが限られている場合には問題ともなり得る。本調査は、利用可能な時間とリソースに適応するため、改良版FPAR手法を採用した。例えば、共同調査者のユース女性はFPAR手法の研修や研究設計・データ解釈の協働のための様々な参加型ワークショップに参加した際、調査チームはそれらのセッション向けに特化したコンテンツを提供して、彼女たちに対して体系的な支援と指導を行ったが、理想的には、調査チームは調査プロトコルを完全に共同執筆する等、彼女たちとより多くの時間を共にするべきであった。しかし、調査のスケジュール感と、AGYWの安全確保・保護・協働に関連する、特に脆弱な環境下で、特有の制約が関与の枠組みを決定づけた。また、各国当局からの倫理承認取得や、本調査に特化した予算・管理プロセスの設計において、多くの遅延が生じた。

2年間の本調査過程で全ての利害関係者が示した適応の程度は、教訓であると同時に、類似の参加型活動に関与する意向を持つアクターへの提言でもある。

## 4 政策構築

### 4.1 気候変動に対する政策構築<sup>14</sup>

過去数十年にわたり、世界の気候変動対策の体制は進化し、普遍的な参加と排出削減に対する各国の責任の重さの違いが議論の中心となっている。1988年、世界気象機関と国連環境計画はIPCCを設置し、気候変動に関する知識の最新状況の定期的な科学的評価を政策決定者に提供することとなった<sup>15</sup>。1990年の第1回評価報告書は、国連気候変動枠組み条約(UNFCCC)交渉のための科学的根拠を提供した<sup>16</sup>。

今日、「共通だが差異のある責任」の原則がUNFCCCの最重要要素とされ、全ての国が気候変動に対応するという共通の義務を負うが、責任の度合いには差異があると認識している。1997年の京都議定書が先進国間で絶対排出量上限を配分する軽減中心の「トップダウン」の策であったのに対し、2015年のパリ協定は「ボトムアップ」の合意であり、全ての締約国が軽減への貢献義務を盛り込んだ国が決定する貢献(NDC)の提出が求められている。それらのNDCは5年毎に更新され、更新版は常に高い目標を掲げるものでなければならない。後発開発途上国は気候変動に対して特に脆弱であることを踏まえ、国家適応行動計画を自発的に作成している。パリ協定に基づく国別適応報告書は、各国が実施する適応行動の現状を把握する機会を提供している<sup>17</sup>。

### 4.2 地域的人権体制とそのジェンダー的側面

私たちの調査が採用を目指す、人権に基づくジェンダーと気候正義に対する手法の一環として<sup>18</sup>、以下の図は大陸・地域レベルでの女の子の権利・ジェンダー平等・気候正義を認める地域的人権枠組みの概要を示す。

<sup>14</sup> 気候変動政策の構造に関するセクションは、第1段階の報告書から引用したものである: Thebaud-Bouillon-Njenga, Nastasia & Diop Sall, Fatou, & Schmidt, Alice. (2022). *Climate Change and Girls' Rights in the Sahel: A Gender Analysis in 10 Sahelian Countries*. heralのプランに対する最終報告書。

<sup>15</sup> "History of the IPCC"、以下にて入手可能:  
[https://www.ipcc.ch/about/history/#:~:text=The%20Intergovernmental%20Panel%20on%20Climate%20Change%20\(IPCC\)%20was%20established%20by,UN%20General%20Assembly%20in%201988.](https://www.ipcc.ch/about/history/#:~:text=The%20Intergovernmental%20Panel%20on%20Climate%20Change%20(IPCC)%20was%20established%20by,UN%20General%20Assembly%20in%201988.)

<sup>16</sup> "History of the IPCC"、以下にて入手可能:  
[https://www.ipcc.ch/about/history/#:~:text=The%20Intergovernmental%20Panel%20on%20Climate%20Change%20\(IPCC\)%20was%20established%20by,UN%20General%20Assembly%20in%201988.](https://www.ipcc.ch/about/history/#:~:text=The%20Intergovernmental%20Panel%20on%20Climate%20Change%20(IPCC)%20was%20established%20by,UN%20General%20Assembly%20in%201988.)

<sup>17</sup> IISD "Global Climate Change Governance: The search for effectiveness and universality" (2020) :  
<https://www.iisd.org/articles/deep-dive/global-climate-change-governance-search-effectiveness-and-universality.>

<sup>18</sup> OHCHR "Human Rights, Climate Change and Migration in the Sahel" (2021): <https://www.ohchr.org/sites/default/files/2021-11/HR-climate-change-migration-Sahel.pdf>.

### 人及び人民の権利に関するアフリカ憲章

- 第2条: 非差別原則
- 第9条: 情報を得る権利ならびに意見を表明し普及させる権利
- 第16条: 間接的に食料を得る権利を含む、健康を享受する権利
- 第17条: 教育を享受する権利
- 第24条: 適切な環境を享受する権利

### アフリカ子どもの権利及びおよび福祉に関する憲章(ACRWC)とアフリカ子どもの権利と福祉に関する委員会(ACERWC)

- 第3条: 非差別原則
- 第5条: 生存および発達に関する生存権
- 第11条: 環境教育を含む教育を享受する権利
- 第14条: 十分な栄養および安全な飲料水を含む、健康を享受する権利
- 第16・21・27条: 保護を受ける権利
- 気候変動と子どもの権利に関する作業部会が現在、アフリカユース憲章(2009年)を含む、アフリカで気候変動が子どもの権利に与える影響に関する調査の最終段階を行っている:
- 第11条: ユースの参加
- 第13条: 教育および技能開発の機会を享受する権利
- 第16条: 健康を享受する権利
- 第19条: 持続可能な開発と環境保護
- 第23条: 女の子とユース女性への差別撤廃

### アフリカの女性の権利に関するマプト議定書

- 第2条(1): 非差別
- 第4条: 生命・完全さ・安全を享受する権利
- 第12条: 教育を享受する権利
- 第14条: 健康を享受する権利および生殖に関する権利
- 第15条: 食料安全保障および水を得る権利
- 第18条: あらゆるレベルでの環境計画・管理・保全および天然資源の持続可能な利用への女性の参加権を含む、健康的で持続可能な環境を享受する権利
- 第19条: 持続可能な開発を受ける権利; これは、国家が国家開発計画策定過程へのジェンダーの視点の盛り込み・計画策定に対する女性の意思決定への関与の保証・女性の自然/生産資源の利用と管理の強化・女性の融資/訓練/技能開発/拡大したサービスの利用の強化に対する義務を負うことを意味する

+ 交差的視点(女の子・障害を持つ女性・未亡人)

## 西アフリカ諸国経済共同体(ECOWAS)

西アフリカ水資源政策(2008年)やECOWAS環境政策・気候戦略(2022年)等の、全体的な気候変動政策に加え、ECOWASは気候変動対策としての具体的戦略として「ECOWAS災害リスク軽減ジェンダー戦略および行動計画」(2020～2030年)を2019年に策定しており、そこでは、気候危機により強化されるジェンダー不平等の分析時と、ジェンダーに配慮した解決策を提示する際に、女の子に特定した言及がなされている。2022年の第66回国連女性の地位委員会を反映し、ECOWASは、WACAのUN Womenと国連開発計画地域事務所と連携し、加盟国のジェンダー・女性の権利の専門家と担当大臣による地域協議を開催した。その後、地域・国家レベルでの具体的行動を採択するため、ジェンダー・気候変動・リスク軽減に関する実現計画が策定された(KIIで得られた情報)。同実現計画は7つの主要目標を掲げている(KIIで得られた情報):

- 気候政策・戦略・プログラムへのジェンダーの盛り込み;
- グリーン経済への移行において女性を中心に据える;
- 生物多様性の保全・持続可能な食料と農業の仕組みに対する女性の役割の強化;
- 医療や家庭内/コミュニティ労働での無償労働と女性の社会的保護の認識;
- 気候変動による移住・避難におけるジェンダー的視点の考慮;
- SGBVの撲滅と、紛争予防と平和の確立に向けたジェンダーと気候変動に配慮した手法の構築;
- 気候変動に関する討論会と防災・減災での女性の声・参加・行動・リーダーシップ発揮を支援する。

過去数年にわたり、気候変動に関する他のECOWAS会議やワークショップも開催されているが、本調査の範囲内での政策実施の程度の評価はできなかった。

## 中部アフリカ諸国経済共同体(ECCAS)

ECCASは、ジェンダーと気候変動の相互関連性を示す政策枠組みを有し、「リスク予防・災害管理・気候変動への適応に関する中央アフリカのジェンダーに配慮した地域戦略実施行動計画」(2012年採択、2020年までに改訂)を通じて、それらに対応する全体的な実現計画を提供している。それには気候変動とジェンダーの明確な関連性や、女の子と男の子への影響の差異に関して言及がなされ、気候変動への適応策での女の子の意思決定の強化を明確に目指している。

準地域には、中央アフリカ気候変動適用・予測センターと、各国に1つの担当窓口を持つ、中央アフリカリスク軽減・災害管理地域監督委員会も設置されている。

## G5サヘル

G5サヘルジェンダー政策の最終草案は、2022年6月にチャドで議論された。草案文書のレジリエンスのセクションでは、気候変動への具体的な言及がされている。最終版は2022年7月に発表される予定であった。

### 4.3 気候変動とジェンダーの主要指標

以下の表は、国際的に承認された指標を用いて、本調査の対象国5カ国の、気候変動に対する脆弱性と政策・実践でのジェンダー平等の概要を示しており、それには以下が含まれる:

- **EUの災害リスク管理知識センターのINFORM気候変動リスク指標(2024年更新)<sup>19</sup>:** 人道危機や災害に関連するこの量的分析は、人道支援/開発部門の組織・ドナー・技術パートナーなどの複数の利害関係者の討論会により開発された。楽観的・悲観的な気候変動の展開予想に基づき、現在・将来の気候変動状況とリスクをマッピングするものである。
- **ノートルダム大学世界的適応の取り組み(ND-GAIN国別指標、2023年5月更新)<sup>20</sup>:** これは、気候変動の影響への対応に対する準備の程度を組み合わせ、気候変動に対する各国の脆弱性の概要を提供しており、数字で構成される表に各国の適応の程度を示す値(0~100)で示される。
- **OECDの社会制度とジェンダー指数(SIGI、2023年更新)<sup>21</sup>:** 法律・社会的規範と慣行・ジェンダー不平等の要因の評価によって、社会制度での女性への差別を測定する。

表 4. 主要指標と統計

国	災害リスク・気候変動に対する脆弱性・耐久度指標		ジェンダー指標			
	INFORM 気候変動の現在のリスク (0~10)	ND-GAIN 気候変動適応度 (0~100) <sup>22</sup>	SIGI、2023年 低[20~30] 中[30~40] 高[40~50] 極めて高い[50~100]			
	0 = リスクなし 10 = 最も リスクが 高い	0 = 適応性がない 100 = 最高の適応度	家庭内の差別 (婚姻・離婚に関する 家族法や規範など)	身体的 完全性の 制限 (SGBV など)	生産的・金融 資産の 利用可能性(経済的 権利など)	市民的自由の 制限(女性の 自由と権利など)
ブルキナ ファソ	7 極めて 高い	37.6 高い脆弱性と 低い準備 体制度	29.2 低い	23 低い	29.8 低い	19.1 低い
ギニア	4.9	38.1	56	28.6	33.6	13.1

<sup>19</sup> INFORM Climate change tool (2024)、以下にて入手可能: <https://drmkc.jrc.ec.europa.eu/inform-index>.

<sup>20</sup> ND-GAIN Country Index (2020, updated in May 2023)、以下にて数字で構成される表が入手可能: <https://gain.nd.edu/our-work/country-index/matrix/>.

<sup>21</sup> SIGI Index (2023)、以下にて入手可能: <https://www.genderindex.org>。以下にてデータエクスプローラーが入手可能: [https://data-explorer.oecd.org/vis?tm=DF\\_SIGI\\_2023&pg=0&snb=1&vw=tb&df\[ds\]=dsDisseminateFinalDMZ&df\[id\]=DSD\\_SIGI%40DF\\_SIGI\\_2023&df\[ag\]=OECD.DEV.NPG&df\[vs\]=&lo=5&lom=LASTNPERIODS&dq=..&ly\[cl\]=MEASURE&ly\[rw\]=REF\\_AREA&to\[TIME\\_PERIOD\]=false](https://data-explorer.oecd.org/vis?tm=DF_SIGI_2023&pg=0&snb=1&vw=tb&df[ds]=dsDisseminateFinalDMZ&df[id]=DSD_SIGI%40DF_SIGI_2023&df[ag]=OECD.DEV.NPG&df[vs]=&lo=5&lom=LASTNPERIODS&dq=..&ly[cl]=MEASURE&ly[rw]=REF_AREA&to[TIME_PERIOD]=false)

<sup>22</sup> <https://gain.nd.edu/our-work/country-index/matrix/>

国	災害リスク・気候変動に対する脆弱性・耐久度指標		ジェンダー指標			
	INFORM 気候変動の現在のリスク (0~10)	ND-GAIN 気候変動適応度 (0~100) <sup>22</sup>	SIGI、2023年 低[20~30] 中[30~40] 高[40~50] 極めて高い[50~100]			
	0 = リスクなし 10 = 最も リスクが 高い	0 = 適応性がない 100 = 最高の適応度	家庭内の差別 (婚姻・離婚に関する 家族法や規範など)	身体的 完全性の 制限 (SGBV など)	生産的・金 融資産の 利用可能 性(経済的 権利など)	市民的自由の 制限(女性の自 由と権利など)
	高い	高い脆弱性と 低い準備 体制度	極めて高い	低い	中度	極めて低い
マリ	6.7 高い	34.6 高い脆弱性と 低い準備 体制度	69.4 極めて高い	55.6 極めて 高い	38.8 中度	44.9 高い
ニジェール	6.7 高い	35.5 高い脆弱性と 低い準備 体制度	84.1 極めて高い	33.8 中度	84.1 極めて 高い	22.9 低い
ナイジェリア	6.6 高い	38.5 高い脆弱性と 低い準備 体制度	56.5 極めて高い	28.5 低い	35.4 中度	46.9 高い

国際赤十字赤新月社連盟「World Disasters Report 2020: Come heat or high water. Tackling the humanitarian impacts of the climate crisis together」P.362-363(2020年)の手引きに基づき作成された表。最上位の指標が強調表示されている。

#### 主要指標と統計に関する表4の主要事項:

- INFORM気候変動データによると、気候変動に対する脆弱性と適応能力・努力の比較結果として、対象国の4カ国(ギニア・マリ・ニジェール・ナイジェリア)が高いリスク、1カ国(ブルキナファソ)が極めて高いリスクに直面している。
- ND-GAIN国別指標によると、気候変動の影響の程度とその対応に対する準備の程度を比較した際、全調査対象国が気候変動への適応度が世界で最も低い30カ国に含まれている。
- 主に社会的・法的枠組みでのジェンダー差別を測定する、SIGI指標の最新版(表4)によると、ジェンダー不平等の程度は5カ国それぞれで異なり、また考慮される権利の種類も異なる。CEFMの合法性に関する法律等、家族法と慣行でのジェンダー差別は、5カ国中4カ国(ギニア・マリ・ニジェール・ナイジェリア)で極めて高い水準である。

生産的・金融資産の利用可能性は制限されており、特にニジェール(極めて高い)・ギニア(中度)・マリ(中度)・ナイジェリア(中度)で顕著である。ジェンダーによる市民的自由の制限は少なく(だがマリとナイジェリアでは高い)、身体的完全性の制限も少ない(だがマリは極めて高い)。SIGIは主に法制度を対象としており、政策や規定の実際の実施状況には重きが置かれていない。全5カ国で、ジェンダー関連の法制度の施行が未だ問題となっている。

## 5 複数国に関する文献レビュー: 第1段階の調査結果の要約

第1段階報告書は、女の子とユース女性の実体験と気候変動の影響が彼女たちの権利に及ぼす影響に重点を置いた、サヘル地域での気候危機のジェンダー的な影響に関する調査プロジェクトの第1段階の調査結果をまとめたものである。調査の第1段階の対象国10カ国は、ブルキナファソ・カメルーン・チャド・ガンビア・ギニア・モーリタニア・マリ・ニジェール・ナイジェリア・セネガルであった。調査の第1段階は公開文献のレビューが中心だったが、調査結果を補完・検証するため複数国で1回のKIIを実施した。文献レビューの調査結果は、女の子とユース女性の実体験・気候変動の影響の受け方・気候変動に対するレジリエンスについて深く掘り下げることを目的としたFPAR手法で構成される第2段階の調査方法と構造の構築に対し、私たちのチームにとって強固な基盤を提供した。

### 5.1 影響

サヘル地域の危機は多面的で、深刻なジェンダー関連の要因と結果を孕んでいる。入手可能な文献によれば、ジェンダー不平等と規範により、準地域での多面的な危機の影響を最初に受けるのは女性と女の子としている。だが、女の子とユース女性、それどころかジェンダーや女性に対してでさえ、気候変動が与える具体的な影響に関しては、対象国に特化した文献の中に確固たる証拠基盤がなく、記録が不十分か、仮説的ないしは曖昧であった。細分化データの全般的な不足が、深い交差的分析を困難にした。対象文献では、一般的な気候変動の影響への言及はされているが、必ずしも女性と女の子に焦点を当ててはおらず、サヘル地域に関してはなおさらであった。

**リソースの入手:** 文献では、土地・水・エネルギー・食料等のリソースの女性の入手可能性が最も頻繁に言及された。土壌の貧困化・リソース不足・水不足が、女性の経済的困難を増大させる主な問題として特定された。

**安全性と保護:** 気候変動と地域の安全保障危機は相互に強化し合っている。気候危機と安全保障危機の深刻化、特にブルキナファソ・チャド・マリ・ニジェール、の関連性が確認された。また、紛争や気候変動による避難が、SGBVとCEFMの発生件数を増やしていることも示された。

**移住:** 入手可能な情報から、サヘル地域での気候変動・紛争・大規模移動・女の子とユース女性の移住の関連性が判明した。気候変動により頻度と甚大さが増している異常気象は、一時・永久的な国内・国外避難を招き、環境悪化やリソースをめぐる争いが、男女に依らず人びとに移動を強いているという。

**教育:** 女子教育と気候変動の関連性については、証拠基盤が、特にサヘル地域では、不足している。だが、人道危機下での女子教育に対する障壁に関しては、十分に記録されている。

本調査の第2段階の目的は、AGYWの権利と生活に重点を置くことで、調査の空白を埋めることである。

## 5.2 政策枠組み

大多数の国で、主導的な政府アクターは環境・持続可能な開発省、またはそれに類似するものである。省庁間協議会や委員会が存在する国もある。気候変動とジェンダーの関連の特定の担当窓口に関する情報は乏しい。

大多数の国の最新の気候変動対応政策には、女性の脆弱性・権利・責任をある程度考慮しているという意味で、ジェンダー要素が含まれている。その程度は、NDC文書内にジェンダーに特化したセクションの設定や、政策文書全体へのジェンダー主流化等、様々である。また、女性のレジリエンス・主体性・意思決定での必須の役割と対比し、彼女たちの脆弱性がどの程度政策内で強調されているかについても、各国で差がみられた。

しかし、大多数の国の政策枠組みで、気候変動の文脈における女の子とユース女性の権利は明示的に言及されていなかった。彼女たちへの言及がされていても、焦点はレジリエンスや気候変動の軽減・適応での主体性ではなく、依然として、彼女たちの脆弱性に当てられていた。ナイジェリアとチャドは顕著な例外であった。

大多数の国の気候変動対応政策で、ジェンダー問題は少なくともある程度扱われていたとはいえ、多くの国家ジェンダー政策は、環境保護について言及している場合でも、気候変動に無関心であった。第1段階の調査チームが検証できた大多数のジェンダー政策では、「気候変動」という用語ですら言及されていなかった。例えばナイジェリアのジェンダー政策は、「ジェンダー・環境・天然資源」に関する小節を含むにもかかわらず、気候変動への言及は全く、これはガンビアも同様である。ギニアでも、ジェンダー政策での気候変動への言及は大幅に欠けている。

対象国の多くは、国別行動計画(NAP)とNDC文書の策定に、女性組織を含む市民社会代表者が関与したとされている。だが、国家アクターから彼らの関与の程度や質に関する情報はほぼ得られなかった。ジェンダー視点が組み込まれていた場合でも、そうした政策枠組みの実施が別の問題として挙げられた。

多くの国で、気候変動とジェンダー平等の関連性とあらゆる女の子とユース女性の特定の権利とレジリエンスとの統合の点で、政策枠組みには改善の余地がかなり残されている。ブルキナファソやギニア等の国では、NDCやNAP等の政策文書にジェンダーをどう統合すべきかを十分に分析するため、政策枠組みの評価が行われ、調査が実施・委託されている。また、詳細な予算情報は大幅に欠如していた。

## 5.3 利害関係者とプログラムのマッピング

プランの国別戦略とプログラムを検証し、プランの戦略が気候変動を考慮しており、国別事務所レベルで主に気候変動の影響への対応・適応を目的としたプログラムがいくつか存在することが判明した。プランだけでなく、UN Women等の国際機関・AU等の大陸規模組織・ECOWAS等の地域組織・国内の利害関係者など、幅広い利害関係者が気候変動に関する調査・提唱活動・対策行動に関与しており、それらの取り組みにジェンダー要素が様々な程度で統合しており、女性の権利に留まらない交差的な視点からジェンダー問題に取り組むものの中にはあるが、気候変動の女の子への影響に対応しているものは皆無である。

ユース主導の取り組みは認められ、実際にはより多く存在する可能性が高いが、可視化されていない。本調査の第1段階により、具体的なプロジェクトが特定された。

プランのAOGDIに基づき、第1段階の報告書では主要テーマ(教育・健康・保護・ユースの雇用と起業・SRHR・主体性)に沿った追加分析結果を示し、分析の補完とともに第2段階で重点的に取り組む主要テーマ領域を特定した。第1段階で作成され、第2段階の調査結果により改善された詳細な利害関係者のマッピングは、本報告書のAnnexe2で確認可能。

## 5.4 第1段階からの提言

本調査の第1段階で、気候変動対応政策・プログラムから女の子の権利が大幅に欠落しており、彼女たちの多様性を考慮していないことが判明した。それは、気候変動に関する議論や活動への女の子の権利の統合を推進するため、プランが今後の調査・提唱活動・プログラム策定への道筋を拓く必要性を示していた。また分析は、女の子と女性の主体性とレジリエンスを重要な要素とする考慮の欠如を明らかにし、彼女たちを気候変動対策の積極的な推進者であるという認識を高めるべき、と提言を示した。本調査では、今後の連携・連合構築・共同提唱活動・プログラムの取り組みにつながり得る、気候・環境分野ならびにジェンダー・女性/女の子の権利分野での何人かの利害関係者を特定した。

本調査の第1段階は、第2段階に向けた提言を示し、AGYWの主体性・レジリエンス、影響のみでなく交差性に焦点を当て、特に主要テーマ領域(食料安全保障・教育・SRHR・SGBV)の選定を強調した。

本報告書に調査の第2段階の複数国での調査の結果が示されている。対象国の調査結果を強調するため、国別概要が分析に盛り込まれている。

## 6 サヘル地域での気候変動のAGYWに対するジェンダー的な影響: FPARによる複数国の調査結果(第2段階)

*調査の問 1: AGYWは、気候変動のジェンダー的な影響を自身の生活でどう経験・認識しており、また、彼女たちの仲間の現実の状況はどんなものか*

### 6.1 気候危機下のAGYW: 知識・経験・影響を受けた権利・満たされないニーズ

参加者のAGYWとの調査テーマに関する深い探求を行う前に、共同調査者のユース女性は、彼女たちの気候変動に関する知識の程度と、彼女たち自身がその理解に至る理由について尋ねた。「気候変動とはあなたにとって何を意味しますか」という問いに対し、5カ国の調査参加者のAGYW(サンプル数は表x参照)は、気候変動には気候関連の現象が含まれると指摘した。具体的には、不規則な降雨の傾向(降雨量の増加/減少による洪水)・季節の乱れ・猛暑・海面上昇・砂漠化・汚染や森林伐採等の環境悪化等が挙げられた。

また、農業や食料安全保障への影響・生活費の上昇と貧困の増加・慢性疾患/汚染関連疾患/水系感染症等の健康問題の増加・AGYWが経験する困難の増加等が、気候変動の影響として指摘された。

対照的に、参加者のAGYWの何人かは、気候変動の原因や影響の範囲に関する全般的な理解の不足と、気候変動とその影響に不確かさを感じていると述べた。この状況は、彼女たちが気候変動の影響を経験していながら、彼女たちへの気候変動教育が限られていることが、それらの問題が気候変動に関連していると認識するのを妨げていることを明示している。気候変動に関する情報の入手源を尋ねたところ、調査参加者のAGYWの20%(n= 95)が気候変動に関する情報を持っておらず、49%(n= 229)が気候変動に関する情報を多く求めていると回答した。彼女たちは様々な情報源から情報を得ていると述べた。共同調査者のユース女性は、この知識不足の原因として、気候変動への啓発の欠如、特に学校教育での(例外としてブルキナファソでは学校のカリキュラムに組み込まれているとの言及があったが)、および地球規模の問題である気候変動と、彼女たちの生活での特定の分野(食料・水・健康・保護等)の問題を関連付ける難しさを挙げた。

質的分析は、調査対象全体でAGYWが最も頻繁に特定または議論した気候変動関連の問題が、異常気象、特に過度の降雨・気温上昇・干ばつの長期化であることを示した(表3参照)。調査結果も、AGYWが自身のコミュニティ内で「問題」とされた気候変動関連事象の発生頻度における同様の傾向を示した(図4参照)。

調査チームは、調査対象にギニアを含めたため、海面上昇と海岸浸食が調査結果で顕著になると予想していた。ギニアとナイジェリアの参加者のAGYWはコミュニティにおける懸念事項として、海面上昇(n= 17、n= 11)と海岸浸食(n= 4、n= 28)を挙げた。だが、参加者のAGYWが沿岸地域に直接居住しておらず、共同調査者のユース女性はそれらの概念がAGYWにとって理解が複雑であったと指摘しており、それがギニアで得た回答に影響したためか、それらへの言及は少なかった(0.4%、2.0%)。沿岸地域は当初、データ収集地域に選定されていたが、共同調査者のユース女性の安全のため、沿岸地域内とはいえ海岸からやや離れた他の2地点が優先的に選ばれた。

気候変動関連の問題に対する認識が2つの年齢枠間で異なりを示したことは、特筆すべき点である。例えば、15~17歳は18~24歳より洪水や豪雨に対する強い懸念を示した。この違いはAGYW間の危険の認識や危険にさらされる形の違いを反映しており、今後も調査が必要である。

表 5. 対象全体の質的データでの頻度表 - 言及がみられるFGDと質的調査データ文書の件数<sup>23</sup>

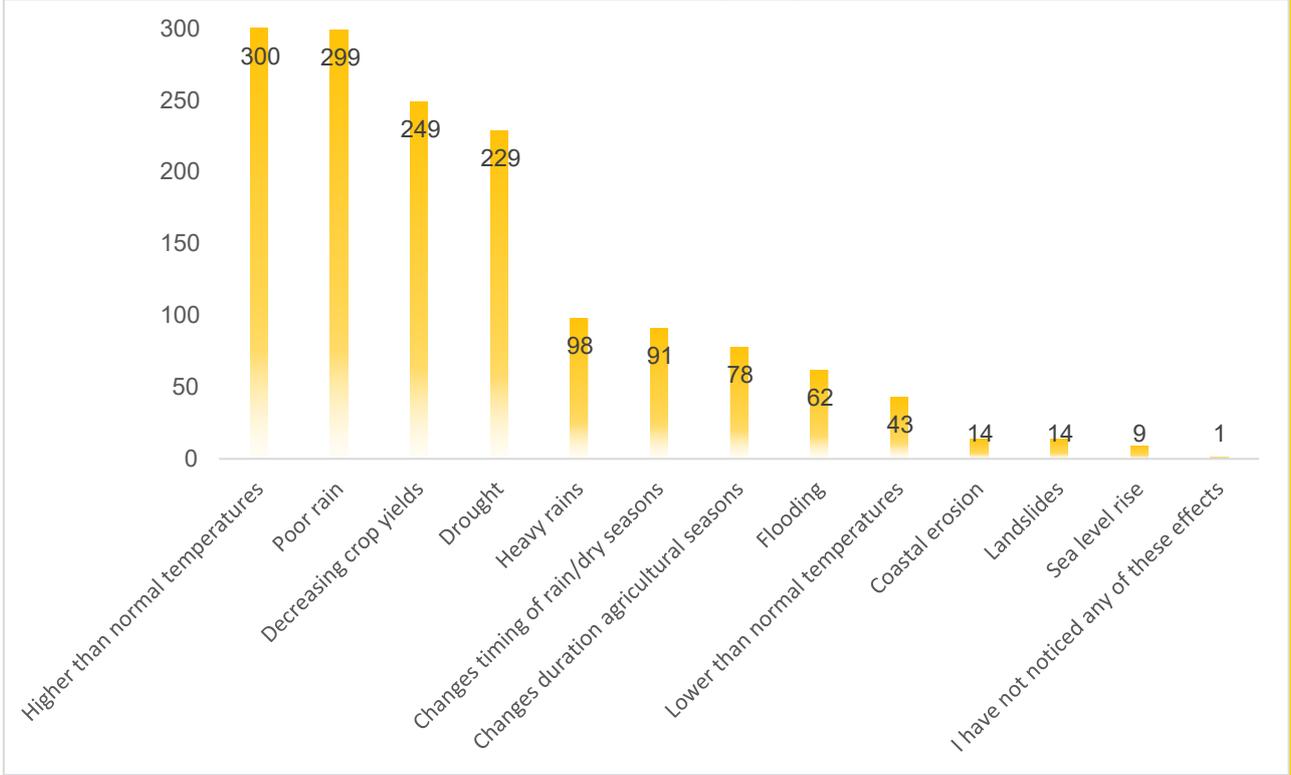
	マリ	ギニア	ニジェール	ブルキナファソ	ナイジェリア	合計
<b>国毎のコード化した文献数(n)</b>	<b>11</b>	<b>18</b>	<b>11</b>	<b>6</b>	<b>12</b>	<b>58<sup>24</sup></b>
異常気象	100% (n=11)	100% (n=18)	100% (n=11)	100% (n=6)	100% (n=11)	98% (n=57)
過度の降雨	100% (n=11)	78% (n=14)	100% (n=11)	100% (n=6)	91% (n=10)	90% (n=52)
猛暑	82% (n=9)	56% (n=10)	100% (n=11)	100% (n=6)	73% (n=8)	76% (n=44)
干ばつ	91% (n=10)	61% (n=11)	73% (n=8)	100% (n=6)	64% (n=7)	72% (n=42)
洪水	55% (n=6)	61% (n=11)	18% (n=2)	17% (n=1)	100% (n=11)	53% (n=31)
強風	82% (n=9)	28% (n=5)	18% (n=2)	0	0	28% (n=16)
砂嵐	9% (n=1)	0	9% (n=1)	0	55% (n=6)	14% (n=8)
食料安全保障への脅威	82% (n=9)	100% (n=18)	100% (n=11)	100% (n=6)	100% (n=11)	95% (n=55)
健康被害	91% (n=10)	100% (n=18)	91% (n=10)	100% (n=6)	100% (n=11)	95% (n=55)
水	100% (n=11)	100% (n=18)	45% (n=5)	100% (n=6)	100% (n=11)	88% (n=51)
教育の影響	82% (n=9)	78% (n=14)	91% (n=10)	100% (n=6)	100% (n=11)	86% (n=50)

<sup>23</sup> 詳細なコードブックとコードの定義は、本報告書のAnnex 4に掲載されている。

<sup>24</sup> MAXQDAを用いて58件の文献を分析したが、複数の参加者のAGYWからのデータが各書き起こしに含まれている点に留意すること。複数国での調査の複雑性と作業に割り当てられた時間の制約のため、絶対サンプル数の頻度による質的データの分析は不可能であった。しかし、全体的なテーマは絶対サンプル数ではなく、調査対象全体にみられた傾向により最も適切に表現されることが、質的分析においては標準的な手法である。

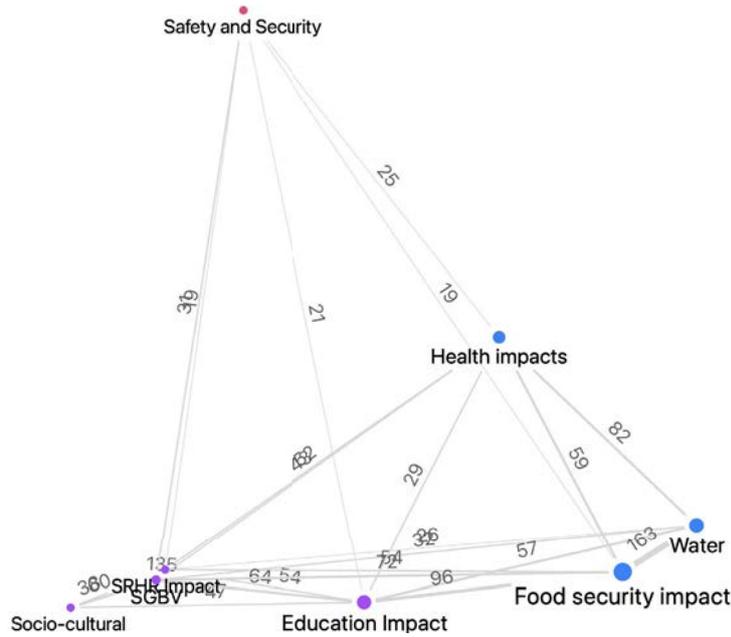
	マリ	ギニア	ニジェール	ブルキナファソ	ナイジェリア	合計
国毎のコード化した文献数(n)	11	18	11	6	12	58 <sup>24</sup>
環境悪化と所有物破壊	100% (n=11)	100% (n=18)	27% (n=3)	100% (n=6)	82% (n=9)	81% (n=47)
安心と安全	82% (n=9)	67% (n=12)	82% (n=9)	83% (n=5)	100% (n=11)	79% (n=46)
社会経済的影響	64% (n=7)	61% (n=11)	100% (n=11)	67% (n=4)	82% (n=9)	72% (n=42)
SGBV	36% (n=4)	67% (n=12)	91% (n=10)	100% (n=6)	82% (n=9)	71% (n=41)
社会文化的/ジェンダー/ コミュニティ規範	45% (n=5)	50% (n=9)	64% (n=7)	100% (n=6)	82% (n=9)	62% (n=36)
SRHRへの影響	18% (n=2)	44% (n=8)	91% (n=10)	83% (n=5)	27% (n=3)	48% (n=28)

図 5. AGYWのコミュニティに影響を与える異常気象に関する調査結果(n= 472)



文献間でコードがどう交差しているのかを調べるため、コードマッピング分析を実施した。マップ上でコードが近いほど、参加者のAGYWが頻繁に併せて議論していたことを示す。コード化の結果、気候変動の影響を最も受ける権利は、食料と水資源の安全保障・健康・教育を享受する権利であると示され、また、それらの気候変動の影響はAGYWにとって、農業生産量の減少・食料入手への影響・同地域のジェンダー不平等や社会的規範と関連する貧困と食料不安の深刻化が直接的な原因となる、CEFMや性的搾取によるSGBVやSRHRの侵害を悪化させる。本調査でAGYWが頻繁に議論した他の2つのテーマは、主に不適切な固形廃棄物処理と大気汚染による環境悪化と、洪水等の甚大な気候災害による所有物破壊であった。それらテーマは調査結果から自然に現れたもので、環境悪化に関する質問は含まれていなかった。参加者のAGYWは、住居の外に捨てられた廃棄物の散乱と気候変動を関連付け、人びとが意図せずに周辺環境を汚染しているという。これは、ゴミで埋まった河川等の環境悪化による気候変動の影響の甚大化、特に洪水発生時、を招き、これは特にギニアでみられた。

図 6. 主要なテーマ領域の分析



調査結果は、参加者のAGYWは気候変動により自身のニーズが部分的に満たされていないと感じていることを示した(図6参照)。大多数の参加者のAGYW (n= 376)が食料・水・教育のニーズが満たされていないとし、次いで気候変動への適応のための経済的支援(n= 212)・心理社会的支援(n= 110)・情報提供(n= 102)が挙げられた。国毎の状況の傾向は類似していたが(図7参照)、実体験に関するデータを検討すると顕著な違いが認められた(図8参照)。避難/移住を経験した参加者のAGYWの気候変動による満たされないニーズが、最も高いことが判明した(図9参照)。

図 7. 気候変動によって満たされないニーズの調査結果

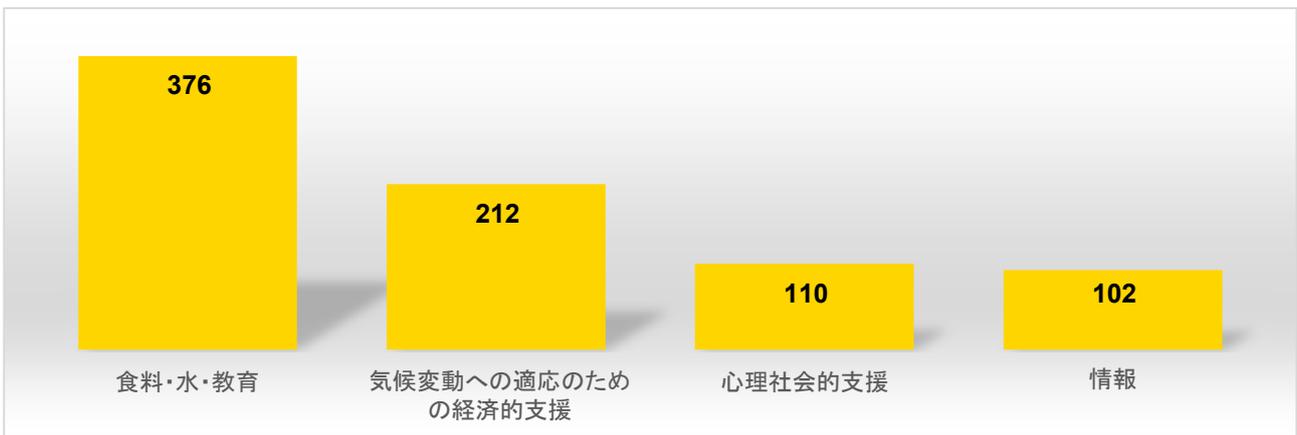


図 8. 気候変動によって満たされないニーズの国別の調査結果(n= 472)

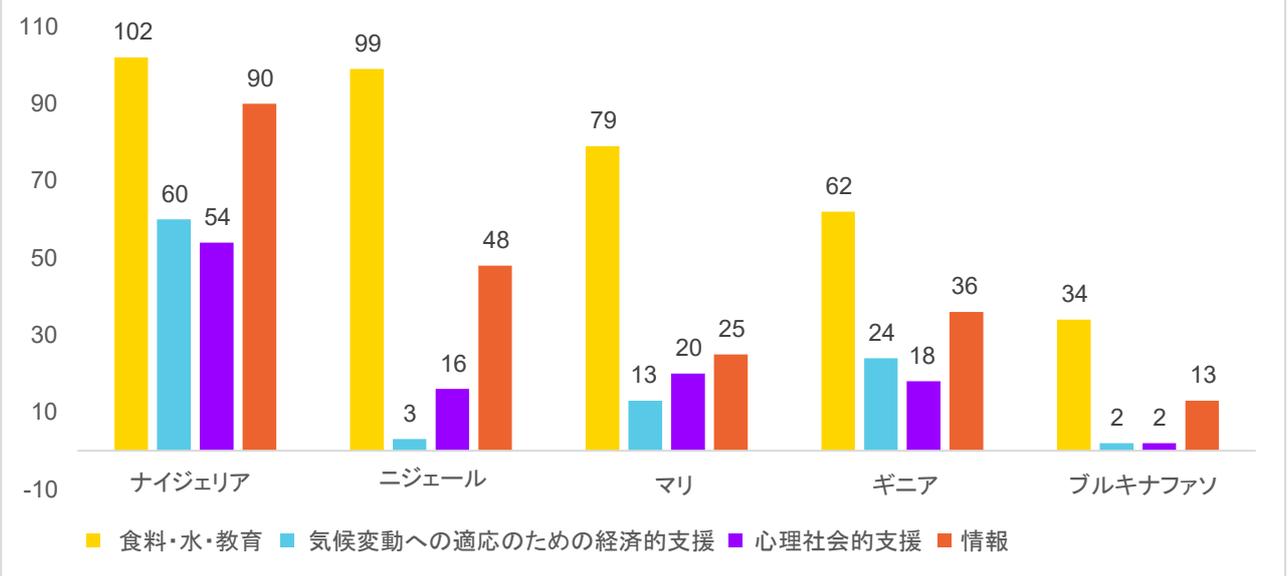


図 9. 気候変動によって満たされないニーズの実体験別の調査結果

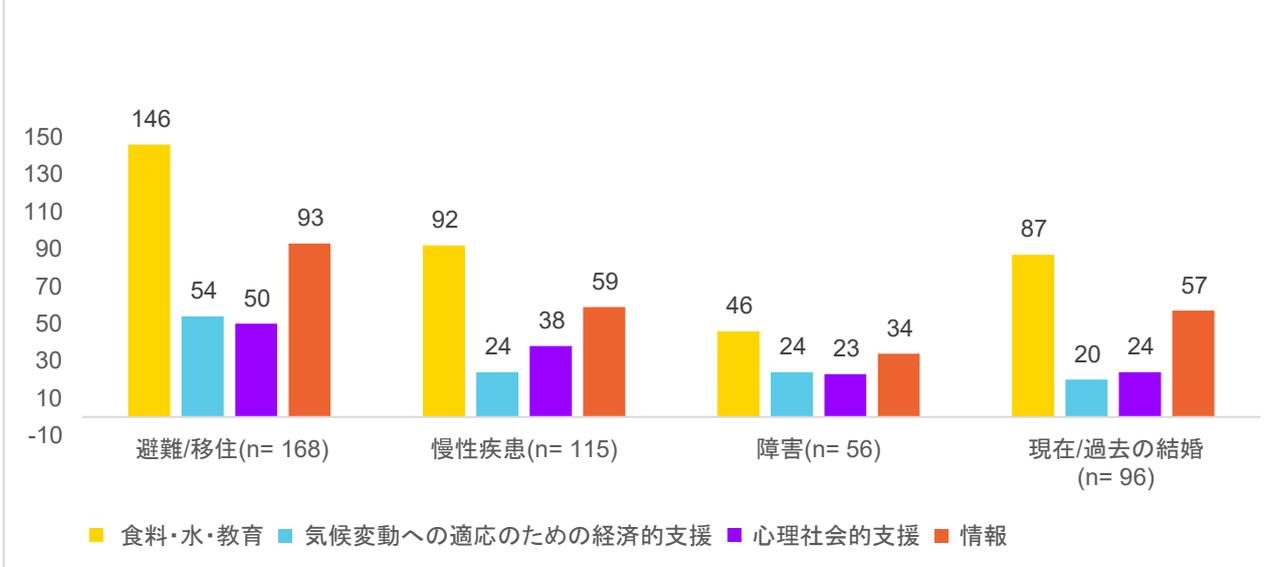
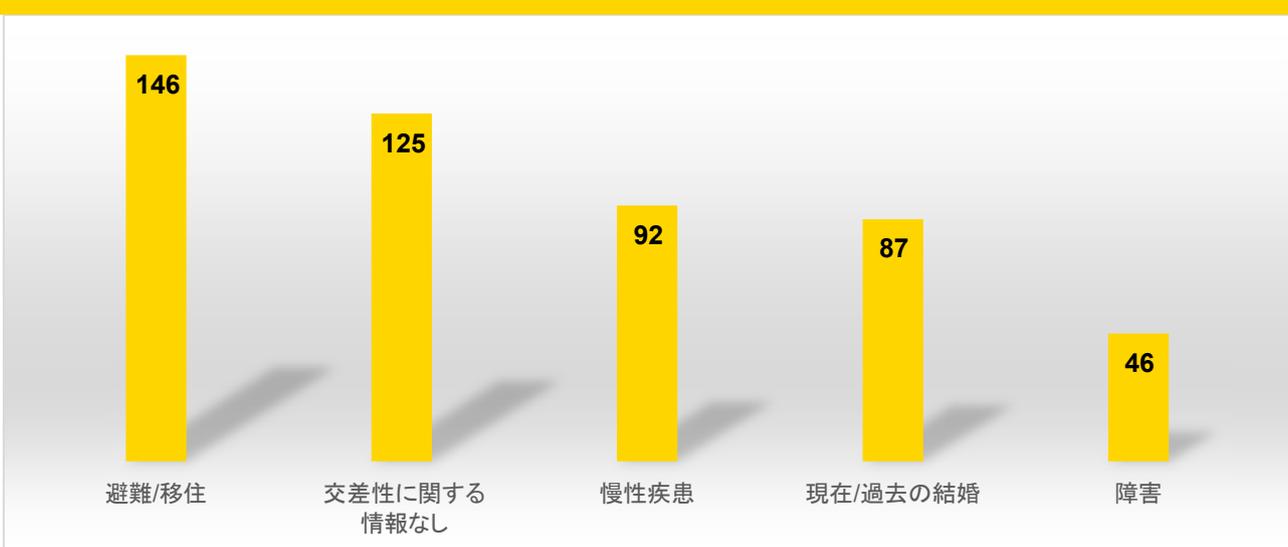


図 10. 気候変動によって満たされないニーズ(食料・水・教育)の実体験の特徴別の調査結果(n= 472)



大多数の調査対象者が、彼女たちが参加している具体的な活動に関する質問に対し、家事と回答し、次いで水汲みと食事の準備を挙げた(図10参照)。参加者のAGYWの多く(59%)が、気候変動による異常気象が農作業の乱れや経済的困難の増大と関連しており、それが、それらの活動に影響を与えているとも認識していた。水や薪の入手の困難化とそうした影響が、水汲みや薪集めの責任を負うことが多いAGYWの家事への参加に直接的影響を与えた。また、SGBVに関する安全上の懸念が活動を阻害し、AGYWの生活資源を求める長距離移動の危険性を高めた。

実体験の交差性を検討すると、参加者のAGYW70%が移住/避難を経験し、気候変動が自身の活動に影響を与えたとした。そして、同質問に対して障害を持つ参加者は66%、慢性疾患を患う参加者は60%、現在/過去の結婚経験がある参加者は58%が影響を与えたとし、一方それらの実体験を全く持たない参加者は54%がそうであるとした(図11参照)。

ギニアで、AGYWが最も挙げた活動は家事であり、15~17歳の回答者60名と18~24歳の回答者31名がそう回答した(約90%)。この高い家庭内労働従事率は、社会的・ジェンダー規範によるAGYWの時間的・エネルギー的負担を増大させ、環境的ストレス要因への適応能力や教育・経済的機会の追求を制限しているため、気候変動の文脈において特に注目すべき点である。

図 11. AGYWが参加する活動の調査結果(n= 472)

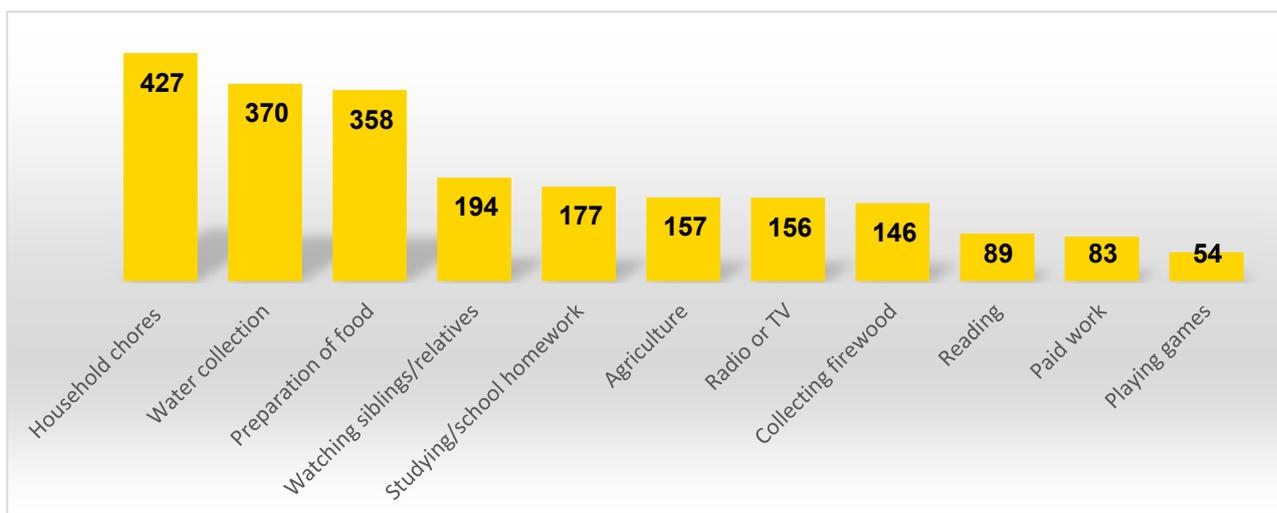
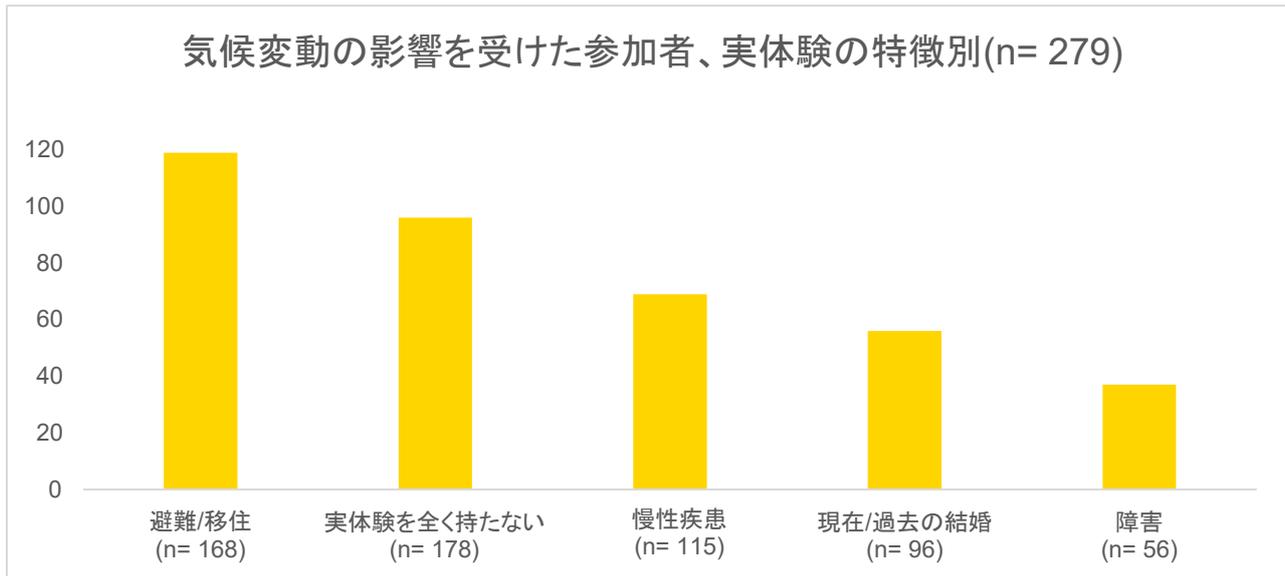


図 12. 気候変動で影響を活動が受けた実体験別の参加者のAGYWの内訳



### まとめ

- 参加者のAGYWの間で、「気候変動」に関する知識・理解の程度にばらつきがみられた
- 調査対象者全体で異常気象の事例が挙げられた
- 参加者のAGYWの食料・水・教育を享受する権利とニーズは、国に依らず気候変動の影響で満たされていない
- ニーズが満たされていないと訴えた参加者の多くは、避難/移住・慢性疾患・現在/過去の結婚・障害の経験を持つとした

## 6.2 サヘル地域のAGYWの食料を得る権利に気候変動が与える影響

分析データによると、最も重大な影響を受けている領域の1つは食料安全保障で、これは食料に対する人権を侵害するものである。

アプリケーションKoboCollectを通じて参加者のAGYWに回答して対もらったアンケートでは、食料安全保障の簡単な定義が彼女たちに示された: 国連では、「食料不安に置かれている人物とは、正常な成長・発達と活発で健康的な生活のために、安全で栄養価の高い食料を安定して十分に摂取できない人物を指す。それは、入手可能な食料の欠如や食料を入手するためのリソースの欠如に起因する場合がある」としている<sup>25</sup>。この定義は、食料を得る権利の3つの主要な構成要素の提示につながっている: 「供給可能性(十分な食料がある)・入手可能性(皆が食料を得られる)・適切性/質(食べることが可能で、栄養価が高い)」<sup>26</sup>。また、文献の中で持続可能性も食料を得る権利の重要な構成要素と認識されるように現在になっており、レジリエントで持続可能かつ環境にやさしい食料供給体制により、現在・将来の世代の食料を得る権利を保証する必要性が訴えられている。

<sup>25</sup> 国連の定義。

<sup>26</sup> 調査プロトコル。

KoboCollectアンケートには、食料安全保障に関する具体的な質問が含まれた。共同調査者は、食料安全保障への何らかの影響を認識しているかを、可能性のある影響の一覧を用いて尋ね<sup>27</sup>、また、食料や水に関するそれらの問題が、特に自身のコミュニティのAGYWに影響を与えているかも尋ねた。加えて、食料と水に関するそれらの問題が、自身のコミュニティでの気候変動に関連していると感じるかを説明する機会も与えた。FGDでも、参加者に気候変動の食料安全保障への影響に関して質問がなされた。

当初のアンケートとFGDプロトコルでは、質問の重複化を避けるため、水を食料安全保障に含める判断がなされたが、水関連の問題に対する回答・説明が多数認められたため、研究チームは分析・報告書作成にてそれらを個別の問題にすることを決めた。従って、本セクションは、気候変動のAGYWの食料を得る権利への影響に関する回答の分析の統合結果を扱い、次のセクションでは彼女たちの水を得る権利に焦点を当てる。

### 6.2.1 AGYWが地域で経験・目にしている深刻な食料不安

調査対象者全体のAGYWによれば、食料安全保障は気候変動と関連しているという。共同調査者のユース女性によるマリでのデータ解釈によると、ブラとセグーで調査回答者の91%が、彼女たちのコミュニティで、人びとが日常生活で、特に飲料水と食料の入手に関して、直接的な影響を実感しており、食料と水に関連する問題は気候変動と関連していると回答した<sup>28</sup>。ブルキナファソでは、調査回答者の86%が食料・水関連の問題は気候変動と関連していると回答し<sup>29</sup>、共同調査者のユース女性は、ワヒグヤでの食料安全保障に関する量的・質的データを解釈し、河川や貯水池の枯渇・雨水の分配不備・結果としての農業生産量の低下が気候変動の影響と考えられていると説明した<sup>30</sup>。

本調査対象者のAGYWは、気候変動の影響を受ける領域で、食料安全保障が彼女たち自身・他のAGYW・コミュニティ全体にとって、最も深刻な影響を受けていると認識していた。

---

<sup>27</sup> 回答の選択肢は以下の通り:

- a. 食料品価格が大幅に上昇した
- b. 地元で生産される食料量が減少している
- c. 食料入手が困難になっている
- d. 農家は食料生産の慣行の変更を求められている
- e. 良質の食品の入手が困難になっている
- f. 家庭で利用できる水が減っている
- g. 家庭で利用する水の質が低くなっている
- h. その他(具体的に)
- i. それらの影響を認識していない

<sup>28</sup> マリの共同調査者とメンターのチームによる量的・質的データの解釈。マリのKoboCollectによる量的データでは、回答者99名中91名が、食料・水関連の問題は気候変動と関連すると回答した。

<sup>29</sup> ブルキナファソのKoboCollectによる量的データ。

<sup>30</sup> ブルキナファソの共同調査者とメンターのチームによる量的・質的データの解釈。

## 「私たちは満たされてなく、食べて飲むために苦しんでいるのです」

思春期の女の子の参加者(15～17歳)<sup>31</sup>、ワヒグヤ、ブルキナファソ

今回の分析で全文献でのコード頻度に着目すると、「食料安全保障への影響」が最も頻繁に使用されていたコードであり、分析した質的データでは約95%で使用されていた。例えば、ギニアの共同調査者のユース女性のデータ分析では、MAXQDA 分析で生成されたコードクラウドが、食料と水の安全保障が AGYW の生活における優先問題であり、気候変動と強く関連していることを示唆している<sup>32</sup>。分析した 58 件の文書(FGDの記録・Kobo 回答・写真に基づいた FGDの記録)の内、55 件で、食料安全保障が問題として認識されている箇所が認められた。例えば、ブルキナファソ・ニジェール・ギニアでの全文書で食料安全保障が問題として言及されていた。私たちのチームがコード化した全箇所、10%が食料安全保障・栄養不良・農業生産量の減少に関連していた。

調査回答者のマリの約86%・ブルキナファソの78%・ニジェールの77%が、食料と水に関連する問題が特にAGYWに影響を与えているとした<sup>33</sup>。ブルキナファソでは、共同調査者が食料安全保障に関する量的・質的データを解釈し、思春期の女の子は食料・水関連を含む家事の大部分を担っているため、気候変動の食料と水への影響により悪影響を受けており、それが出席率・集中力等の学習や発達にも影響を与え、必然的に成功の可能性を低下させていると説明した<sup>34</sup>。マリの参加者との議論から、飢餓と慢性疾患が特にAGYWが気候変動の影響を結果となっていることが判明した<sup>35</sup>。

## 「子どもの多くがもう学校に行かなくなりました。毎日食べ物や水を探しに行かなければならず、戻った時には、授業時間が終わっているのです」

思春期の女の子の参加者(15～17歳)<sup>36</sup>、コンデューガ、ナイジェリア

また、前セクションで言及した通り、本調査参加者のAGYWは、気候変動による/関連する彼女たちが経験した直接的で頻発する問題として、異常気象、特に降雨・猛暑・干ばつを挙げた。それらの気候変動に関連する異常気象は、食料を得る権利と食料安全保障に直接的・間接的につながっている。事実、そうした異常気象は、農業生産の生産量減少・破壊・生産物の質の低下を招き、それが、食料の供給可能性・入手可能性・適切性・持続可能性に直接的な影響を及ぼしている。それは、生計手段にも影響を与え、AGYWに生命の危険を伴う採掘作業等、代替的な生存手段を強いている。

## 「ええ、ユース女性の多くが生計を立てるために炭鉱へ行くのです」

思春期の女の子の参加者(15～17歳)<sup>37</sup>、ブラ、マリ

---

<sup>31</sup> ピアツーピア調査参加者。

<sup>32</sup> ギニアの共同調査者とメンターのチームによる量的・質的データの解釈。

<sup>33</sup> ニジェール・ブルキナファソ・マリのKoboCollectによる量的データ。調査回答者は、ニジェールでは110名の内85名が、マリでは99名の内86名が、食料・水関連の問題が特にAGYWに影響を与えているとした。

<sup>34</sup> ブルキナファソの共同調査者とメンターのチームによる量的・質的データの解釈。

<sup>35</sup> マリの共同調査者とメンターのチームによる量的・質的データの解釈。

<sup>36</sup> ピアツーピア調査参加者。

<sup>37</sup> ピアツーピア調査参加者。

ジェンダー不平等と組み合わせ、CEFMや性的搾取による、AGYWへのSGBVの深刻化とSRHRの欠如がみられた。

**「気候変動が、女の子と女性に食料を得るために自身の身体を売る状況を生んでいます」**

ユース女性の参加者(18~24歳)<sup>38</sup>、コンデューガ、ナイジェリア

図 13. 荒廃した土地のフォトボイス写真

写真説明: 共同調査者のユース女性による写真、フォレカリア、ギニア

共同調査者のユース女性による説明: 「かつてその土地は農地として使われていましたが、(過度な)降雨のため、荒廃してしまいました。人びとが耕作したとしても、何も得ることはできないのです。それで、完全に放置されてしまっています」



## 6.2.2 AGYWとその家族の食料を得る権利の全ての構成要素が気候変動の影響を受けている

### 食料の供給可能性

食料の供給可能性に関し、AGYWは2つの主要な気候変動関連要素が農業生産性と収穫量の減少を招いていると特定した: 1つは不規則で不十分な降雨と長期の干ばつであり、もう1つは過度の降雨量と洪水である。それらの不規則な降雨傾向・長期の干ばつ・猛暑は、参加者のAGYWがいるサヘル地域での農業生産量の大幅な減少を引き起こした。

**「私たちのコミュニティの経済は農業に依存していて、雨不足で農作物の収穫量が残念にも年々減少しているので、彼女たち(AGYW)は経済的に不安定で、彼女たちの家族も貧しいです」**

ユース女性の参加者(18~24歳)<sup>39</sup>、ブラ、マリ

<sup>38</sup> ピアツーピア調査参加者。

<sup>39</sup> ピアツーピア調査参加者。

図 14. 一部が枯れている木のフォトボイス写真

写真説明: 共同調査者のユース女性による写真、セグー、マリ

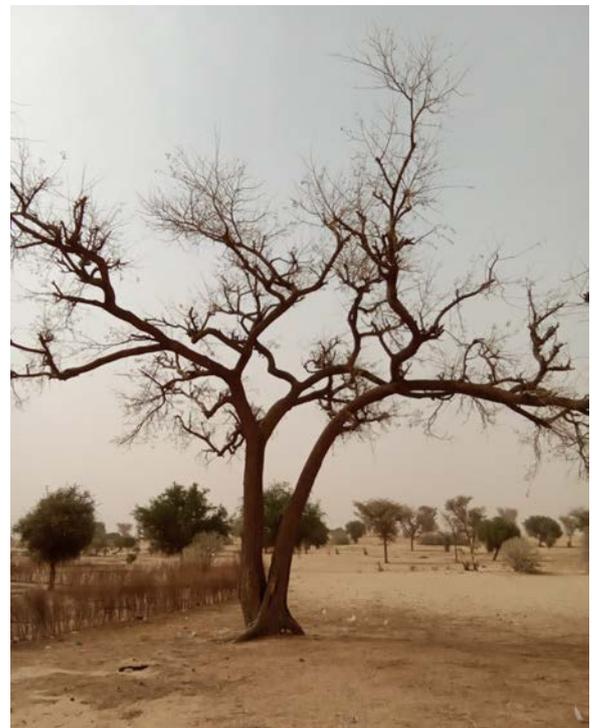
参加者のAGYWと共同調査者のユース女性による説明: 「この写真は、気候変動が乾季に樹木に及ぼす影響を示しています。木の一部は花を咲かせていますが、別の部分は枯れ果てています」



図 15. 枯れた木のフォトボイス写真

写真説明: 共同調査者のユース女性による写真、ワラム、ニジェール

共同調査者のユース女性による説明: 「この木は、この地域の現実と気候変動のこれらの木々への影響を示しています。かつてその木の葉はコミュニティと動物の両方に恩恵を与えてきましたが、今日この木は急速に変わり果ててしまい、コミュニティの生活に悪影響が出ています」



例えばギニアでは、AGYWが食料供給量の減少が食料不安につながっている指摘した。参加者のAGYWは、食料生産量の減少・農家の生産方法の変更・良質な食料の入手困難さの深化に言及した<sup>40</sup>。ブルキナファソでは、AGYWが降雨不足と干ばつによる農業生産量の減少を説明し、それが食料不安を招いていると述べた。ナイジェリアでは、降雨不足・干ばつ・洪水による作付け不能状態が食料生産に影響を与えていると説明がされた。ニジェールでは、不規則な降雨・干ばつ・猛暑等の気候変動の影響による農業生産性の低下にAGYWは明確に言及し、それらは作物の不作や収穫量の減少につながっている。マリでは、不規則な降雨傾向が収穫量に影響を与えており、降雨不足は農業生産量の減少・生産物の質の低下・収穫物の生産困難・作物の生育不良を招く一方、過度な降雨も作物の損失を引き起こす。

<sup>40</sup> ギニアの共同調査者とメンターのチームによる量的・質的データの解釈。

ブルキナファソとニジェールのデータも食品の不足を示唆していた<sup>41</sup>。質的データの共同調査者のユース女性の解釈によると、ブルキナファソの食料安全保障は、洪水・季節の変化の乱れ・異常気象による特定の動物の消滅の影響を受けているという<sup>42</sup>。その2カ国のデータはまた、耕作可能な土地の女性の利用と融資の困難さも示唆していた<sup>43</sup>。

### 「雨不足で干ばつが起き、それが作物の栽培を困難にし、大変な労力が必要になります」

思春期の女の子の参加者(15~17歳)<sup>44</sup>、ワヒグヤ、ブルキナファソ

AGYWは農業季節の期間の変化にも言及した。例えばブルキナファソでは、農業季節の変化により耕作と収穫がどんどん困難になっているという。ギニアのAGYWは降雨傾向・気温・農業季節の変化による農業生産量の減少を指摘した。ナイジェリアでは、食料安全保障に必要な魚類や他の水産物の喪失も挙げられた。ニジェールではニジェール川等、水源の枯渇が言及され、ブルキナファソでは放牧地と水の不足による家畜の飼育維持の困難さを訴える声が上がった。動物もまた、猛暑や洪水等の異常気象に苦しんでいる。

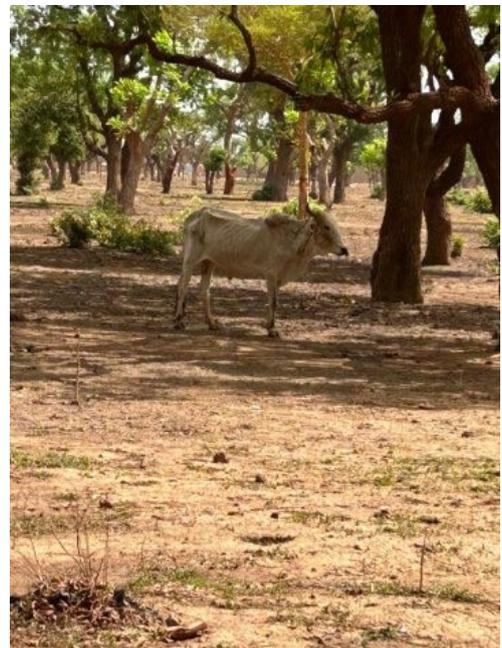
### 「動物たちは昨年の洪水で流されてしまいました」

ユース女性の参加者(18~24歳)<sup>45</sup>、ブラ、マリ

図 16. まわりに新鮮な草が全くない牛のフォトボイス写真

写真説明: 共同調査者のユース女性による写真、ワヒグヤ、ブルキナファソ

共同調査者のユース女性による説明: 「干ばつの頻発化は動物にも深刻な影響を与えています。主な食料源である新鮮な草が獲得困難になっており、彼らも苦しんでいます」。



41 ブルキナファソの共同調査者とメンターのチームによる量的・質的データの解釈。

42 ブルキナファソの共同調査者とメンターのチームによる量的・質的データの解釈。

43 ブルキナファソとニジェールの共同調査者とメンターのチームによる量的・質的データの解釈。

44 ピアツープピア調査参加者。

45 FGD参加者。

図 17. 干ばつによる土壌劣化のフォトボイス写真

写真説明: 共同調査者兼参加者のユース女性による写真、ティラベリ、ニジェール

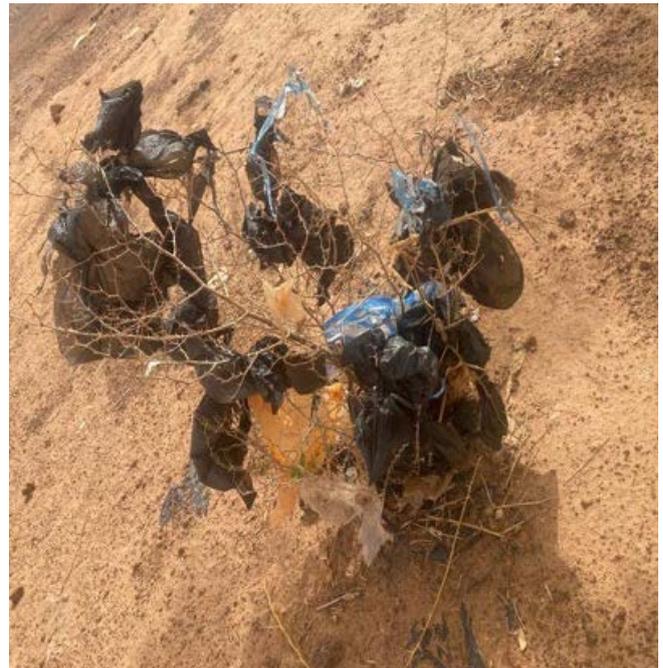
参加者のAGYWと共同調査者のユース女性による説明:「土壌劣化。この土壌はかつて肥沃でしたが、降雨量の減少で干ばつ状態に陥り、作物の収穫量が減少しています」



図 18. プラスチック廃棄物による土壌劣化のフォトボイス写真

写真説明: 共同調査者のユース女性による写真、ワヒグヤ、ブルキナファソ

参加者のAGYWと共同調査者のユース女性による説明:「廃棄物、特にプラスチック廃棄物の不適切な処理による、人間が気候変動を助長した証拠を示すために、この写真を撮りました。それらが土壌への水の浸透を妨げ、時間の経過とともに耐久力の低い植物を枯死させ、それが土壌劣化に至らせます」



### 食料の入手可能性

食料の入手可能性には、物理的可能性(食料を手にする可能性)と経済的可能性(直接生産する手段または食料を購入する経済力)が含まれる。本調査から、気候変動の影響と関連する複合的危機(経済的・人道的・避難)が組み合わさり、食料への物理的可能性と経済的可能性の両方が阻害されていることが判明した。例えばニジェールでは、調査回答者の76%が過去3年間で食料の入手が一層困難になったという<sup>46</sup>。

**「私たちも十分な食べ物が手に入りません。前は種を蒔けば、収穫して家族のために料理できると期待できましたが、今はどんな食料も入手が困難です」**

思春期の女の子の参加者(15~17歳)<sup>47</sup>、ワヒグヤ、ブルキナファソ

<sup>46</sup> ニジェールのKoboCollectによる量的調査回答者112名の内86名。

<sup>47</sup> FGD参加者。

過酷な気候条件下での食料の供給可能性・生産の維持に関する前述の困難さは、食料不足と食料価格の高騰を招き、栄養価が高く購入可能な価格の食料の入手が経済的にどんどん難しくなっている。例えば、調査回答者のギニアでは96%、ニジェールでは92%、マリでは86%が、過去3年間で食料価格が大幅に上昇したと回答した<sup>48</sup>。マリとブルキナファソでは、農業生産量の減少により特定の食品が不足し、食料価格が上昇したため、良質な食品は経済的に入手不可能になっているとAGYWは指摘した。ブルキナファソでは、共同調査者のユース女性が食料安全保障に関する量的・質的データを解釈し、降雨量の少なさが収穫量の低下を招き、それが価格上昇につながっていると説明した<sup>49</sup>。

**「気候変動で収穫量が減少し、十分な食料を得ることが難しく、食料は不足し、市場ではあらゆる物が高くなっています」**

ユース女性の参加者(18~24歳)<sup>50</sup>、コイヤ、ギニア

**「食料の価格は上昇し、私たちの農園も不作で、自身を養うのが困難になっています」**

ユース女性の参加者(18~24歳)<sup>51</sup>、フォレカリア、ギニア

ギニアでは、AGYWが洪水等の気候変動の影響による食費の増大と食料の価格高騰を訴え、家族が栄養価の高い食事を享受することがどんどん困難になっていると述べた。ナイジェリアでは、AGYWがコミュニティで、適切で栄養価の高い食料の入手困難が深化し、食料を購入・入手する能力の欠如が重なり、食料不安と栄養不良を招いていることを目にしていた。ニジェールのAGYWは、経済的理由で十分な食料等の基本的ニーズを満たせないため、1日の食事回数を減らす対処法に頼らざるを得ない状況を説明し、また、気候変動の生計や収入への影響、特に農民・女性・魚を含む食品販売を主な収入源とする人びとへの、を家族やコミュニティ全体で経験していると述べた。収入減少はAGYWの家族の生計と経済的やり繰りに影響を与え、彼女たちの基本的なニーズや権利が重大な影響を受けている。ギニアのAGYWは、気候変動が彼女たちの母親を含む女性農家や食品販売業者の生計と収入獲得を妨げ、結果として家族や自身の食料購入能力が損なわれている現実を語った。

物理的可能性の観点では、洪水や豪雨が食料不安の主要な要因であることが確認され、それらは生産(食料の供給可能性)だけでなく、道路の利用不能化・道の冠水・雨天時の食品販売営業不可・交通の混乱等により、物理的な食料の入手可能性にも影響を及ぼす。また、食料入手のための高温下での歩行移動は健康への危険を伴うことから、猛暑も食料の入手に対する障壁として挙げられた。

**「雨が降ると、家が浸水し道路も冠水して、歩くことが不可能になります」**

思春期の女の子の参加者(15~17歳)<sup>52</sup>、コイヤ、ギニア

食料の適切性・持続可能性の点に関し、ブルキナファソでは、作物の保護のための農薬使用の増加が健康問題を引き起こしているのを、AGYWが目にしていった。ナイジェリアとニジェールでは、気候変動の影響による土壌の貧困化で食料生産が影響を受けていると説明がされた。

<sup>48</sup> ギニア・ニジェール・マリでのKoboCollectによる量的調査回答者112名の内104名。

<sup>49</sup> ブルキナファソの共同調査者とメンターのチームによる量的・質的データの解釈。

<sup>50</sup> FGD参加者。

<sup>51</sup> FGD参加者。

<sup>52</sup> ピアツーピア調査参加者。

ギニアでは、AGYWが食料の質の低下を指摘し、それが食料不安と栄養不良につながっているとした。

**「以前はしませんでした、今は農作物を守るために農薬を使っていて、それで、最近では病気になる人が多過ぎることを認識しています。私たち(AGYW)はまだ若いのに、大人が罹る病気を患っていて、その治療はとても難しいです」**

ユース女性の参加者(18～24歳)<sup>53</sup>、ワヒグヤ、ブルキナファソ

高温は食品の腐敗の加速化をも招き、調理や保存を一層困難にさせている。ブルキナファソでは、猛暑のため、過去は使用していなかったため化学保存料なしでは食品保存が現在困難である、と参加者のAGYWは述べた。マリでも参加者のAGYWが、猛暑で食品の腐敗が加速化しているため保存・維持の困難さを訴えた。

**「時々食欲がなかったり、良質な食べ物を食べられず、暑さで食べ物もすぐに腐ってしまいます」**

思春期の女の子の参加者(15～17歳)<sup>54</sup>、セゲー、マリ

マリでは、参加者のAGYWは、野菜が高価で時に入手困難なため食料の多様性が欠けていること、暑さによる食欲不振について語り、それら全てが健康に影響を与えていると訴えた。ギニアでは、参加者のAGYWが汚染された/低品質な食品の摂取による健康への悪影響を強調した。ニジェールでは、栄養不良・栄養価の低い食品への依存・健康問題の関連性が指摘された。

**「もちろん新鮮な野菜を見つけるのが困難で、それらが高額であることは、私の生活の質を低くしました」**

ユース女性の参加者(18～24歳)<sup>55</sup>、セゲー、マリ

作物の収穫量減少は食料不安を深化させ、それが思春期の女の子や妊婦に影響を及ぼす栄養不足の発生につながる。収穫量減少による栄養不足は、AGYWの健康と発達に長期的な影響を及ぼし得る。

**「良質な食料の入手は困難で、井戸も干上がっていて、思春期の女の子の中には栄養失調に陥っている人もいます」**

思春期の女の子の参加者(15～17歳)<sup>56</sup>、ブラ、マリ

ギニアの共同調査者のユース女性は、FGD参加者のAGYWが、ニーズを満たすため、質が低く、熟れていない食品を収穫してすぐ売りさばかなければならない、と説明したと述べた<sup>57</sup>。また彼女たちは、多くの製品がギニアに輸入されているとも説明した<sup>42</sup>。加えて、参加者のAGYWが、汚染されたりゴミが堆積した池や小川周辺で農産物を栽培・販売している女性もいることに言及したことを共同調査者のユース女性は回想し、衛生面・食品安全上に疑念を持ったという<sup>58</sup>。

---

<sup>53</sup> FGD参加者。

<sup>54</sup> FGD参加者。

<sup>55</sup> FGD参加者。

<sup>56</sup> ピアツーピア調査参加者。

<sup>57</sup> ギニアの共同調査者とメンターのチームによる量的・質的データの解釈。

<sup>58</sup> ギニアの共同調査者とメンターのチームによる量的・質的データの解釈。

加えて共同調査者は、FGDである思春期の女の子が、主に女性である食品販売者は豪雨の際は販売できず、食品を翌日まで保管するため、雨季に売られている食品の質は低く、罹患の原因となっている(食用に適さない腐敗した魚等)、と述べたことにも言及した<sup>59</sup>。ブルキナファソのデータも食品品質の低下を示唆している<sup>60</sup>。

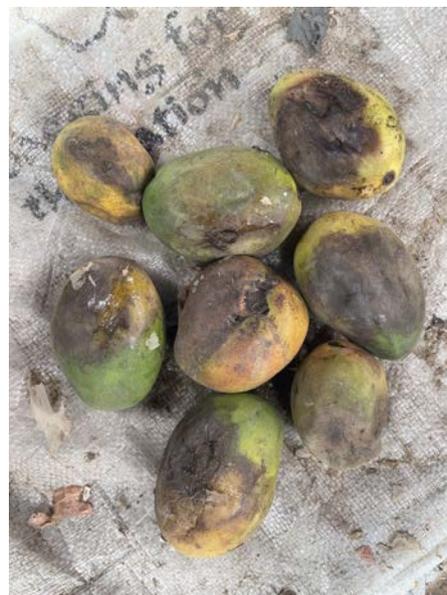
**「食料を見つけるのはほぼ不可能で、大変高価で質が低いことは、私たちに重大な影響を与えています」**

ユース女性の参加者(18~24歳)<sup>61</sup>、セゲー、マリ

図 19. 気候変動による気温上昇が及ぼすマンゴーの貯蔵と品質への影響のフォトボイス写真

写真説明: 共同調査者兼AGYW参加者のユース女性による写真、ワラム、ニジェール

参加者のAGYWと共同調査者のユース女性による説明: 「腐ったマンゴーは気候変動による猛暑を反映しています。猛暑は保存の仕組みの欠如による食料損失を生み、コミュニティで食品がその状態で販売され、健康被害を引き起こす可能性があるため、食料安全保障に影響を及ぼす可能性があります」



<sup>59</sup> ギニアの共同調査者とメンターのチームによる量的・質的データの解釈。

<sup>60</sup> ブルキナファソの共同調査者とメンターのチームによる量的・質的データの解釈。

<sup>61</sup> FGD参加者。

図 20. 気候変動による気温上昇が及ぼすバナナの木への影響のフォトボイス写真

写真説明: 共同調査者兼参加者のユース女性による写真、ティラベリ、ニジェール

参加者のAGYWと共同調査者のユース女性による説明:「このバナナ農園はかつて良質の熟れたバナナを生産していましたが、今では、降雨が不規則で猛暑が続くため、劇的に変化してしまっています」



### 6.2.3 AGYWは食料不安の対処と生き延びるために戦略を用いる

そうした困難に対し、コミュニティ住民、特に女性と女の子は様々な対処戦略を採らざるを得なくなった。AGYWは、毎日食料不安に対処するため、日常生活の中で対策を講じていると述べた。

彼女たちは、1日の食事回数を減らす必要(つまり、推奨される1日3食を取らない)や、ニジェールで言及されたように、牛用の飼料の食料としての摂取の必要さえある状況を説明した。

**「十分な食材がないので、毎日は料理をしません」**

ユース女性の参加者(18~24歳)<sup>62</sup>、ジェレ、ナイジェリア

ニジェールの共同調査者のユース女性のデータ解釈では、季節が過ぎる前に収穫予定物の提供保証を行ったり予約販売する行為・特定コミュニティでの穀物の管理施設の創設・耕作に適した地域でのオフシーズン耕作・適応作物の栽培等、食料安全保障分野での適応とレジリエンス戦略が強調された<sup>63</sup>。

強制的な対処戦略には、栄養価の低い食品への依存・代替的な収入創出活動への従事・パートタイム労働への従事も含まれ、例えば、彼女たちの多くが母親の市場での生産物販売を手伝っていると話した。食料価格高騰の状況下で、近隣住民・地元商店主から食料/お金をもらう/借りる、または財産を売却して食料を購入する戦略も取られている。ブルキナファソでは、AGYWが小規模菜園や雨水貯留による適応努力について語った。

**「彼女たち(AGYW)は、収穫の不作時には家事を手伝い、家族を支えるために何らかの製品を売らなければいけません」**

ユース女性の参加者(18~24歳)<sup>64</sup>、ワヒグヤ、ブルキナファソ

<sup>62</sup> ピアツーピア調査参加者。

<sup>63</sup> ニジェールの共同調査者とメンターのチームによる量的・質的データの解釈。

<sup>64</sup> ピアツーピア調査参加者。

参加者のAGYWと共同調査者のユース女性は、ジェンダーに関連するいくつかの問題を指摘した<sup>65</sup>。ニジェールの共同調査者のユース女性は、ティラベリとワラムの調査対象コミュニティで女の子と女性が経験している食料安全保障問題を「食料差別」と表現した<sup>66</sup>。

**「家庭の食費が増えたので、あまり料理をせず、水を得るため、私たちは何キロも歩かなければ  
いけません」**

思春期の女の子の参加者(15~17歳)<sup>67</sup>、ワヒグヤ、ブルキナファソ

### ギニア

ギニアでは、回答者のAGYW96名の内、56名(58%)が、AGYWは農業・経済活動に関与しているとした<sup>68</sup>。また、保護者の食料獲得手段の欠如により、家庭を離れて食料を求めることを強いられている女の子もいる<sup>69</sup>。例えば、ある共同調査者のユース女性は、Koboの生データから、ある参加者のAGYWが、家族の中で調味料や野菜を売って働いているのは自身だけで、雨の中でも働いており、病気の危険にさらされていると訴えていることを発見したことに言及した<sup>70</sup>。ギニアの共同調査者のユース女性<sup>71</sup>はまた、収穫の不作や農業生産性の低下で、家族のニーズをもはや満たせない状況下で、生計の困窮に対する代替的対処戦略としての早期妊娠とCEFMの問題を指摘した<sup>72</sup>。

**「私たち(AGYW)は生き残るため、物乞いして食べ物やお金を得なければならず、生活は厳しいです」**

ユース女性の参加者(18~24歳)<sup>73</sup>、コンデューガ、ナイジェリア

### ニジェール

ニジェールでは、共同調査者は、CEFMが女の子と保護者の双方にとっての生存手段としても利用されていることを強調した<sup>74</sup>。彼女たちはまた、貧困の苦しみを軽減する収入源としての「生存のための性行為」も指摘した<sup>75</sup>。

**「農業収入が低いことで、私たちは貧困に陥っています。子どもの中途退学を回避するため、子どもに  
CEFMをさせて、子どもを手放すことを強いられている家族もいます」**

思春期の女の子の参加者(15~17歳)<sup>76</sup>、コイヤ、ギニア

それらの戦略は、生存に必要であるとはいえ、重大な個人的・社会的代償を伴うことが多い。

<sup>65</sup> ギニアの共同調査者とメンターのチームによる量的・質的データの解釈。

<sup>66</sup> ニジェールの共同調査者とメンターのチームによる量的・質的データの解釈。

<sup>67</sup> ピアツーピア調査参加者。

<sup>68</sup> ギニアの共同調査者とメンターのチームによる量的・質的データの解釈。

<sup>69</sup> ギニアの共同調査者とメンターのチームによる量的・質的データの解釈。

<sup>70</sup> ギニアの共同調査者とメンターのチームによる量的・質的データの解釈。

<sup>71</sup> ギニアの共同調査者とメンターのチームによる量的・質的データの解釈。

<sup>72</sup> ギニアの共同調査者とメンターのチームによる量的・質的データの解釈。

<sup>73</sup> ピアツーピア調査参加者。

<sup>74</sup> ニジェールの共同調査者とメンターのチームによる量的・質的データの解釈。

<sup>75</sup> ニジェールの共同調査者とメンターのチームによる量的・質的データの解釈。

<sup>76</sup> FGD参加者。

## 6.2.4 AGYWの食料を得る権利と他の主要な人権との関連性

気候危機の影響を受ける食料を得る権利は、水・健康・保護・教育の享受等の、AGYWの他の権利の実現と関連しており、既存のジェンダー不平等や、移民としての地位等による追加的な困難とも結びついている。

**「今では全てが複雑になってしまいました[...]食料はもうないので、自身と家族を養うことが最優先です。リソースが限られているため、子どもに教育を受けさせるのを遅らせざるを得ず、それは避難民には容易ではないです」**

ユース女性の参加者(18～24歳)<sup>77</sup>、ワヒグヤ、ブルキナファソ

栄養価の高い食品の不足は、栄養不良や罹患率の上昇等の、健康問題も招いている。ブルキナファソでは、参加者のAGYWが、気候変動に起因する食生活や調理方法の変化による健康問題を指摘した。例えば、同国のAGYWは、調理用の代替手段がないため古い小型のプラスチック製パッケージを用いて調理しなければならないと説明し、それが特に調理を担当するAGYWに影響を与えているという。

**「私たち(AGYW)にはもはや十分な食料がないです。木もなくなったため、食事を作るための薪すら手に入りません。集めた袋で火を起こすことしかできないことが、多くの病気や不快感を生んでいます。時には生の食材の食事を摂りますが、小型のプラスチック製パッケージの臭いが完全に染みついていることが多いです」**

思春期の女の子の参加者(15～17歳)<sup>78</sup>、ワヒグヤ、ブルキナファソ

灌漑用・家庭用の信頼できる水源の不足が、食料安全保障危機を深化させている。井戸や池の枯渇により、ジェンダー規範のために食料・水関連労働を主に担うAGYWが、調理や他の家庭用水の入手に大変な労力を費やすことになっている。加熱源(ガス・電気)の欠如のため、生の食材での食事を余儀なくされた、と述べたAGYWもいた。

**「気候変動の影響、特に降雨量の不足、は私たちに甚大な影響を与えています。最近で、農地は縮小し、井戸水は言うまでもなく、薪やガスも私たちには金銭的に入手が不可能で、十分な食料を得るのが極めて困難です」**

ユース女性の参加者(18～24歳)、ワヒグヤ、ブルキナファソ

---

<sup>77</sup> FGD参加者。

<sup>78</sup> FGD参加者。

食料不安は、AGYWの教育と全体的な幸福に悪影響を及ぼしている。彼女たちの多くが空腹のため集中力を欠いたり学費・学用品を賄えず、中途退学を強いられたり授業を欠席したりしている。

**「父は亡くなり、母は畑仕事をしています。収穫量が少ないので、母は私と私の兄弟の教育費を支払う十分な収入がなく、なので私は中途退学して家で彼女の手伝いをしなければいけません」**

思春期の女の子の参加者(15~17歳)<sup>79</sup>、コイヤ、ギニア

ブルキナファソでは、参加者のAGYWが、収穫が不作の時、女の子が家事の手伝いと収入創出のために中途退学を強いられることが多いと説明し、また、十分な食料の入手困難により、家族は子どもの教育、特に女子教育、より食料需要を優先せざるを得ない状況にあるという。ニジェールとギニアでは、飢餓による集中力低下・学習困難や、CEFMに伴うものも含む中途退学といった教育への悪影響をAGYWは訴えた。ニジェールの参加者のAGYWは、食料を含む基本的なニーズを満たすために中途退学し、性的搾取に遭う女の子もいると説明した。

**「自身を養うのも困難で、子どもの教育にも支障が出て、彼らを病気にもさせています」**

ユース女性の参加者(18~24歳)<sup>80</sup>、コイヤ、ギニア

SGBVは、食料不安と貧困やリスクの高い対処戦略の採用を選ばせるリソース不足等の気候変動の経済的影響と関連している。干ばつ・不規則な降雨・猛暑は農業生産性に影響を及ぼし、食料不安と経済的困難を招いている。資産や家畜の喪失により、性的搾取・取引としての性行為・物乞い・窃盗の増加に至る場合が多い。それらの問題は新たなものではないと指摘したAGYWもいたが、彼女たちも異常気象関連事象が農業生産量や食料・水安全保障に影響を及ぼし、貧困を深化させており、気候変動がSGBVを深刻化させていると述べた。

**「CEFMの増加に、私自身も動揺しています。保護者が家族のニーズを満たす手段がない場合、結婚させて子どもを早く手放そうとしているから。だから、私も動揺しているのです」**

ユース女性の参加者(18~24歳)<sup>81</sup>、ブラ、マリ

ナイジェリアでは、参加者のAGYWが、気候変動による貧困とリソース不足により、AGYWが性的搾取や窃盗を犯すことを強いられている状況を目にしていた。マリでは、食料不安の状況下で家族を支えるために取引としての性行為に頼らざるを得ない女性もおり、伝染病の蔓延につながっていると指摘するAGYWもいた。

## ブルキナファソ

ブルキナファソでは、食料や水のニーズを満たすため、女の子とユース女性が、性的搾取等の搾取を受ける選択を採る可能性が高まっていることをAGYWが明らかにした。同国では、降雨量の減少や環境悪化を伴う気候変動が、食料不安・水不足・経済的困難を助長している。

<sup>79</sup> FGD参加者。

<sup>80</sup> ピアツーピア調査参加者。

<sup>81</sup> ピアツーピア調査参加者。

それが、一部の思春期の女の子に、取引としての性行為または、家を離れることを強いり、性的搾取や暴力に遭う危険を一層高めている。貧困・機会の欠如・女の子にとっての最善の解決策という考えにより、娘をしばしば極めて若い年齢で結婚させる家族もいる。だが、それは早期妊娠・放棄・女の子の将来の破壊につながるのだ。

ニジェールでは、干ばつ・不規則な降雨・環境悪化による貧困・食料不安・生計手段の欠如が、SGBVとCEFMの主要要因として指摘された。ギニアでは、貧困とリソース不足がSGBVを深刻化させ、保護者が娘にCEFMを強いたり、ネグレクトする事態を招いている。マリでは、気候変動が貧困・食料不安・基本的なリソースの入手困難状況を悪化させ、家族を支えるために取引としての性行為やCEFMを強いられている女性や女の子がいる。

## まとめ

- AGYWは、この地域の深刻な食料危機と言える状況下で、重大な食料不安を経験・目の当たりにしている
- AGYWは、調理を自身が従事する主な活動の1つとして挙げた
- 大多数の参加者のAGYWは、食料不安が気候変動に関連し、それらの問題が特にAGYWに影響を与えているとした
- 干ばつ・過度の降雨・洪水・季節の変化といった異常気象関連事象は、食料の供給可能性・入手可能性・適切性・安定性・持続可能性という、食料を得る権利のあらゆる構成要素に直接的な影響を及ぼす
- 食料不安の深刻化は、食料・水・教育を享受する権利と暴力からの保護の権利に直接的な影響を及ぼし、参加者したAGYWの食料・水・教育へのニーズは、気候変動と社会経済的要素・人道的要素の交差により、どの国でも満たされていない
- 食料不安の深刻化は、リソース減少と異常気象関連事象の直接的結果としての、CEFM・性的搾取・中途退学の形でAGYWが経験する教育を享受する権利の侵害・SGBV・SRHRの侵害を深化させている
- AGYWは、生存し食料不安の深刻化に対処するため、1日の食事回数の減少・栄養価の低い食品の摂取・オフシーズンの耕作・小規模菜園・雨水貯留・代替収入源の確保等、様々な対処戦略の採用を強いられており、その状況は、性的搾取やCEFMの発生率を高めている

## 6.3 サヘル地域のAGYWの水を得る権利に気候変動が与える影響

調査対象者全体で、AGYWの水を得る権利(供給可能性・入手可能性・質)は気候変動の影響を受けていた。調査結果では、近年の水質と水の供給可能性への懸念を示した参加者のAGYWの72%(n= 342)は、これらの問題が水の入手・貯蔵・使用に対するジェンダー規範と責任により、特に自身のコミュニティのAGYWに影響を与えているとした。

**「もちろん、女の子や思春期の女の子に影響します。気候変動によって、飲用水も良質な食料もなく、妊婦が嘔吐やマラリアといった病気に罹ることも多いです」**

参加者のAGYW(年齢枠は未確認)<sup>82</sup>、ブラ、マリ

### 6.3.1 AGYWの水を得る権利に気候変動が与える影響

大多数の国で、参加者のAGYWは水質よりも水の供給可能性に強い懸念を示した(図20参照)ものの、水質も懸念事項である。質的データでは、ギニア・マリ・ナイジェリアでのPFGDとフォトボイスのFGDで、参加者のAGYWは水に関する懸念について最も頻繁に議論し、ブルキナファソとニジェールがそれらに続いた。全体的に、参加者のAGYWは主要な苦しみの原因として、水不足と清潔な水の入手困難を経験していた。

**「かつては私たちは住んでいた小さな湾<sup>83</sup>は、清潔で何でもできましたが、今はもうその水で身体を洗うことができないので、女性は苦しんでいます」**

ユース女性の参加者(18~24歳)<sup>84</sup>、コイヤ、ギニア

その理由は以下の4点、すなわち、1) 干ばつと降雨量の減少による水源の枯渇、2) 時間と労力を要する、水汲みのための、特に女の子が主に担う、長距離移動の必要性、3) 飲用・調理・衛生のために基本的な水のニーズを満たせない、4) 安全性が低い水源からの水の摂取による水系感染症の発生である。

**「干ばつになると井戸が枯渇し、砂で埋まってしまうため、水質はよくないです」**

ユース女性の参加者(18~24歳)<sup>85</sup>、セゲー、マリ

AGYWはきれいではない水と気候変動を直接結びつけてはいなかったが、洪水発生・環境悪化・それらに伴う汚染に関する懸念に関して議論されたので、ここでその発見が含まれる。例えばギニアの共同調査者のユース女性は、参加者のAGYWが洪水増加が水質と水供給に及ぼす影響に言及したことを指摘した。彼女たちは、例としてFilyという地域での洪水発生後、多くの井戸が整備されなかったため、飲用に不適切な水が使用され、健康上の危険をもたらしたことを挙げた。本調査は、水の入手に関するジェンダー規範を踏まえると、水質や採取地点からの距離という水の入手可能性に関する問題が思春期の女の子に直接影響を与えていることを示している。

**「この多くの人は井戸水を飲んでいますが、井戸は保護されておらず、特に井戸の隣に公衆シャワーがある場合、シャワーに使用された後の水が井戸水と混ざる可能性があり、その水の飲用は健康によくありません」**

思春期の女の子の参加者(15~17歳)<sup>86</sup>、フォレカリア、ギニア

<sup>82</sup> このピアツーピア調査参加者は、年齢枠の質問に対し、「回答を控えたい」と回答した。

<sup>83</sup> 西アフリカの水流(side-stream)。

<sup>84</sup> フォトボイス手法の一環でコミュニティレベルの写真撮影セッション参加後に行われた、写真に基づくFGD参加者。

<sup>85</sup> FGD参加者。

<sup>86</sup> FGD参加者。

例えばギニアでは、水汲みが家事に次いで2番目に回答者が最もよく行う活動として浮上し、15～17歳の87%、18～24歳の86%が従事していた。水不足と降水傾向の変化により、水汲みに要する時間を大幅に増加させ、結果的に彼女たちの生活に影響を及ぼすため、水汲みは気候変動の影響と深く関係していることが判明した。

複数国の調査結果によると、最も多く挙げられた問題である降雨不足(回答の20%)と干ばつ(回答の16%)は、AGYWに重大な影響を及ぼしている。全対象国で、ジェンダー規範により、AGYWが主に家庭での水汲み・管理の責任を担っており、それは、参加者のAGYWが水汲みに深く関与していると回答した本調査で裏付けられた。それらの結果が示す水資源不足は、AGYWの時間的・労力的負担を増やし、それが彼女たちの教育機会や全体的な幸福に影響を及ぼしている。

**「女の子の多くが、遠くから水を汲んでくるなど、必死に働かなければいけません」**

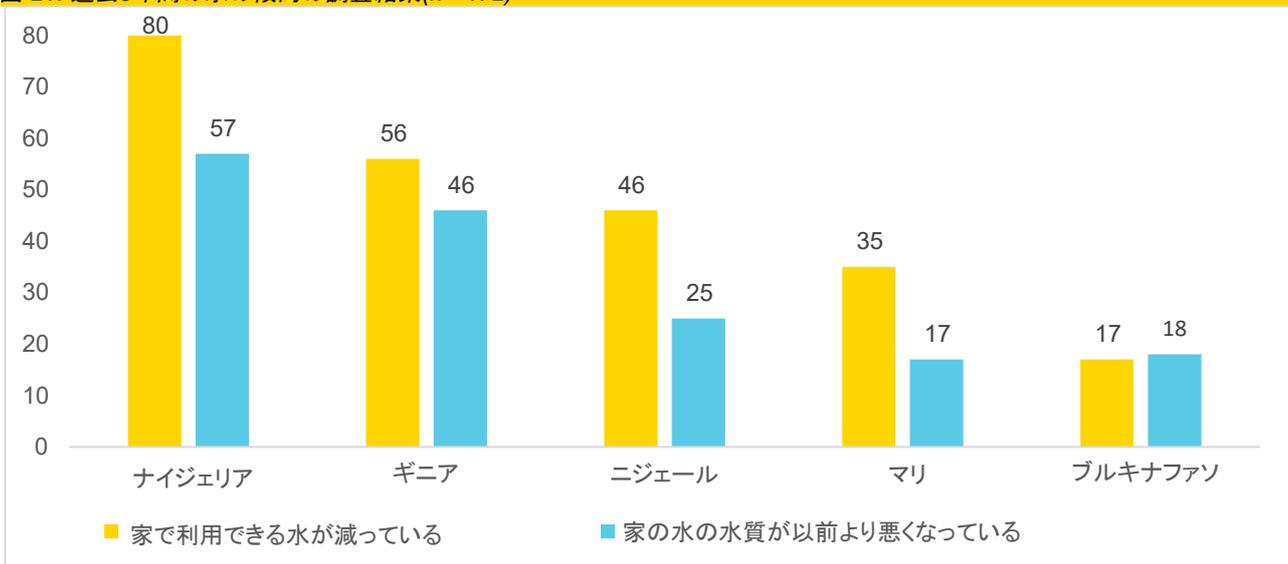
ユース女性の参加者(18～24歳)<sup>87</sup>、ワヒグヤ、ブルキナファソ

気候変動の水の供給可能性への影響で水不足が深刻化する一方、参加者のAGYWはまた、洪水の発生頻度の高まりと、それが基本サービスの重大な混乱を伴う、彼女たちの生活全般に及ぼす壊滅的な影響を訴えた。豪雨(回答の6%)と洪水(回答の7%)の高い発生率は、追加的なジェンダー的な危険を伴う。それら異常気象関連事象は、特に避難下で、AGYWに、水系感染症への脆弱性高まり・衛生施設の機能低下・個人の安全に対する危険度の高まりという形で、不均衡に大きな影響を及ぼしている。

**「子どもはもう学校に行けません。授業後に雨が降ったら、彼らは学校にいざるをえません。帰宅を試みる子どももいますが、マラリアや発熱などの病気にかかってしまいます」**

ユース女性の参加者(18～24歳)<sup>88</sup>、コイヤ、ギニア

図 21. 過去3年間の水の傾向の調査結果(n= 472)



<sup>87</sup> ピアツーピア調査参加者。

<sup>88</sup> ピアツーピア調査参加者。

フォトボイス参加者のAGYW(図21～26参照)もそうした懸念を示しており、彼女たちは干上がった川床や、水汲みのために女性が長距離を移動する際に経験する困難や水不足を示す写真等、気候変動の水への影響に関連する社会的不公正を記録した。

**「水が枯渇し、井戸は空っぽで、良質な水を得るために長距離を移動しなければならず、娘はそのためだけに授業を休むこともあります」**

ユース女性の参加者(18～24歳)<sup>89</sup>、コイヤ、ギニア

図 22. マリの干上がった川床(magot)のフォトボイス写真

写真説明: 共同調査者兼参加者のユース女性による写真、セゲー、マリ

「この写真は2000年代には水で満ちていたmagot湾の風景です。かつてはこの一帯全体が水で満たされていましたが、今は、気候変動の影響で半分が干上がっています」



<sup>89</sup> FGD参加者。

図 23. コンデューガ地域の完全に干上がった川床(河川)のフォトボイス写真

写真説明: 共同調査者兼参加者のユース女性による写真、コンデューガ、ナイジェリア

メンターによる説明: 「ここは魚を買いに来ていた川でした。私たちの農場の灌漑用水源でしたが、今では干上がっています... 今日、気候変動による、周辺地域での稲作の減少につながる川の枯渇と降雨量の低下が起きています。米農家の人びとは炭焼き加工等の、代替の生計手段を探しており、これは、状況を危険にしています: 女の子の誘拐やCEFMが起きています」



図 24. ブルキナファソの干上がった川床のフォトボイス写真

写真説明: 共同調査者兼参加者のユース女性による写真、ワヒグヤ、ブルキナファソ

共同調査者のユース女性による説明: 「乾燥した底部・汚濁した水・水流による土壌の劣化・遠く離れた枯れた木々・降雨不足を示しています」



図 25. ナイジェリアの水不足で混みあった公共水道の蛇口のフォトボイス写真

写真説明: 共同調査者兼参加者のユース女性による写真、コンデューガ、ナイジェリア

共同調査者のユース女性による説明:「地表が水に流れ込む場合がほとんどなので、子どもがその水で身体を洗ったり入浴することにより、コレラ等の病気にかかりやすくしています。地方部の人びとは、他の水源がないため川の水を飲用に利用しており、病気にかかりやすい状況にあります。女の子は水汲みのために長距離を移動するため、セクシュアル・ハラスメントや性的搾取、身体的危害に遭う危険が高く、また、個人の衛生状態にも悪影響を及ぼしています」



図 26. ギニアの水不足により供給に制限がかけられた水の供給所のフォトボイス写真

写真説明: 共同調査者兼参加者のユース女性による写真、フォレカリア、ギニア

共同調査者のユース女性と参加者のAGYWによる説明:「並べられた携行缶は、この地域の人びとが水関連の問題を抱えていることを示しています」。携行缶やバケツの数から判断すると、思春期の女の子が授業に遅刻する可能性は高いと説明した。



図 27. ブルキナファソの水を運ぶ女性のフォトボイス写真

写真説明: 共同調査者兼参加者のユース女性による写真、ワヒグヤ、ブルキナファソ

参加者のAGYWと共同調査者のユース女性による説明:「この写真は、社会での女性の重要な役割を改めて示しています。気候危機(水不足)は女性の脆弱性を一層高めます。彼女は家族のためによい生活環境を保証すべく、この必須のリソースを求め、長距離移動というリスクの高い行動をとっています。気候変動が起きている私たちの社会において、ジェンダー不平等は対応されるべき事項です」



図 28. 浸食の長期的な影響のフォトボイス写真

写真説明: 共同調査者兼参加者のユース女性による写真、ブラ、マリ

共同調査者のユース女性による説明:「この写真は、参加者のAGYWによると、長期にわたる洪水による土壌侵食を示しているそうです。2000年代には平坦な土地でしたが、洪水の影響で現在は下方に下がっています」



### 6.3.2 AGYWの水を得る権利と他の主要な人権との関連性

全体的に、AGYWは、水の供給可能性が食料安全保障・健康・教育・安全等の、他の権利を侵害する形を説明していた。水不足は、コミュニティの家畜の飼育や作物の収穫量に影響を及ぼすため、**食料安全保障**に直接的な影響を与え、最終的に作物の収穫量低下・作物の不作・家畜の死をもたらす。その結果、食料不足による食料価格の上昇が起きる。

個人の衛生・月経衛生管理が困難であり、脱水症状や熱に関連する病気のリスクが高まっており、**健康**への影響が生じている。また、汚濁した水の使用による水系感染症のリスクや感染蔓延の恐れもある。

女の子が水汲みの手伝いや学校に水がないために授業に出られず、**教育**にも影響が及ぶ場合がある。参加者のAGYWの中には、水汲みによる喉の渇きや疲労で集中することが困難になる、と指摘した人もいた。

ギニアの共同調査者のユース女性は、現地の給水設備の稼働を電力に依存しているため、停電と水不足が直接的に関連していると指摘した<sup>90</sup>。現地での頻繁な停電、特に日中に発生した場合、女の子とユース女性は電力が復旧する夜中近くに水汲みに行くことを強いられる<sup>91</sup>。その夜中近くの水汲は肉体的負担が長時間を要するため、AGYWの疲労が増大するという<sup>92</sup>。その結果、授業中の集中力や授業への出席率に悪影響が及び、学業成果が一層悪化するのだという<sup>93</sup>。

**「水不足等の気候変動の影響により、私は学業修了認定試験の受験生でありながら、水汲みのために長距離を移動しなければならず、授業に遅刻してしまいます」**

ユース女性の参加者(18~24歳)<sup>94</sup>、コイヤ、ギニア

**「単に水を素早く汲めなかったことが原因なのだからということで、遅刻したことで罰せられることがあります」**

参加者のAGYW、ブルキナファソ

**安心感と安全性**も、不十分な水の供給可能性により損なわれている。参加者のAGYWは、AGYMが水汲み、特に長距離移動が必要な場合、の際にハラスメント・暴行・暴力に遭う危険性があると指摘した。また、コミュニティ内に限られた水資源をめぐる緊張が生じているという。それらはフォトボイス写真でも明らかであった。

**「女の子は、家から遠く離れたこのような所まで水汲みのために歩き、レイプやハラスメント等の事件に遭遇する可能性があります」**

ユース女性の参加者(18~24歳)<sup>95</sup>、コイヤ、ギニア

**「私たちはよい医療施設を利用できず、女の子は水汲みに行く途中でレイプされます」**

思春期の女の子の参加者(15~17歳)<sup>96</sup>、コンデューガ、ナイジェリア

AGYWは気候変動の影響に対する行動をとっている。ブルキナファソでは、家庭の水需要を満たし脆弱性を軽減するための雨水収集・貯留；毎日の水汲みを回避するための家庭用水備蓄の設置；コミュニティ用の利用可能な井戸・ボアホールの建設；数日毎の家庭内の水汲み分担の調整；水運搬用の容器・ドラム缶の備蓄；罹患予防のための貯水と衛生習慣の実践；各自の努力の範囲内で節水を優先することが実践されている。

ナイジェリアでは、水不足の軽減のための太陽光発電式給水設備の管理；過剰な水に対応するための排水の仕組みの構築；水の流れを促す衛生活動の取り組み；家族やコミュニティのための水汲み等のコミュニティ活動への参加；保護者のための水汲み等が行われている。

<sup>90</sup> ギニアの共同調査者による量的・質的データの解釈。

<sup>91</sup> ギニアの共同調査者による量的・質的データの解釈。

<sup>92</sup> ギニアの共同調査者による量的・質的データの解釈。

<sup>93</sup> ギニアの共同調査者による量的・質的データの解釈。

<sup>94</sup> FGD参加者。

<sup>95</sup> フォトボイス手法の一環でコミュニティレベルでの写真撮影セッション後に行われた、写真に基づくFGD参加者。

<sup>96</sup> ピアツーピア調査参加者。

## まとめ

- AGYWの水を得る権利(供給利用可能性・入手可能性・質)は、気候変動の影響を大きく受けている
- AGYWは、彼女たちの主要な活動の1つである水汲みをジェンダー規範によるものである、と特定した
- 水不足と清潔な水の入手困難が、主な苦しみの原因として特定された
- AGYWは、水関連の懸念を以下の点によるものとした:
  - 干ばつと降雨量の減少による水源の枯渇
  - 特に水汲みの主な担当者である女の子にとっての、時間と労力を要する、水汲みのための長距離移動
  - 飲用・調理用・衛生用の基本的な水需要が満たせない状態
  - 安全でない水源の水の摂取による水媒介性疾患の罹患
- AGYWは洪水の発生・環境悪化・それらの結果としての汚染に対する懸念を示した
- 水に対する懸念は、食料不安・教育・健康と密接に結びついている
- AGYWは、持続可能な水源の利用可能性に対して経験している制限への対処戦略を採用している

## 6.4 サヘル地域のAGYWの教育を享受する権利に気候変動が与える影響

KoboCollectアンケートでは、参加者のAGYWに、教育と気候変動に関する具体的な質問を投げかけた。共同調査者のユース女性は、参加者のAGYWに教育への何らかの影響を認識しているかを、可能性のある影響の選択肢を用いて問うた。また、教育に関するそれらの問題が特に彼女たちのコミュニティのAGYWに影響を与えているかも尋ねた。加えて、教育に関するそれらの問題と彼女たちのコミュニティでの気候変動との関連性を感じるかを語る機会も与えた。FGDでも、参加者に気候変動が彼女たちの教育に与える影響に関して問いかけが行われた。

調査結果から、気候変動が教育に大きく・多面的で、AGYWに不均衡に重大な影響を及ぼしていることが判明した。調査参加者のAGYW(n= 352)の75%が、最近の教育への影響に関する懸念が特にAGYWに影響を与えているとした。また、参加者のAGYWの43%(n= 203)が、最近の教育関連問題と気候変動を関連付けていた。この高い割合は、コミュニティ内で環境要素と教育上の困難の相互関連性が広く認識されていることを示唆している。この認識は、脆弱な集団、特にAGYWへの不均衡に大きな影響の可能性を考慮する際に極めて重要である。過去3年間で最も多くみられたと挙げられた問題は、1) 中途退学者の増加(n= 285); 2) 教育の質の低下(n= 183); 3) 学校に在籍する女の子の減少(n= 134)であった(図28参照)。

質的データはそれらの調査結果を裏付け、気候変動との関連でのそれらの変化について提供された説明を示している。

異常気象関連事象、主に猛暑と洪水は、教育提供を多面的に妨げている。授業予定への支障に関し、参加者のAGYWは議論し、猛暑により学校の授業時間が変更されたと述べた人もいた。大多数の教育機関が、猛暑への対応のため、始業時間を早めて終業時間を繰り上げる、または午後の授業の完全廃止という措置を取っているという。そうした変更により、科目で扱う範囲の制限・学習成果の低下・全体的な教育提供の遅延が生じている。

### 「教室は猛暑に対応していないので、通常通りに授業を集中して受けられません」

思春期の女の子の参加者(15~17歳)<sup>97</sup>、ブラ、マリ

時間割の変更と授業時間の短縮は、学年度の科目に重大な支障をきたした。例えばマリの共同調査者のユース女性は、近年は猛暑のため授業時間が減少し、授業時間は午前8時~午後1時となり、午後の授業は廃止されたと述べた。また、災害被災者の校舎利用が、新学年開始後約1カ月続く場合が多いことも同学年度の授業を妨げており、避難先のない被災者は新学期が開始しても校舎に留まり続けるという。状況が通常のものに戻る頃までに、生徒は自身の学年の授業内容に対する大幅な学習時間を失っている。気候変動に伴う時間割変更と避難による授業時間の損失は、生徒の学業での発達に重大な影響を及ぼしている。

### 「気温の上昇に伴い、安全のために自宅待機できるよう学校の時間割が変更されましたが、そのため授業が遅れ、私たちに影響が出ています」

思春期の女の子の参加者(15~17歳)<sup>98</sup>、ブラ、マリ

マリとナイジェリア(ジェレ)では、乾季の猛暑が出席、特に思春期の女の子にとって、厚い障壁となっている。高温は身体的に学習環境を不快にし、生徒の集中力と認知機能を損ない、学習能力を阻害し、女の子の出席と学習成果を一層下げている。それらの暑さ関連の問題と、不十分なリソース・教材が組み合わさり、生徒がそうした望ましくない環境下での授業への集中・効果的な参加に困難を経験したため、教育の全体的な質の低下が認識されるようになっている。

### 「太陽のせいで学校が正常に機能しないので、午後の授業は中止されました」

ユース女性の参加者(18~24歳)<sup>99</sup>、セゲー、マリ

ナイジェリア・ギニア・マリでの豪雨と洪水は、通学路の利用を遮断し、それが生徒の安全な通学を困難/不可能にさせ、通学路は一時的/恒久的に閉鎖を余儀なくされ、結果、欠席率が上昇しており、授業への出席、特にAGYW、を一層困難にしている。

---

<sup>97</sup> FGD参加者。

<sup>98</sup> ピアツーピア調査参加者。

<sup>99</sup> FGD参加者。

## 「ええ、学校に行くのは無理です。洪水の時は親は外出を許しません。道路が冠水しているんです」

思春期の女の子の参加者(15～17歳)<sup>100</sup>、コイヤ、ギニア

ナイジェリア・ギニア・マリでは、暴風・豪雨・洪水等の深刻な気象現象が学校インフラを破壊し、教育提供を直接的に妨げている。気象現象とその影響で、中途退学者の増加や教育の享受に対する困難が生じている。遠方の学校に通うための通学費の増加に言及する回答者が何人かみられたことは、気象現象がインフラの問題を深刻化させているのを示唆しており、それはフォトボイス参加者のAGYWにより裏付けられた(図29参照)。本調査ではまた、そうした気象現象下での有資格教員の維持の困難化が、教育の質の一層の低下を助長していることも判明した。

## 「この地域の学校は過去3年間、毎年雨季に最低1回は浸水しており、それが子どもの登校を妨げています」

ユース女性の参加者(18～24歳)<sup>101</sup>、フォレカリア、ギニア

図 29. ギニアの洪水により流されて間もない道路に現地の人作り、架けた橋のフォトボイス写真

写真説明: 共同調査者兼参加者のユース女性による写真、コイヤ、ギニア

共同調査者のユース女性と参加者のAGYWによる説明: 「大雨で橋が損壊し、雨の日には思春期の女の子が渡って学校に行けなくなりました」



調査結果はまた、異常気象や経済的困難により、女の子のCEFMや強制労働が増加し、彼女たちを教育制度から完全に排除していることを示した。深刻な場合、経済的困難下で家族が対処戦略としてCEFMに頼っており、それが女の子の教育機会を一段と狭めている。

経済的困難により、家計で学費や学用品を賄うのが難しくなり、特にブルキナファソ・ギニア・ナイジェリア・ニジェール・マリのAGYWの中途退学率が上昇している。男子教育を優先する文化的傾向からリソース(特に食料)が不足する状況下では、女の子に学校を去るようにさせている。ブルキナファソとナイジェリアでは、気候変動が経済的圧力を招き、家族に男子教育を優先させるようにしている。気候変動による経済的困難は、女子教育の価値が少ないとみなす一部保護者の信念を一層強固にしている。それにより教育機会の享受に対する既存のジェンダ―格差が深化しており、これは気候変動・食料不安・学業成果の間の重要な関係を示している。

<sup>100</sup> FGD参加者。

<sup>101</sup> FGD参加者。

**「女の子は男の子より就学率が低く、自立した教養ある充実感を感じられる女性となる機会が狭められています」**

参加者のAGYW、ブルキナファソ

気候変動による作物の不作と経済的困難が広範な食料不安と栄養不良を招き、生徒の認知機能と学習能力を著しく損なっている。ギニアとニジェールの回答者は一貫して、飢餓と栄養不良が学習と授業出席に対する主要な障壁であると指摘した。栄養不良の生徒は授業への集中・資料の理解・規則的な出席の維持に苦勞し、調査結果が示す通り学業成績の低下と中途退学率の上昇につながっている。気候変動に起因する食料不安・貧困・学業の妨げの連鎖は、広範な不利な状況の連鎖を永続化させている。それらの相互関連する要素に促された早期の中途退学は、中途退学した個人とコミュニティの将来の経済的機会を狭め、それにより貧困化の助長と気候変動に対する脆弱性の高まりが起きている。ナイジェリアでは、共同調査者が過度の降雨により収穫量の不足と収穫物の腐敗が発生しており、それが、家族の教育関連費用の支払い能力に影響を与えている、と説明した。

**「以前は父が学費の支払いと学用品のためのお金をくれましたが、父の農場での仕事がなくなり通学も危険になったため、今は学校に行けていません」**

ユース女性の参加者(18~24歳)<sup>102</sup>、ジェレ、ナイジェリア

ある障害を持つ思春期の女の子は、気候に左右される農業以外の収入源や社会的保護制度が存在しない食料不安の状況下での、学校で学ぶことへの困難さに言及した。

**「私の両親は農家で、作物の収穫量が減ったため、障害を持つ私を学校に通わせる経済的余裕がなく、車椅子も壊れてしまって、彼らは新しいものを買えないので、私は家にいなければなりません」**

思春期の女の子の参加者(15~17歳)<sup>103</sup>、コンデューガ、ナイジェリア

保護者の支援がない状態で暮らすある思春期の女の子は、食料不安といくつかの基本的なニーズ(食料と学費)への支払いが必要な状況下での授業出席への困難さの高まりを説明した。

**「気候変動で食料が不足している上、私たち孤児を助けてくれている人が今はいい仕事に就いていないので、学費を払ってくれる人がいないのです」**

思春期の女の子の参加者(15~17歳)<sup>104</sup>、ジェレ、ナイジェリア

水不足は生徒、特に女の子、が水汲みのための長距離移動にかなりの間を費やすこと強いており、学習を妨げ身体的疲労を引き起こすため、教育面でも懸念事項として挙げられた。また、全調査対象国で、大多数の女の子が授業よりも水汲み等の作業を優先するよう強いられ、それが授業への出席率と学業成績に重大な影響を及ぼしている。

このジェンダー的な出席率の低下も重大な問題であり、気候危機下の家事負担増加や異常気象時の安全への懸念等の気候変動関連要素により深化し得る。全体で、回答者の28%(n= 134)が過去3年間で女の子の就学率が低下したと指摘した。

<sup>102</sup> ピアツーピア調査参加者。

<sup>103</sup> ピアツーピア調査参加者。

<sup>104</sup> FGD参加者。

ブルキナファソでは、共同調査者のユース女性が、自身のニーズを満たし、保護者の養うための収入創出活動に従事するため女の子が中途退学していると指摘した。マリは共同調査者のユース女性は、気候変動が主な収入源である農地に影響を与え、コミュニティが就学・食料・他の多くの費用への対応といった、子どもたちの世話の継続のためのリソースを欠いているために中途退学が起きている、と説明した。また、気温上昇により学習内容を理解できなくなり、学業を止めることを強いられる子どももおり、暑さも中途退学の決定的要素となっている。

別の憂慮すべき傾向として示されたのは、調査対象者の23%(n= 110)が言及した学校内暴力の増加である。ニジェール・マリ・ギニアの共同調査者のユース女性も、安全上の懸念が教育の享受・継続、特に女の子、に影響を及ぼしていると指摘した。彼女たちは、教育機関内での暴力の発生率や危険性の高まりはみられるが、気候変動との直接的な関連性は依然、不明確であるとした。そうした安全上の問題は女の子に不均衡に深刻な影響を与えており、ニジェールとギニアの調査結果では、学校内でのハラスメントや安全性の欠如の認識が女の子の欠席や中途退学増加に関連していることを明らかにした。少し見方を変えれば、学校内暴力は気候変動の結果であるだけでなく、気候変動が既存の教育の問題を深化させていると認識できる。

本調査は、気候変動・ジェンダー規範・教育の享受の相互作用の、複合的な困難を経験している疎外された生徒、特に経済的に恵まれない背景を持つ女の子、への複雑な影響も明らかにした。マリでは、回答者が、貧しい生徒は私立校から公立校への転校を強いられたり、経済的負担により完全に学業を止めさせられたりしていると話し、それは、疎外された生徒への不均衡に大きな影響を明確に示している。女の子は特に中途退学の可能性が高く、気候変動関連の困難時に家族を支えるため、家事の手伝いや収入創出活動への従事が求められることが多いためである。

**「猛暑・食料不足・降雨不足により、子ども、特に女の子、は物売りや労働等、他にしなければならない重要なことがあるため、就学を負担に感じています」**

思春期の女の子の参加者(15~17歳)<sup>105</sup>、コンデューガ、ナイジェリア

中途退学率と密接に関連していたのは、調査対象者の38%(n= 183)が認識していた教育の質の低下である。マリでは、質の低下は気候変動による支障・リソース配分での困難・教育的優先順位の変化等、様々な要因よるとされた。

**「停電すると勉強が難しく、猛暑により家の中での学習は拷問です。そして学校の授業は時間的・質的に下がっています」**

思春期の女の子の参加者(15~17歳)<sup>106</sup>、ブラ、マリ

ニジェールとナイジェリアの回答者は、中途退学した女の子が代替の収入創出機会が限られているために、取引としての性行為に手を出す可能性が高まると述べた。男の子の場合は、調査から中途退学後に薬物乱用や窃盗を犯す傾向が高まることが示された。それらジェンダー的な影響は、気候変動と学業終了が既存の社会規範や脆弱性との交差の複雑な様相を示しており、中途退学・貧困・その後の健康問題、特に取引としての性行為/搾取/早期妊娠といった高リスク行動によるもの、との関連性が強調されている。

<sup>105</sup> ピアツーピア調査参加者。

<sup>106</sup> ピアツーピア調査参加者。

それら一連の出来事は、気候変動による教育上の支障が個人とコミュニティの幸福に及ぼす長期的で多面的な影響を示している。

**「ユースが中途退学すると、組織的犯罪に巻き込まれる可能性が高まります  
- 彼らは泥棒になるのです」**

ユース女性の参加者(18~24歳)<sup>107</sup>、フォレカリア、ギニア

参加者のAGYWの22%(n= 105)が、洪水や異常な高温等の気候変動関連事象を含む様々な要因による学校閉鎖に言及した。若年卒での言及の多さは、思春期の女の子がそうした閉鎖の影響をより受け、またはより認識していることを示唆している。そして、学校避難は9%(n= 43)で、他の問題より言及は少ないものの、そうした避難は教育インフラと生徒の安全に対する重大な気候変動関連の危険を示しており、教育の継続性、特に避難後の学校復帰に追加的な障壁を経験する女の子にとって、長期的な影響を及ぼす可能性が示唆された。

**「気候変動による豪雨と洪水のため、私たちの学校は閉鎖されていて、このような事態が今後続けば、先生たちでさえ私たちを家に帰すでしょう」**

思春期の女の子の参加者(15~17歳)<sup>108</sup>、コンデューガ、ナイジェリア

回答者の2%(n= 12)は、認識された教育上の問題と気候変動の間には関連性がないと、はっきり否定した。一方、3%(n= 14)は「わからない」とし、不確実性を示した。

ナイジェリアの共同調査者のユース女性は、気候変動がAGYWの教育機会に与える影響について、いくつかの主要な調査結果を示した: 水汲みが教育より優先され、女の子は授業参加を犠牲にして長距離を歩き・登ることを強いられることが多い; 食料の入手・調理も主に女の子の役割であることも、学習のための時間の一層の減少を招いている。彼女たちは、家事の分担が一般的に家庭内の男の子と女の子の人数に基づいており、女の子に多くの責任が割り当てられる傾向があるとも指摘した。伝統的なジェンダー的役割のために女の子が教育機会を得られないことが常態化している家庭もあるという。リソース不足により重くなる家事分担とリソース関連責任の不平等な分配は、気候変動の影響を受けるコミュニティのAGYWに重大な影響を及ぼしている。

## まとめ

- 主に猛暑や洪水等の異常気象と、それに伴う食料不安や水不足が教育を妨げている
- 過去3年間で、女の子は以下を認識した:
  - 中途退学者の増加
  - 教育の質の低下
  - 就学している女の子の減少
- AGYWは、水汲みや食料入手のための長距離移動等、多くの家事を担っているため、リソース不足の状況下では授業を欠席する可能性が高くなる

<sup>107</sup> ピアツーピア調査参加者。

<sup>108</sup> FGD参加者。

- ギニアとニジェールの回答者は、一貫して、飢餓と栄養不良が学習と授業出席に対する主要な障壁であるとした
- リソース不足の状況では男子教育を優先する文化的傾向により、女の子が学校を去るようにされているという
- ニジェールとナイジェリアの回答者は、中途退学した女の子が代替の収入創出機会が限られているために、性的搾取に関与する可能性が高まるとした

## 6.5 サヘル地域のAGYWの健康を享受する権利に気候変動が与える影響

本調査は、気候変動・社会経済的要素・健康への影響の複雑な相互作用を明らかにし、特にAGYWが経験している問題に重点を置いている。

ニジェールの参加者のAGYWは、医療の利用に関していくつかの重大な障壁を経験しており、特にAGYWが影響を受けているとした。主な問題には、高血圧の有病率の高さと高齢者の死亡者数の増加が含まれ、それらは医療センターが遠方に位置し、近隣にはないことにより深刻化している。医療の利用は、医療センターでの長い待ち時間・有資格医療従事者の不在・センターの対応やサービスの質の低さによって一層困難になっている。AGYWにとって医療センターの利用は、いくつかの施設の閉鎖や宗教的・慣習的影響により、極めて困難であるという。そうした要素が、たとえ施設を訪れた場合でも自身の健康問題を相談することを困難にさせることが多い。

**「大雨になると、医療センター訪問が困難になる人びともおり、彼らは自宅に留まり持っている薬での対応を余儀なくされています」**

思春期の女の子の参加者(15~17歳)<sup>109</sup>、セゲー、マリ

気候変動関連の健康への影響は多面的で相互に関連している。直接的な健康被害には、雨季の疾病、特にマラリア、発生率の増加・洪水や汚染された水源によって罹患率が上がる悪化するコレラや赤痢等の水系感染症が含まれる。喘息発作や呼吸困難等の呼吸器疾患は、猛暑・粉塵・大気汚染の深化と関連しており、皮膚感染症・発疹・創傷は、異常気象や水不足による衛生問題によるものとして頻繁に報告されている。ジェンダー規範により、平年より高い異常な高温(回答の16%)がジェンダー的な影響を生んでいる。猛暑は、ユース女性の子ども・高齢者・病気に罹っている家族の構成員に対する世話の負担を増大させ得り、また、猛暑が自身の健康問題を悪化させ得り、特に妊娠中のAGYWは危険にさらされることになる。

**「気候変動は私たちの健康に影響していますが、コミュニティ住民の大多数は自身の健康をあまり気にしてなく、期待される機能を果たす病院の欠如が事態を一段と悪くさせています」**

思春期の女の子の参加者(15~17歳)<sup>110</sup>、コンデューガ、ナイジェリア

<sup>109</sup>ピアツーピア調査参加者。

<sup>110</sup> FGD参加者。

気候傾向の変化は妊産婦と生殖の健康に重大な影響を及ぼし、気候変動による経済的困難の対処戦略として採られることが多いCEFMは、産科瘻孔・貧血・出産時のユース女性の死亡を含む分娩時の問題等の合併症と関連している。

精神的健康への影響は、大きく取り上げられなかったが、ストレス・不安・全体的な心配の高まりが言及され、気候変動による食料不安・避難・生計の喪失と関連していることが多かった。猛暑は不快感・疲労・睡眠障害を招き、全体的な幸福と生産性に影響を及ぼしている。

**「私のコミュニティでは、女の子と女性は生活のための活動に適した気候を求めています、暑さは耐え難く、女の子が食料不足から盗みを働いたり、体を売ったりしています。食料不足は彼女たちをうつ状態に陥らせ、そして安らぎを求めて薬物乱用に手を出させるのです」**

ユース女性の参加者(18~24歳)<sup>111</sup>、ジェレ、ナイジェリア

気候変動関連要素により医療の利用は著しく阻害され、特に地方部やリソース減少の状況下では、異常気象により医療施設訪問が困難となる。異常気象による停電により、機能停止状態にある医療センターも存在するとの情報もある。気候変動による経済的困難で深刻化した経済的制限は、医療の利用を一層制限し、健康状態を悪化させ得る。気候変動関連の影響による医療サービスの中断は、生殖の健康・妊娠・出産に関連する特定の医療ニーズを持つAGYWに不均衡に大きな影響を与えている。

**「特に雨が降っている時、人びとが医療センターに行けないことがあります」**

思春期の女の子の参加者(15~17歳)<sup>112</sup>、セゲー、マリ

**「お金がないので、医療サービスや月経用品を利用できません」**

ユース女性の参加者(18~24歳)<sup>113</sup>、ジェレ、ナイジェリア

女性は、水の利用が限られているため、適切な月経衛生管理が困難であり、健康への害が生じる可能性がある。気候変動は、利用可能な水と衛生(WASH)施設の不足等、月経衛生管理に関する既存の障壁を厚くし、AGYWの尊厳・健康・教育への重大な脅威を生んでいる。

**「月経用品はとても高く、女の子は自身のケアをするのが難しいと感じています」**

思春期の女の子の参加者(15~17歳)<sup>114</sup>、ジェレ、ナイジェリア

**女の子が、月経用の布を適切に洗濯できない場合、他の(健康上の)問題を引き起こす可能性があります」**

思春期の女の子の参加者(15~17歳)<sup>115</sup>、ワヒグヤ、ブルキナファソ

<sup>111</sup> ピアツーピア調査参加者。

<sup>112</sup> ピアツーピア調査参加者。

<sup>113</sup> ピアツーピア調査参加者。

<sup>114</sup> ピアツーピア調査参加者。

<sup>115</sup> ピアツーピア調査参加者。

本調査は、気候変動の影響と既存の社会経済的困難と交差性を明示した。気候変動による問題により深刻化する貧困は、医療サービスの利用と良好な健康状態の維持に対する障壁として頻繁に言及された。

## まとめ

- 医療の利用は気候変動関連要素の影響を受け、特に地方部やリソース減少の状況下では医療施設訪問が困難となっており、また、異常気象による停電により、機能停止状態にある医療センターも存在する
- 気候変動の直接的な健康被害として:
  - 雨季のマラリア発生率の増加
  - 洪水や汚染された水源によるコレラや赤痢等の水系感染症の罹患率の上昇
  - 猛暑・粉塵・大気汚染の深化と関連した喘息発作や呼吸困難等の呼吸器疾患
  - 異常気象によるものとして頻繁に報告されている、皮膚感染症・発疹・創傷
  - 水不足による不衛生状態
- 気候変動に関連する水の利用制限が、AGYWの月経衛生管理へ影響を与えている

## 6.6 SGBVとSRHRに気候変動が与える影響

KoboCollectアンケートでは、気候変動の文脈でのSRHRとSGBVに関し、参加者のAGYWに具体的な質問を投げかけた。アンケートでは両概念の簡潔な定義が示された:「性と生殖に関する権利とは、皆が自身の健康と身体に関する決定を下す権利を意味する」、「SGBVには、性暴力・親密なパートナーによる暴力(IPV)・心理的暴力・経済的暴力・人身売買・CEFM・有害な伝統的慣行等が含まれ得る」。また、これらの話題がデリケートであることについての警告も明確に示した。共同調査者のユース女性は、参加者のAGYWにSGBVとSRHRへの影響を認識しているかを、可能性のある影響の選択肢を用いて問うた。また、SGBVとSRHRに関するそれらの問題が特に彼女たちのコミュニティのAGYWに影響を与えているかも尋ねた。加えて、それらの問題と彼女たちのコミュニティでの気候変動との関連性を感じるかを語る機会も与えた。FGDでも、参加者に気候変動がSRHRとSGBVに与えた影響の経験に関して問いかけが行われた。

### 6.6.1 社会的規範・タブー・恥の意識による対応の欠如

SGBVとSRHRは沈黙の中に隠された事柄であり、ナイジェリアとギニアの共同調査者のユース女性の分析は、そのようなテーマに関して参加者のAGYW間で開かれた議論をすることに対する重大な障壁の存在を明らかにした。ニジェールでは、SRHRについての言及はタブー視されており、それがそれらの質問に対する回答率が低い理由ではないかと考えられる。そうした障壁は、社会的要素・家庭での躰によるデリケートなテーマへの関与に対する恐れや躊躇・文化的規範・社会的圧力といった要素が複雑に相互作用したものに根付いている。

多くのテーマがタブー視され、率直な対話を一層避けさせていた。こうしたデリケートな主題に触れると、ギニアの共同調査者のユース女性は参加者の行動に顕著な変化を観察した。反応は完全な沈黙から態度の大幅な変化まで様々で、ストレスや恥を回避するため質問を曖昧で取り組みやすい形にしたが、それらの問題を取り巻く不快感の深さが浮き彫りとなった。性と生殖の健康(SRH)のテーマへの関与を拒むこの傾向は、包括的なデータ収集・分析に重大な困難をもたらし、そうした社会的制約が深く根付いていることを示した。

またデータによると、参加者のAGYWは自身のコミュニティでのいくつかのSRHRとSGBVの問題を指摘したが、必ずしもそれらを気候変動と結びつけてはいなかった。例えばギニアでは、Kobolによる量的調査の大多数の回答者のAGYWの女性(約66%)が、気候変動とSRHRとSGBV問題の関連性を認識していないと報告した。特筆すべきは、ギニアのKobolによる量的調査の回答者の約25%が、気候変動とコミュニティにおけるSRHR/SGBV問題の関連性を全く認識していなかった点である。ニジェールのAGYW回答者のかなりの数は、SGBV/SRHと気候変動の関連性を認識していない、またはわからないとし、その中のかなりの数が、そうした関連性が存在するのかわからないとした。気候変動のSRHRやSGBVへの影響は、直接的には認識されないことが多いため、それは驚くべきことではない。SRHRとSGBVの問題は、複数の要素の交差要因が交錯した結果として生じるものである。

だが、質的調査から得た回答から、参加者のAGYWが自身のコミュニティで、気候変動との関連性の有無に依らず、SGBVとSRHRに関する特定の問題を認識していることが認められた。

## 6.6.2 気候変動下でのAGYWへのSGBVとその影響

また、本調査ではCEFMの発生率の上昇が指摘されており、それがユース女性のSRHの状況を一層複雑化させている。気候変動によるCEFMの発生率の上昇は、ニジェール・ブルキナファソ・ギニアで多く挙げられた。

ナイジェリアの共同調査者は、気候変動による困難と、CEFM・早期妊娠・児童労働・性暴力・搾取等の有害な慣行に女の子が遭う危険の高まりとの間に相関関係があることを明らかにした。

**「将来の夫に何か(経済的支援)を提供してもらえよう、子どもを結婚させ、手放さざるを得ないこともあります」**

参加者のAGYW(年齢枠不明)<sup>116</sup>、コイヤ、ギニア

マリでは、回答者の20%(n= 20)がCEFMの発生率の上昇を指摘し、ナイジェリアのデータでは、回答者の15~17歳の36名と18~24歳の25名がこの問題を指摘しCEFMの発生率の上昇が顕著であることを示している。

CEFMは人権侵害であり、AGYWの力づけに対する重大な障壁である；その多発化は、貧困・経済的圧力・食料不安・避難等、気候変動により深刻化する要素により拍車がかかることが多く、家族に幼い娘を結婚させることを選択させることがある。CEFMは気候変動以前から存在していたが、環境的ストレス要因により頻発していると指摘した回答者もいた。

---

<sup>116</sup> このピアツーピア調査参加者は、自身の年齢枠を示さないことを希望した。

ナイジェリアの共同調査者のユース女性は、降雨量の不足による作物の収穫量の大幅な減少が、一連の社会経済的影響を引き起こしている」と指摘した<sup>117</sup>。

**「農業収入が低いことで、私たちは貧困に陥っています。子どもの中途退学を回避するため、子どもにCEFMをさせて、子どもを手放すことを強いられている家族もいます」**

思春期の女の子の参加者(15～17歳)<sup>118</sup>、コイヤ、ギニア

**「何も食べていないなら、娘にCEFMを強いさせる他ないです」**

ユース女性の参加者(18～24歳)<sup>119</sup>、コイヤ、ギニア

加えて、異常気象による学校閉鎖や通学不可能も、女の子が学業から離れ、早期に結婚する一因となり、その結果、夫婦間レイプ・家庭内暴力(DV)・早期妊娠等、数多くのSGBVの危険にさらされ、命に関わる事態を招く可能性もある。

今回の調査結果は、特に気候変動への適応策の文脈における、CEFMの根本原因への対処と思春期の女の子の権利と幸福を保護するために特化した介入策の差し迫った必要性を示している。

**「保護者が娘の同意なしに結婚させることもあります。一度結婚しても、家庭には愛情などなく、中には夫を殺さなければいけない状況に置かれる女の子もいます」**

ユース女性の参加者(18～24歳)<sup>120</sup>、コイヤ、ギニア

調査結果は、リソース不足・避難・猛暑や洪水による寝方の変更により、女の子が水や薪の収集のために長距離移動をするようになるにつれ、レイプやハラスメント等の性暴力の増加を示した。また、気候変動関連要因による学校閉鎖は、CEFMや他の形態の搾取に対する脆弱性の高まりと関連していた。

洪水等の異常気象は、女の子の家庭内の責任の増加につながることが多く、彼女たちは授業に出席する代わりに家事の手伝いのために家に留まることを強いられていた。

**「洪水により、保護者は娘を家に留めざるを得ず、最終的には彼女たちを嫁がせたのです」**

ユース女性の参加者(18～24歳)<sup>123</sup>、コイヤ、ギニア

加えて、データによれば、マリのKobo回答者の10%(n= 100名中10名)が特にAGYWに不均衡に大きな影響を与える、性的搾取の増加を訴えていた。またナイジェリアでは、15～17歳の回答者31名と18～24歳の回答者16名が性的搾取の増加を述べた。避難・貧困・社会的支援体制上の支障等、気候変動に起因する要素は、AGYWの人身取引・搾取・GBVに遭う危険性を高める。

更に、ナイジェリアのデータは児童搾取・労働の深刻化を示しており、15～17歳の回答者28名と18～24歳の回答者25名がこの侵害を訴えた。気候変動による経済的ストレスによる、特に鉱業での児童労働を、参加者のAGYWは言及した。

<sup>117</sup>データ解釈ワークショップでの、ナイジェリアの共同調査者による量的・質的データの解釈。

<sup>118</sup> FGD参加者。

<sup>119</sup> ピアツーピア調査参加者。

<sup>120</sup> ピアツーピア調査参加者。

気候変動は既存の社会経済的困難を深化させ、児童労働への依存度を高め得り、それはAGYWの教育・健康・全体的な幸福に悪影響を及ぼす。

また、異常気象による住居の破壊と避難は、身体的・性的暴行に遭う危険性を高める。安全で私的な空間の欠如と避難中の脆弱性の高まりが重なり、女の子とユース女性の暴力に遭う危険性が高まった。その上、本調査結果は気候変動によるトラウマや精神的健康への影響を強く示し、家庭内や農産物加工等の女の子が経済活動に従事する現場といった様々な状況下でのSGBVの発生が確認された。データはマリでのIPVの広がりを示しており、ブラで6名、セグーで12名の回答者がそれに言及した。

**「家に食べ物が無いことが耐えられない男性がいるため、DVが起きています。  
そして、それを妻のせいだと言い、妻を殴るのです」**

参加者のAGYW、マリ

気候変動は既存のジェンダー不平等と力の不平等を悪化させ、特にリソース不足・食料不安・経済的ストレスが生じた場合、AGYWがDVや搾取を受ける危険が高まる可能性がある。

**「女性はDVの対象となり、時には単に生活費や子どもの学費を求めただけで  
暴力を受けることもあります」**

参加者のAGYW、ギニア

気候変動関連の経済的ストレスを経験しており、IPVや家庭内虐待が悪化している家庭もある、という言及もなされた。気候変動関連のストレスの影響を家庭が受ける状況下で、女性は生活費を求めたために受ける暴力の増加を経験していた。また、性暴力のサバイバーに対する長期的影響として、トラウマと自信喪失が確認された。

例えば、CEFMを強いられた思春期の女の子は、SGBVが完全に気候変動だけによるものではないが、気候変動によるリソース不足がSGBV、特にIPVを深化させている事実を明確に説明した。

**「気候変動の影響を受ける前から、私はDVを受けていましたが、夫が食べ物を買いに出かけて  
十分な量を見つけられないで帰宅すると、その怒りを私に向けるので、状況は一層悪化しました」**

思春期の女の子の参加者(15～17歳)<sup>121</sup>、コイヤ、ギニア

## 6.7 AGYWのSRHRに気候変動が与える影響

ナイジェリアの共同調査者は、気候変動による困難と避妊手段・医療サービス・月経衛生管理の利用可能性の低下との間に相関関係があることを明らかにした。

ナイジェリアのデータはまた、15～17歳の回答者36名と18～24歳の回答者30名が、医療への利用が困難化していると訴えた、憂慮すべき事実を示した。インフラ上の支障やリソース制約等、気候変動関連の影響による医療サービス提供の阻害は、生殖の健康に関連する特定の医療ニーズを持つAGYWに不均衡に大きな影響を与えている。

<sup>121</sup> FGD参加者。

ニジュールでは、共同調査者のユース女性が、AGYWが医療の利用や性の健康に関する議論に対する重大な障壁を経験していると指摘した。彼女たちは、適切なケアや支援を受ける能力が制限される可能性があるため、男性の医療従事者にAGYWが自己表現することが困難であると指摘した。思春期とユースの性に関する文化的思考が、彼女たちが自身の性の健康上の懸念について率直に語れない環境を生んでいた。そうした率直な対話の欠如は、彼女たちの全体的な幸福や必要な情報・サービスの利用への脅威となり得る。

マリの両地域で、8名の回答者が不適切な避妊手段の利用可能性に言及しており、それはAGYWのSRHRに重大な影響を及ぼし得る。家族計画サービスの利用制限は、望まない妊娠・危険な中絶・妊産婦の合併症の罹患の可能性を高め、彼女たちの脆弱性を一層高め得る。

特筆すべきは、KoboのAGYW回答者がかなり高い割合で避妊手段の利用が阻害されていると述べており、ナイジェリアでは15～17歳の34名と18～24歳の24名が指摘していた。避妊サービスの利用制限は、AGYWのSRHRに重大な影響を及ぼし、望まない妊娠・危険な中絶・妊産婦の合併症の罹患の可能性を高める。それは気候変動だけによるものではなく、社会的規範・ジェンダー的役割・医療サービスの不適切な利用可能性等の、交差する要素によるものとみられる。

### 「文化的規範が理由で、女の子は避妊手段を利用できません」

思春期の女の子の参加者(15～17歳)<sup>122</sup>、ジェレ、ナイジェリア

加えて、調査結果はマリのブラとセゲーの両地域で、産前産後ケアサービスへの利用が限定されていることへの懸念を明らかにした。良質な産前産後ケアサービスの利用が不十分であることは、妊娠中・出産時のAGYWの健康と幸福に重大かつ生命を脅かす事態を招き得る。これは母体・乳児の死亡率と罹患率を高め、母親と新生児双方の生命を脅かす。結果はまた、産前産後ケアの利用不足の問題を明示した。良質な産前産後ケアサービスの利用の制限は、妊娠中・出産時のAGYWの健康と幸福に重大な影響を及ぼし、それが妊産婦・乳児死亡率と罹患率を高めるのだ。

ナイジェリアで最も憂慮すべき調査結果の1つに、月経時の衛生管理ができないと報告した回答者の数が極めて多いことがある。この点は15～17歳の47名と18～24歳の35名によって指摘された。月経衛生管理のためのリソースや施設への利用の困難は、特に気候変動によるWASHインフラへの支障が起きている状況下で、AGYWの健康・尊厳・学習達成度に重大な影響を及ぼしている。

## まとめ

<sup>122</sup> ピアツーピア調査参加者。

- 文化的・社会的タブーにより、SRHRやSGBVに関する問題への議論を控える姿勢がみられた
- 参加者の多くは気候変動とSRHRやSGBVの問題との間に直接的な相関関係を見出せていなかったが、質的回答ではSGBVの増加傾向とSRHRの利用が深刻に不足している実態が描写されていた
- 気候変動の影響による、リソース不足、特に水・食料不安、に関連したCEFMと性的搾取の増加に、参加者のAGYWは言及した
- ジェンダー規範により助長された気候変動に関連する経済的困難が、結果的にIPVの増加につながっているという
- 参加者のAGYWは、気候変動とそれによる洪水や猛暑等の異常気象に関連して、月経衛生管理や医療の利用が困難であると述べた

## 6.8 助長要素: 環境悪化と安全性の低下

### 6.8.1 環境悪化と所有物破壊との交差

収集されたデータの中には、AGYWが、水質汚染・ゴミの投棄・大気汚染・森林伐採・木炭焼成による著しい環境悪化と気候危機の相互作用を説明したのもみられた。例えばギニアでは、豪雨時に廃棄物が適切な排水を妨げ、洪水被害を甚大化させており、また強風・豪雨・洪水・干ばつ等の異常気象による財産の破壊にも言及がされていた。特に留意すべきは、データ収集ツールが環境破壊や財産破壊に関する質問を特に設けなかったにもかかわらず、それらの問題をAGYWが自ら指摘した点である。それは、フォトボイス手法の一環として撮影された写真でも明示されていることから、彼女たちの日常生活でそれらの問題が顕著に見られるからかもしれない。

AGYWに対し、環境悪化は様々な形で現れている: 大気/水質汚染・廃棄物管理の不備による廃棄物の野ざらしでの放置・汚染された水流・森林伐採・石炭燃焼・洪水や猛暑等の気候現象による財産の破壊。

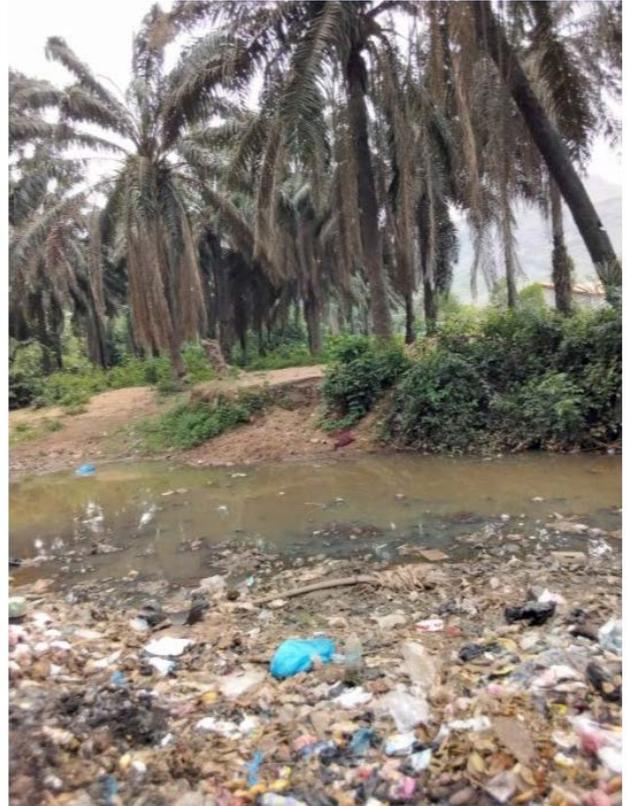
#### ギニア

ギニアの共同調査者は、回答者が環境汚染を目にしていることを訴えた。廃棄物が湿地や水流に侵入し、豪雨時には洪水や疾病を起こし、食料の品質を損なわせているという。ギニアの共同調査者のユース女性は、気候変動が、特に廃棄物による水流の閉塞が豪雨時に洪水を引き起こすことで、AGYWの生活に悪影響を及ぼしていると指摘した。洪水による家屋・屋根・橋の破壊等の財産の喪失は甚大であり、AGYWは洪水に流され亡くなった子どもにも言及した。

図 30. 廃棄物で塞ぎ止められた水路のフォトボイス写真

写真説明: 共同調査者兼参加者のユース女性による写真、コイヤ、ギニア

共同調査者のユース女性による説明: 「ここはかつては女の子が身体や衣服を洗い調理用に水を汲んでいた場所で、その隣には作物が植えられていました。でも人びとがゴミをそこに投げ捨てるようになり、今では水辺と周辺の作物が破壊されました。病院が注射器を含む医療廃棄物を捨てて来ています。子どもがそれらを拾い、怪我したり病気になることがあります。大雨の時は水が溢れ、洪水が起き、家屋に浸水し、移住の必要さえあります」



結果は、気候変動と自然への人為的影響による環境悪化と財産喪失の重大な影響を明示した。住居の破壊や自身を「避難民」とする調査対象のAGYWを含むコミュニティ住民の避難を招く、暴風雨・洪水・干ばつ等の、異常気象の壊滅的な影響を含む主要なテーマが明らかになった。参加者のAGYWは、豪雨・強風・砂嵐がどれ程住居を損害/完全に破壊させ、生活と教育を阻害させたかを説明した。

**「豪雨で家屋が破壊され、移住せざる得なくなり、それが私たちの習慣の消滅につながる可能性があります」**

ユース女性の参加者(18~24歳)<sup>123</sup>、セゲー、マリ

<sup>123</sup> FGD参加者。

図 31. ギニアの水流と豪雨により崩壊されても居住者が居続ける家屋のフォトボイス写真

写真説明: 共同調査者兼参加者のユース女性による写真、フォレカリア、ギニア

「屋根は崩れ落ち、残った家は片傾いています。レンガが積み上げられます。その家族の両親は、自身や子どもがこの家に住むのは大変危険ですが、選択肢はなく、極めて過酷な状況である、と述べました。家は破壊され、水で生活必需品や種まで流されてしまったそうです」



図 32. 暴風雨により破壊された家屋のフォトボイス写真

写真説明: 共同調査者兼参加者のユース女性による写真、ブラ、マリ

共同調査者のユース女性による説明: 「この写真は、豪雨と嵐により破壊された家を示しています。この地域の家はかつて有機天然素材を含んだ泥壁でできていました。でも近年の豪雨と嵐で、全て破壊され、もはや泥壁の家の建築は不可能になりました」



また調査結果は、樹木や植生の喪失による気候変動の悪化を森林伐採が助長してきたことを明らかにしている。森林伐採は、疾病の蔓延・生計手段の喪失・野生生物や天然資源の消失等、様々な問題と関連している。

樹木の有益な役割や、森林伐採や異常気象によりそれらが喪失された後にそれらを恋しがるAGYWも何人かみられた。これは「ソラストルジア」、つまり、かつて安らぎを与えてくれた特定の景観や自然環境を失った際に生じる感情であると言えよう。

**「私が静かに読書できる木陰はもうありません」**

ユース女性の参加者(18～24歳)<sup>124</sup>、ワヒグヤ、ブルキナファソ

<sup>124</sup> ピアツーピア調査参加者。

「昔は茂みの中で木の香りを嗅ぎながら本を読み、自然と繋がっていましたが、今は茂みがなく、それで、読む気が出ません」

思春期の女の子の参加者(15～17歳)<sup>125</sup>、ワヒグヤ、ブルキナファソ

この環境悪化は意図的な行為というより、特に、木炭生産のための森林伐採・農業汚染・不十分または高価な廃棄物管理手段によるゴミの投棄に対する代替手段の欠如の結果であると説明された。

図 33. ナイジェリア・コンデューガの木炭生産のための伐採状況のフォトボイス写真

写真説明: 共同調査者兼参加者のユース女性による写真、コンデューガ、ナイジェリア

共同調査者のユース女性による説明: 「森林伐採は土壌侵食を起こします。主に男性が木を伐採し、それにより土壌の肥沃度が低下し、作物の収穫量が減少します。木が伐採されて日陰がなくなり、女の子の大多数が授業に出席できなくなっています。女の子は大抵、カづけのため、または学費や自身を養う手段として、木炭加工に従事しています。ほとんどの場合、男女で賃金格差が存在し、女性はセクシュアル・ハラスメントに遭います。彼女たちは学費の支払いのため、お金を得よう働いています」



メンターによる説明: 「[...]木を伐採して木炭を作ることで、作物の収穫量が減少します。土壌の肥沃度は農産物の栽培に影響を及ぼし、それが降雨量の不足と組み合わせると、作物の収穫量低下を招き、食料不足を起こします。学校にいるときに、時々抜けて農場で働き、賃金を稼ぐこともしますが、賃金は足りません[...]」

「個人的に、女性が経験する一番の問題は収入創出活動の欠如だと思います。彼女たちの主な生計手段は炭の販売であり、それが森林伐採を招くため、気候変動の一因となっています。もし彼女たちが代替的な生計手段を持てれば、気候変動対策に貢献できるでしょう」

ユース女性の参加者(18～24歳)<sup>126</sup>、セゲー、マリ

### ブルキナファソ

ブルキナファソの共同調査者のユース女性は、土壌の乾燥化・貧困化という気候変動の影響による土壌の劣化に対応するため、農家が農薬を導入して農法を変えた結果、地下水面を含む水源の重大な汚染が生じ、家庭用水・農作物栽培用水・家畜用水の水質の低下と水生生物が消滅という悪循環の発生を説明した。

<sup>125</sup> ピアツーピア調査参加者。

<sup>126</sup> FGD参加者。

図 34. 耕作可能な地表が極めて乾燥し、農業に適さなくなった様子を示すフォトボイス写真

写真説明: 共同調査者のユース女性による写真、ワヒグヤ、ブルキナファソ

共同調査者のユース女性による説明: 「これは、雨季に耕作が行われる農家の畑です。気候変動と降雨量の減少により土壌は極めて乾燥しています。農業生産は大幅に減少し、家族の食料安全保障と収穫期の収入に悪影響を及ぼします」



## まとめ

- 調査ツールには環境悪化に関する具体的な質問は存在しなかったが、本調査から、環境悪化への言及がみられた
- AGYWは、水質汚染・ゴミの投棄・大気汚染・森林伐採・木炭焼成による急激な環境破壊を訴えた
- 洪水時に廃棄物が適切な排水を妨げる等、環境悪化は気候変動への適応力に悪影響を及ぼすため、リスク増幅要因ともみなせる
- 家屋の破壊やコミュニティ住民の避難を招く、暴風雨・洪水・干ばつ等の、異常気象の壊滅的な影響に言及がされ、自身を「避難民」と認識していたAGYWもみられた
- 参加者のAGYWは、樹木や植生の喪失による気候変動の悪化を森林伐採が助長していることを強調し、森林破壊は、疾病の蔓延・生計手段の喪失・野生生物や天然資源の消滅等、様々な問題と関連している
- 環境悪化は意図的な行為というより、むしろ収入源としての木炭生産や不十分または高額な廃棄物管理手段の結果としてのゴミの投棄に対する代替手段の欠如の結果であるという

## 6.8.2 紛争・避難・危険の交差

気候変動関連のストレスにより、移住を強いられた家族もあり、教育や社会的ネットワークが妨げられている。そうした移動は時に、不慣れな環境や他の潜在的な危険にさらされる状況を増やす。経済的機会を求めて移住を強いられる女の子とユース女性もあり、搾取に遭う可能性がある。

気候変動と紛争/テロリズムの交差は、特にボコ・ハラム等の集団の影響を受ける地域で繰り返し挙げられたテーマであった。それは女の子と女性が経験する困難を増やし、彼女たちの移動や経済活動を制限させると同時に、暴力に遭う危険性を高めた。暴力や搾取に対する脆弱性の高まりは重大な懸念事項である。参加者のAGYWは、特に水や薪などのリソースの収集のための移動時や農作業中での、性的暴行や誘拐、ハラスメントに遭う危険性が高まっていると述べた。ナイジェリアでは紛争が激化が指摘され、ギニアとマリでは気候変動が間接的に関与した社会不安が指摘された。経済的圧力とリソース不足がコミュニティの緊張状態・窃盗・他の暴力行為を招いている。

### ナイジェリア

ナイジェリアの共同調査者は、治安の悪さとボコ・ハラム危機がコミュニティ住民の農地に向かうことを阻んでいる現状を指摘し、また、何年もの豪雨が農業生産量に影響を与える一方、降雨不足もまた農業に打撃を与え、収穫量の減少と品質の低下を招いていると述べた。

経済的不安定とその広がりに伴う連鎖的影響が頻繁に言及され、気候変動と経済的不安定による農作業の不可能状態が食料不足と貧困を招き、それが女の子とユース女性にCEFM・取引としての性行為・他の形態の搾取を強いる可能性を高めた。また分析から、貧困と不安定の悪循環が明らかになった。気候変動による困難が、自身と家族を支えるために、CEFM・取引としての性行為といった搾取的な状況に女の子を追い込ませることがある。そうした状況は安心感と幸福を一層に損なわせ、気候変動・貧困・ジェンダー不平等が相互に結びつく性質を明らかにしている。

### ナイジェリア

ナイジェリア(ボルノ)では、AGYWが治安の悪さと紛争により農業活動が妨げられていると認識しており、気候変動と人道危機の明確な交差性が指摘された。またナイジェリアのAGYWは、食料不足による窃盗・薬物乱用・他の社会問題の増加についても言及した。ブルキナファソでは、AGYWは生産可能な土地と水源の不足によるコミュニティの移動について言及がされた。

### 「気候変動で、女の子と女性は食料と引き換えに自身の身体を提供することを強いられています」

ユース女性の参加者(18~24歳)<sup>127</sup>、コンデューガ、ナイジェリア

移動制限やリソースの入手困難は頻繁に挙げられた；気候変動と紛争に関連する治安の悪さが、女の子と女性の農地・学校・他の必須サービスの利用可能性を制限した。それは経済的機会だけでなく、教育や全体的な幸福にも影響を及ぼしていた。

<sup>127</sup> ピアツーピア調査参加者。

## まとめ

- 気候変動と紛争/テロリズムの交差は、特にボコ・ハラム等のテロリスト集団の影響を受ける地域で、繰り返し挙げられたテーマであった
- 経済的不安定とその広がりに伴う連鎖的影響は頻繁に言及された
- 気候変動と治安の悪さによる農作業の不可能状態が食料不足と貧困を招き、それがAGYWがCEFM・取引としての性行為・他の形態の搾取を強いる可能性を高めた
- 移動制限やリソースの入手制限は頻繁に挙げられた

調査の間 2: 国際・地域・国家・現地レベルの当局に対し、女の子とユース女性は何を望んでいるのか

## 7 サヘル地域での適応とレジリエンスの積極的先導者としてのAGYW

### 7.1 サヘル地域で現在AGYWによって行われている適応・軽減策

本報告書のセクション1.1で述べた通り、多くのAGYWが気候変動の影響を受け、その影響により生活が脅かされていると感じている。調査対象のAGYW全員が気候変動とその影響に対する行動を起こしてはいなかったが、本調査から、気候変動の影響の軽減と気候変動の影響への適応のために、AGYWと彼女たちのコミュニティが重点的に実施している主要行動を特定できた。AGYWだけがそれらの活動に関与しているのか、コミュニティ全体で実施されている行動なのかの判断が困難であったものもあるが、いずれにせよ、それらは彼女たちが実施されていると認識する行動であり、AGYWが(場所によっては明示されている通り)支援する役割を果たしていると認識しているものである。

AGYWの多くは、ジェンダー的役割であることにもよるが、洪水や滞水を防ぐため、通りや公共空間の清掃・排水路の清掃・廃棄物の適切な処理等の、環境衛生活動に取り組んでいる。

#### ナイジェリアの例

AGYWは、雨季の水の滞留や洪水を防ぐため、側溝・排水溝・河川のゴミの撤去/清掃作業に従事しており、焼却や指定された場所への廃棄等の適切な廃棄物収集・処理に加え、汚染や汚れの清掃・除去のための定期的なコミュニティ活動にも参加している。

#### マリとブルキナファソの例

AGYWは、健康や環境への負荷があるとはいえ、排水路の閉塞の防止のため、プラスチック廃棄物を焼却していると説明し、彼女たちは、廃棄物収集・処理サービスが不十分な状況下では、ゴミの投棄よりもましな選択肢だと考えている。

またAGYWは適応戦略として、保護者の手伝い、特に母親の農産物販売・裁縫・小規模事業への従事の支援、を行う形で様々な収入創出活動を実施し、家族を支え、基本的なニーズを満たし、気候変動の影響に適応していると述べた。

<p>ナイジェリアのAGYWは、清潔で健康的な環境の維持がコミュニティにとって重要であることを認識しており、そうした清掃・衛生活動で互いに積極的に励まし合い、支え合っていると述べている。</p>		
---	--	--

気候変動の影響を軽減し、日陰を作るため、森林伐採や砂漠化に挑み、家庭・学校・コミュニティで植林や森林再生活動に積極的に参加しているAGYWもいた。

参加者のAGYWが水関連の対処戦略として言及したものには、家庭の水需要を満たし毎日の水汲みを回避するための、雨水・地下水の貯留水を容器や樽に収集・安全に貯水することが含まれた。また洪水時の家屋への水の流入を防ぐため、不要な水の排水システムの構築や住居の浸水口の遮断にも取り組んでいるという。

本調査参加者のAGYWは、猛暑対策として、水分補給や着用する衣服の調整、日陰の選択などの、自己対処戦略を採用していた。彼女たちの多くは、猛暑対策として屋外で寝ることに言及し、この最新の対策は同時に、夜間に屋外に居続けることで窃盗や暴力に遭う危険性が高まることも指摘した。またAGYWは、豪雨・砂嵐・強風による被害を避けるため、家屋、特に屋根の補修を行っているとも述べた。

**「暑い季節には屋外で寝て、雨季には蚊帳を買い、風が強い時にはマスクを着け、鼻の穴にシアバターを塗ります」**

ユース女性の参加者(18～24歳)<sup>128</sup>、ブラ、マリ

またAGYWは、コミュニティに気候変動への適応の重要性を感化させることを図りつつ、きれいな状態を維持し、ゴミの投棄や環境汚染をしないよう他者に促し、支援しているという。

## 7.2 気候変動の影響への対策実施に対してAGYWが経験する障壁

調査対象者全体的に、AGYMはそれらの活動に取り組む際に、気候変動対策活動実施のための資金やリソースの不足(物資・設備・苗・輸送手段等)・植樹や清掃活動に必要な水の不足・コミュニティの支援や協力の欠如等の、多くの障壁を経験している。

**「気候変動と闘いたいですが、支援がないのです」**

思春期の女の子の参加者(15～17歳)<sup>129</sup>、ブラ、マリ

<sup>128</sup> ピアツーピア調査参加者。

<sup>129</sup> FGD参加者。

女の子と女性が経験する主な障壁には、規模の大きい気候変動対策実施のためのリソース・ツール・支援の不足が含まれ、彼女たちの多くが、自身のレジリエンスの強化のための資金や物資、研修を提供する当局やNGOなどの組織からの支援を必要としていると訴えた。また彼女たちは、気候変動の原因や効果的な適応戦略に関する情報と教育の提供も望んでいた。全体的に、ジェンダーと年齢に関連する重大な制約がありながらも、AGYWは自身のコミュニティでの気候危機への対応に関し主体性と自発性を示していた。

AGYWは、意思決定力やコミュニティ住民・当局からの認識に影響を与える、女性と女の子に対するジェンダー不平等と差別について言及した。本調査対象者のAGYWは、女性の活動参加を阻む文化的規範・信念が存在し、保護者・コミュニティリーダー・他の利害関係者からの支援が全般的に不足していると語った。コミュニティ住民の理解・協力の欠如と、彼女たちの先導・提唱能力が低いとみなすコミュニティレベルでのジェンダー規範の障壁を経験しているとも述べた。加えて、思春期の女の子またはユース女性であるという理由で聞く耳を持ってくれないという話も出た。

### 「気候変動との闘いで、男性は私たちを過小評価している」

思春期の女の子の参加者(15~17歳)<sup>130</sup>、ブラ、マリ

彼女たちはまた、コミュニティ住民が規制(「ゴミの投棄禁止」や森林伐採等)を守らないことについても言及した。それには、手段や認識の欠如が理由であることが多い。AGYW間の結束や共同活動の欠如が自身の行動に影響を与えていると指摘するAGYWもいた。それを、例えば共同調査者のユース女性がコミュニティレベルで多くの活動に関与している事実で相殺することが可能になる。そのため、ユースの関与状況を単純に「集団的行動能力の欠如」と結論付けることはできない。事実、AGYW間での相互支援の仕組みの言及もされている。

### 「女の子と女性は、特に食べ物に困っている時など、互いに助け合うことがあります」

ユース女性の参加者(18~24歳)<sup>131</sup>、ジェレ、ナイジェリア

AGYWは、AGYWとして行動することに伴う暴力やハラスメントの危険性を含む安全保障上の懸念を強く示し、また、気候変動対策活動の中には罹患や負傷の危険を伴うものもあるとした。

気候変動が水・教育・食料・健康・基本サービスに及ぼす影響は、前述の通り、AGYWの活動参加能力にも影響を及ぼす。実際、猛暑・洪水・豪雨・干ばつといった気候条件は、彼女たちがコミュニティで行動を起こす能力に影響を与えており、彼女たちはまた、気候変動対策への関与能力や幸福に影響を及ぼす、ストレスや不安といった情緒的・心理的影響にも言及した。

## まとめ

- AGYWは数多くの困難や自身の行動が認知されない状況でも、様々な適応・軽減策に取り組んでいる

<sup>130</sup> FGD参加者。

<sup>131</sup> ピアツーピア調査参加者。

- AGYWの多くは、ジェンダー的役割であることにもよるが、洪水や滞水を防ぐため、通りや公共空間の清掃・排水路の清掃・廃棄物の適切な処理等の、環境衛生活動に取り組んでいる
- またAGYWは、家族を支え基本的なニーズを満たすための適応策として様々な収入創出活動に取り組み、そして雨水貯留等の水関連の対応策を実施していることに言及した
- 森林伐採・砂漠化・気候変動の影響に対抗するため、家庭・学校・コミュニティで植林・森林再生・気候変動啓発活動に積極的に参加するAGYWもいる
- AGYMがそれらの活動に取り組むことに対し、気候変動対策活動実施のための資金やリソース(物資・設備・苗・輸送手段等)の不足・植樹や清掃活動に必要な水の不足・ジェンダー規範や社会的認識に起因するコミュニティの支援や協力の欠如等の、多くの障壁を経験している

調査の間 3: 本調査の一環としてのFPARの採用を、共同調査者はどう経験・認識するのか

## 8 FPAR手法: 調査と政策決定でのAGYWの代表性強化に 欠かせない段階

調査の3つ目の問いに関し、本調査の一部として用いられたFPAR手法を共同調査者のユース女性がどう経験・認識したかを具体的に検証した。共同調査者のユース女性側では、彼女たちのニーズや期待に応え、彼女たちの調査過程や調査方法の経験を評価するため、全調査期間で彼女たち自身による調査が行われた。また各国でのデータ解釈ワークショップの一環として、共同調査者のユース女性によるFPAR方法論への認識を把握するための集會も設けられた。

アンケートとFGD質問項目の共同策定過程で、調査チームは参加者のAGYWの洞察を得るとともに、共同調査者のユース女性と参加者のAGYWの双方にとってFPAR手法がどう経験・認識されるかについて、広範な意見を得るため、FPAR手法に関する質問項目も盛り込むことを決めた。従って、KoboCollectアンケートとFGDの両方で、共同調査者のユース女性が参加者のAGYWに、活動実施後にいくつかの質的質問を行った。

### 8.1 参加者のAGYWのFPARの経験

#### 彼女たちの声を傾聴する

全対象国で、参加者のAGYWは、本FPAR調査への参加機会・本調査の対象地域として自身のコミュニティの選出・自身の実体験・懸念・不安・苦闘・現在の活動の共有<sup>132</sup>できることに対して感謝の意を表明した。

参加者のAGYWは、懸念事項を理解するために、同調査者のユース女性が自身のコミュニティを訪れたことを高く評価した。

**「私たちは皆、それらを尋ねられてとても嬉しいです。今まで、私たちが懸念を発言する機会はなかったの  
で。私たちの困難を共有する機会が得られたのは、本当によかったです」**

思春期の女の子の参加者(15~17歳)、ティラベリ、ニジェール

参加者のAGYWは、初めて自身の声を聴いてもらい、人びとが彼女たち(AGYW)を気にかけていると感じた、と述べるが多かった。参加者のAGYWは、心地よく有益で、関与でき、力づけられ、議論に興味を持ったと感じていた。参加者のAGYWは、調査とFGD共に共同調査者のユース女性との活動に参加後、「満足」「解放」「幸せ」を感じたという。

**「質問は興味深く、実に配慮されていると感じました」**

思春期の女の子の参加者(15~17歳)<sup>133</sup>、ティラベリ、ニジェール

**「気になっていた多くのことを表現でき、安心しています」**

思春期の女の子の参加者(15~17歳)<sup>134</sup>、セゲー、マリ

**「有益だと感じています」**

思春期の女の子の参加者(15~17歳)<sup>135</sup>、ワヒグヤ、ブルキナファソ

全体的に、参加者のAGYWは、アンケートとFGDを興味深く、重要で、有益だと感じていた。だが、アンケートが少し長く複雑だと感じたり、調査当日を含め日々の義務に追われ、疲労やストレスを感じていると述べたAGYW参加者も少数おり、それらは今後の取り組みで留意すべき点である。

**「少し疲れていますが、私たちのコミュニティにとって大切なことについて沢山話し合えて、幸せです」**

ユース女性の参加者(18~24歳)<sup>136</sup>、セゲー、マリ

**「いい気分ですが、料理しに帰らなきゃいけないので少し急いでいます」**

ユース女性の参加者(18~24歳)<sup>137</sup>、セゲー、マリ

全体的に、参加者のAGYWは、自身の声に耳を傾けてもらえたことへの深い感謝の念を示してくれた。共同調査者のユース女性により実施されたデータ収集法は、建設的で率直な議論と共有を可能にし、参加者のAGYWが、包摂されており価値を評価されている、と感じられ、自身の意見や経験を共有する力を得た。

**「私たちが大切にしてくれている証であり、女の子と男の子の間に差はないということを示してくれているので、私たちAGYWを関与させてくれて嬉しいです」**

参加者のAGYW<sup>138</sup>、ジェレ、ナイジェリア

---

<sup>132</sup> FGD参加者。

<sup>133</sup> ピアツーピア調査参加者。

<sup>134</sup> ピアツーピア調査参加者。

<sup>135</sup> ピアツーピア調査参加者。

<sup>136</sup> FGD参加者。

<sup>137</sup> ピアツーピア調査参加者。

<sup>138</sup> この参加者のAGYWは、フォトボイス手法の一環としての、写真に基づくFGDに参加した。

## 学習活動への参加を通じた知識の獲得

興味深いことに、参加者の大多数が気候変動とジェンダー平等に関する重大で新たな知識や考え方を得たと強く示し、それを仲間やコミュニティと共有し、今後の行動につなげたいと熱望していた。

**「気分がよくなり、気候変動に関する多くの知識を得たので、他の人にも教えていきます」**

思春期の女の子の参加者(15～17歳)<sup>139</sup>、コンデューガ、ナイジェリア

包摂的で参加型の進行方法により、共同調査者のユース女性は、参加者のAGYWによる情報共有だけでなく、気候変動とジェンダー平等に関する知識を彼女たちが得られる力づけの効果を持つ議論を実現させた。「ロジックツリー」や改良版「リスクマッピング」等の実践的な活動により、FGD参加者のAGYWは、自己表現に積極的に関与するとともに、気候変動とジェンダー平等の関連性についても学びを深めた。

**「気候変動とジェンダー不平等について、深い理解を得ることができ、本当にこの活動に大変満足しています」**

ユース女性の参加者(18～24歳)<sup>140</sup>、ブラ、マリ

**「気候変動は私たちが実際に経験していることなので、気候変動について得たいいくつかの情報は、とても重要です」**

思春期の女の子の参加者(15～17歳)<sup>141</sup>、セゲー、マリ

**「能力が強化され、気候変動について深く理解できたので、私たちは幸せです」**

思春期の女の子の参加者(15～17歳)<sup>142</sup>、コンデューガ、ナイジェリア

興味深いことに、写真撮影セッションで共同調査者のユース女性同行した参加者のAGYWも、自身のコミュニティに関する知識と、自身の実体験に焦点を当ててそれが気候変動の影響をどう受けているのかについて理解を深められたと強調した。

## 実質的な行動と支援への願い

彼女たちはまた、自身が提起した特定の問題が対応され、コミュニティでの好ましい変化と解決策につながることを望んでいた。全体的に、参加者のAGYWは、自身が自身のコミュニティと共に気候変動関連問題に対応する中で、自身の回答・参加により貢献する機会を得られたことに対し、深い感謝の念を示してくれた。

参加者のAGYWは、植樹や環境意識の向上等の行動実施を約束し、また、本調査への参加が結束や共同行動の感覚を与えてくれたと語った。参加者のAGYWの中には、この取り組みが自身のコミュニティでの支援の強化につながってほしいという希望を抱いていた人もいた。

**「この組織が私が就学し、教育を享受するための支援を提供してくれると期待しているので、私は幸せです。そして、ユース女性として、学校へ通い教育を受けること以外の夢はないからなので、あなたの支援を心待ちにしています」**

思春期の女の子の参加者(15～17歳)<sup>143</sup>、コンデューガ、ナイジェリア

<sup>139</sup> ピアツーピア調査参加者。

<sup>140</sup> FGD参加者。

<sup>141</sup> ピアツーピア調査参加者。

<sup>142</sup> FGD参加者。

<sup>143</sup> ピアツーピア調査参加者。

彼女たちは、自身の苦しみに対する議論だけでなく、実質的な解決策へとつながることを望んでいた。例えば、参加者のAGYW、特にギニアとブルキナファソ、は、意識啓発と行動喚起のため、写真・データ・啓発メッセージを、看板・写真展・テレビ・コミュニティ会議・ソーシャルメディア等の多様なメディアを通じて広く発信ことを提言した。この行動喚起は政策立案者や機関に聴き入れられるべきである。

## 8.2 共同調査者のユース女性のFPARの経験

図 35. マリの共同調査者のFPAR手法の経験に関する語り

気候変動の調査を通じ、AGYWが彼女たちの社会的・経済的状況から気候変動の影響を強く受ける危機に瀕していることと、水や食料等のリソース管理に関し、彼女たちが重要な役割を担っていることを理解しました。また、彼女たちは気候変動の被害者であるだけでなく、解決策を見出す上で重要な役割を果たし得ることも理解しました。彼女たちの教育・力づけ・意思決定への参加は、気候変動の影響と効果的に闘うために必須の要素です。

共同調査者の調査過程全体を通じた学習の程度・期待・ニーズを評価するため、heraチームは3つのオンライン調査を作成し、彼女たちに調査過程の異なる段階で回答を依頼した: 調査過程を開始する最初のワークショップ受講前(事前調査評価); データ収集・分析からの主要な学びを特定するための第2回ワークショップ後; 調査過程全体を通じた学びを把握するための調査終了時。それにより、調査過程の開始時と終了時を比較する基盤が提供され、FPAR手法が期待に応えた程度を測定することが可能となった。簡潔にまとめると、FPAR手法は、サヘル地域での気候変動のジェンダー化した影響に関する調査に、AGYWを関与させる強力な手法であることが実証された。いくつかの問題はあったものの、その過程は関与した共同調査者から圧倒的に力づける効果があり変革的であると評価された。

### 8.2.1 調査実施前の知識と期待の評価: 共同調査者による事前オンライン調査の結果

共同調査者が第1回ワークショップ前に回答したオンライン事前評価調査は、彼女たちの知識・期待・関心領域に関する貴重な知見をもたらした。アンケートから、調査に関連する主要概念への理解度にばらつきがみられ、彼女たちの過半数がジェンダーとジェンダー平等(56%)とSGBV(85.7%)に関し高い理解を示した一方、他の主要概念で顕著な知識の差が確認された。例えば、アンケート回答者の共同調査者の内、食料安全保障とジェンダーの概念に深い理解を示したのはわずか28.6%で、参加型調査手法への理解度が低いと回答したのは23.8%であった。彼女たちは、SGBVとその対応戦略、フェミニズム、食料安全保障、人権の交差性、SRHR、参加型調査手法・ジェンダー化した気候変動の影響等の、いくつかの主要領域に強い関心を示した。

調査はまた、共同調査者の気候変動・SRHR・教育・食料安全保障に関連した思春期の女の子が経験している問題に対する現在の理解の程度を明らかにした。共同調査者の半数は、洪水・干ばつ・食料不安・不適切な住居・GBVの増加・有害な文化的慣行等の問題を挙げ、気候変動の悪影響を認識していた。だが、彼女たちの12.5%が気候変動のジェンダー化した影響に関する理解が乏しいと認めた点は特筆すべきである。

共同調査者は、同地域の思春期の女の子が経験しているいくつかの主要な問題を特定した: CEFM・FGM・SGBV・中途退学の可能性の高まり・限られた経済的機会に起因する貧困・食料不安・水不足・避難・水媒介性疾患に対する脆弱性・必須のSRHサービスの利用困難が含まれる。

興味深いことに、グループは過去にFPARワークショップに参加した経験のある者となない者がほぼ同率となり構成されていた。その経験の程度の多様性は、ワークショップ主催者にとって課題であると同時に機会でもあり、様々なニーズに対応し、仲間同士の学び・ラーニングを促進する上で有益であった。

共同調査者がワークショップに抱いた望みは、主に思春期の女の子への気候変動の影響に関する理解を深め、提唱スキルの向上に集中していた(64.2%)。また、調査ツールの使用スキル習得を目的としていた人の割合も高かった(35.7%)。そうした望みは、共同調査者が得た知識を活用する計画とかなり一致しており、大多数(64.3%)が啓発活動や提唱活動に活用する意向を示し、その一方でフィールド調査に直接応用する計画を立てていた人もみられた。

それらの望みに応え、特定されたニーズに対応するため、最初の複数回のワークショップでは、参加型調査手法・データ分析手法・調査ツールの利用に関する実践的なスキル研修を実施した。また、ワークショップでは、SGBV・CEFM・FGM・中途退学・気候変動下でのSRHRサービスの利用といった、思春期の女の子に特有の問題や主要概念の定義についても触れた。

結論として、事前評価調査はワークショップを含む調査方法の開発を導く貴重な知見を提供した。主要概念への理解度の差に対応し、実践的なスキル訓練を取り入れ、サヘル地域の思春期の女の子が経験している特有の問題に焦点を当てることで、ワークショップは共同調査者が気候変動のジェンダー化した影響に関する調査に貢献する能力を高めた。

## 8.2.2 第1・2回ワークショップからの主要な学習の評価: 共同調査者による中間調査オンライン調査の結果

サヘル地域5カ国で実施された2種類のワークショップでは、共同調査者がAGYWに対する気候変動の影響を深く理解し、調査・分析スキルを構築する上で顕著な成功を収めた。中間評価では共同研究者から圧倒的に好意的な意見が寄せられ、全ワークショップが全対象国で期待値を満たすかそれを上回る成果を達成したことが明らかとなった。

ワークショップの重要な強みは、その包括的かつ参加型な性質であった。

**「調査はよく構築され、適切に主導されていたため、ワークショップは私の期待に応じてくれました。私たちは新しい手法や分析方法も含めて、多くを学びました」**

共同調査者のユース女性、ブルキナファソ

この意見は他国の共同調査者からも挙げられ、ワークショップで理論的知識と実践的スキルが効果的に組み合わせられていたことが明示された。

ワークショップは、共同調査者のジェンダー・気候変動・調査方法に関する主要概念への理解を著しく向上させ、彼女たちの多くがそれらのテーマに対する理解が大幅に深まったと述べた。

特筆すべきは、新たな調査スキルと調査方法の習得であった。フォトボイス手法は、共同調査者と参加者双方にとって今まで経験したことのない有益なツールとして頻繁に言及された。同手法は、FGDとデータ分析技術と共に、共同調査者に参加型調査実施のための強力なツールキットを提供した。ワークショップはまた、AGYWに対する多面的な気候変動の影響に関する共同調査者の理解を深化にもつなげた。

**「今では私たちは、気候変動の思春期の女の子への影響について理解しています; 気候変動は女の子の教育(食料入手による遅刻や度重なる欠席による中途退学)・食料安全保障(土地資源の減少による食料不足)・SGBV(遠隔地の水源への水汲みのための長距離移動中の性的暴行)・SRH(適切な月経衛生管理を保証する水の不足)に悪影響を及ぼすのです」**

共同調査者のユース女性、ブルキナファソ

その理解の深化は全対象国で見られ、共同調査者は気候変動の複数の影響が相互に関連して女の子の生活の様々な面に及んでいる特徴を指摘した。

**「気候変動は、思春期の女の子に重大な影響を、特に食料安全保障・教育・SRHR・SGBVの点で、及ぼしています...それらの影響への対処には、気候変動への適応・軽減策にジェンダーに配慮した手法を統合する必要があります」**

共同調査者のユース女性、ナイジェリア

ワークショップは共同調査者の力づけを受けた感覚と責任感の醸成にもつなげた。彼女たちの多くが、コミュニティでの提唱活動・啓発活動への新たな決意を示した。

全体的な反応は圧倒的に好意的であったが、改善点もいくつか指摘された。一段と詳細な分析と考察を行うためワークショップの期間延長を求めた共同調査者が何人かみられた。また、各国内の調査対象地域を拡大し、多様な経験を捉えるべきとの意見もあった。

結論として、FPARワークショップは、能力構築・知識創出・共同調査者のジェンダー化した気候変動の影響に対処する力を強化させる、の強力なツールであることが実証された。

**「ワークショップは大変楽しく、特に、全調査過程に私たちを参加させてくれた点がよかったです。これは私たちにとっては訓練でもあり、今後の経験に非常に役立つでしょう」**

共同調査者のユース女性、ブルキナファソ

### 8.2.3 FPAR手法の主要な学習の評価: 共同調査者による調査終了時評価の調査結果と第2回ワークショップ中の考察セッションの内容

サヘル地域5カ国で実施されたFPAR手法による調査は、共同調査者の調査手法や過程に対する理解とAGYWに気候変動が及ぼすジェンダー化した影響に関する認識を著しく深めた。終了時評価では、共同調査者の考え方と知識に大きな変化が認められ、FPAR手法の調査と能力共同構築での有効性を示した。2回目の複数回のワークショップでは、共同調査者とメンターは自身の経験に基づく洞察を提供することを求められた。それにより調査チームは、共同調査者とメンターの経験に基づいたFPAR手法の評価が可能となった。

#### 理解の深化

全対象国で、共同調査者はジェンダー化した気候変動の影響に関する理解が大きく深まったと述べた。彼女たちの多くは知識が乏しい状態で調査を開始したが、自身のコミュニティのAGYWの現実の実体験から、気候変動とジェンダー問題の複雑な相互作用について詳細に至る理解の獲得を達成した。例えばギニアでは、共同調査者とメンターが、同行した参加者のAGYWが指定したフォトボイス撮影地域が直近の異常気象への影響を受けていたため到達が困難であったと語った。また、ある調査対象地域で、気候変動の影響による住宅の破壊を直接目撃したとの話も出た。

**「気候変動の調査から、AGYWは彼女たちの社会的・経済的状況のために気候変動の影響への脆弱性が高いことが多いことを理解しました...また、彼女たちが気候変動の被害者であるだけでなく、解決策を見出す上で重要な役割を担えることも理解できました」**

共同調査者のユース女性、マリ

FPARワークショップは、ジェンダーに配慮した視点から気候変動の影響を理解する革新的な手法を示した。あるギニアの共同調査者は、「当初、共同調査者の何人かは気候変動と10代の女の子との関連性を理解していませんでしたが、共同設計ワークショップでの訓練が理解の深化に大いに役立ったようです」と述べた。この言及は、調査過程が単なるデータ収集ではなく、共同調査者の能力と理解を構築した、変革的な性質を端的に示している。

#### 参加型手法とツール

調査設計は複数の参加型手法を統合し、データ収集・分析に対する包括的な手法を構築した。

本調査方法の基盤は、共同調査者と参加者が写真を通じて自身の経験を記録できるようにした、フォトボイス手法であった。この視覚的手法は、ブルキナファソのチームメンバーが「写真の撮影・解釈への参加者の関与が、現実の現象を反映した信頼性の高い良質なデータの獲得を可能にした」と指摘するように、特に効果的であることが証明された。

フォトボイス手法は、全対象国で特に有益なツールとして挙げられ、あるギニアの共同調査者はこう述べた「フォトボイスは、私が全く知らなかった手法の1つでしたが、情報をずっと明確に収集できるものでした」。同手法により、参加者と共同調査者は気候変動の影響を視覚的に記録でき、従来の調査手法では捉えられていなかったかもしれない、状況に即した豊富なデータを提供した。

共同調査者は、フォトボイスが彼女たちと参加者に気候変動の影響を視覚的に記録させ、具体的な証拠を提供し、深い議論を促進させたことを高く評価し、あるマリの共同調査者は、「これは人びとの話し合いの促進と気候変動の有害な影響に関する具体的な分析の提供を、写真によって可能にしています」と指摘している。

FGDは調査方法の別の重要な構成要素であり、深い議論と協働的な問題分析を促進させた。FGDのセッションは、特にジェンダーに特化した対話のための安全な場の創出に対し、効果的であった。あるマリの共同調査者はFGDの価値を強調し、「これにより、参加者との議論と議論の深化が可能になり、参加者は自由な自己表現ができます」と述べた。

ピアツーピア調査の要素は、データ収集に新たな基盤層を与え、親密で深い対話の機会を創出して、量的・質的データの両方を引き出すことができた。あるマリの共同調査者は熱意を込めて、「参加者と調査者の間に障壁がなかったのも、ピアツーピア手法は実に素晴らしかったです」と述べた。同手法は、調査時に存在することが従来多い力関係の克服に役立った。

### AGYWの実体験の解明

FPAR手法は、気候変動の影響を受けるAGYWの実体験の解明において、特に有効であることが証明された。共同調査者は一貫して、同手法の参加型性質を高く評価しており、それが深い洞察と信頼性の高いデータ収集を可能とした。あるマリの共同調査者は、「FPAR手法によって、AGYWがコミュニティのレジリエンスに関し、重要な役割を担っているのを認識しました。彼女たちの意思決定・リソース管理・現地の気候変動対策への積極的な参加が、彼女たちの行動力の強化につながり、包摂的な対応が実現するのです」と訴えた。

共同調査者はFPAR手法の強みとして、参加型・細かな差を含むデータの獲得能力・AGYWの力づけ等を挙げた。あるナイジェリアの共同調査者は、

**「FPAR手法の主な強みには...彼女たちの声を提唱し、彼女たちを知識で力づけし、状況に応じた解決策を創出することが含まれます」**

と述べた。

FPAR手法、本調査参加者の共同調査者にとって変革的な経験となり、気候変動の影響に対する理解を大きく深めると同時に、調査・提唱のスキル構築を可能にした。全対象国で、共同調査者は本調査過程を通じて力づけられたと感じ、有益で新たな知識と能力を獲得したと述べていた。

FPAR手法の重要な強みは、その参加型で包摂的な性質であった。あるナイジェリアの共同調査者は、「FPARは疎外されたコミュニティの積極的な参加を保証し、調査過程での発言権を彼女たちに与えます」と指摘した。同手法により、AGYWの実体験に基づいた、豊富な状況に即したデータ収集が可能となり、あるマリの共同調査者は、「AGYWを調査過程に関与させることで、彼女たちの経験・ニーズ・意見が議論の中心となることを保証できます」と訴えた。

### 知識の深化

共同調査者は、調査スキル・データ分析技術・コミュニティ内の力関係に関する深い理解を含む、調査の直接的な対象範囲を超えて適用できる有益なスキルと経験を得たと述べた。

「アンケート調査の全工程を学びました。調査前はアンケートの策定と作業戦略を、調査実施中は量的・質的手法を用いたデータ収集・分析と、女性の声を聴いてもらうための三角測量による提唱策定を学びました」

共同調査者のユース女性、ギニア

調査過程は共同調査者の能力を大幅に高め、彼女たちの多くがデータ収集・分析・解釈に関する新たなスキルを獲得したと述べた。あるギニアの共同調査者は、「アンケート調査の全工程を学びました。調査前はアンケートの策定と作業戦略を、調査実施中は量的・質的手法を用いたデータ収集・分析と、女性の声を聴いてもらうための三角測量による提唱策定を学びました」と述べた。そうしたスキル開発は力づけと認識され、彼女たちの多くが新たに得た能力と自信に誇りを示した。

本調査は、共同調査者の気候変動のAGYWに及ぼす影響への対応の重要性に関する認識を大幅に向上させた。彼女たちの多くが、気候変動を一般的な問題とする認識から、ユース女性と女の子に特有で不均衡に大きな影響を与える問題として認識するように変化したと述べた。

この認識は気候変動の影響の交差性にも及び、あるナイジェリアの共同調査者は、「気候変動はジェンダー不平等を悪化させています...貧困・居住地・経済的状况といった交差する要素が脆弱性を高めています...気候正義にはジェンダー平等が必須です」と述べている。

## 課題と制約

全体的には成功であったが、いくつかの課題も共同調査者は指摘した。言葉の壁と翻訳上の問題は全対象国で挙げられ、特にデータ収集時とデータ書き起こし時の専門用語の現地語への翻訳に困難が生じたという。あるニジェールの共同調査者は、「(全共同調査者が現地語(ザルマ語)を理解し話せるが、)ザルマ語からフランス語への翻訳時に、重要な文言の翻訳やデータ書き起こしにさえ困難を経験しました」と述べた。これは参加型調査手法で、言語とコミュニケーションに注意を払うことの重要性を示している。

時間的制約と活動の間の長い待機期間も課題であった。本手法の制約として時間的負担の大きさが頻繁に指摘された。あるナイジェリアの共同調査者も、「FPARの参加型性質は、関係構築・訓練・反復的な意見提供に多大な時間的投資を必要とします」と述べた。また、グループ内の力関係の調整や全員の意見が平等に聴かれるようにすることの困難さの指摘も共同調査者から出た。

また、あらゆるAGYWの構成集団の均衡ある代表性の保障に対するいくつかの弱みも指摘された。あるマリの共同調査者は、「FPARはユース女性の参加を重視していますが、障害を持つ・民族的少数派に属する・難民の女の子等、あらゆるAGYWの構成集団の均衡な代表性の保障は困難な場合があります」と指摘した。

全対象国での経験に基づき、質問票の簡潔化・翻訳支援の強化・活動の間の待機期間の短縮・コミュニケーション手段の強化等の、いくつかの重要な提案が現れた。また、既存の調査チームを維持しつつ、調査方法を他の地域やジェンダーに拡大することへの強い勧めもあった。共同提言で言及された通り、「対象者層に合わせたアンケートの調整、特に簡潔で明確かつ的確なアンケート」が求められる。ただし、今回の包括的な調査が、調査チーム全体に深く詳細な分析を可能にさせた点にも留意すべきである。

この基盤を更に発展させ、サヘル地域のAGYWの声と経験を調査の中心に据え続けながら調査の範囲と深さを拡大させることが有望である。

一連のワークショップを含む調査過程は、ユース女性を気候変動調査に関与させながら、彼女たちの調査者・コミュニティリーダーとしての能力を育成する上で大きな成功を収めた。様々な課題はあったが、同手法は有益なデータの収集と、参加者と共同調査者をカづけし、彼女たちのコミュニティに持続可能な変化をもたらすことが証明された。調査過程は従来のデータ収集を超え、参加者にとって変革的な体験を生み、サヘル地域での気候変動のジェンダー化にした影響に関する有意義な洞察をもたらした。

**「フォトボイスとFGDを通して、私たちは受益者に自己表現の自由を与え、それにより彼女たちは気候変動に関する自身の経験を、反応に影響を与えられたり誘導されることなく引き出せました」**

共同調査者のユース女性、ブルキナファソ

本調査方法の、細かな違いや状況に応じたデータの把握能力と、参加者と共同調査者をカづけるという強みは、気候変動調査・政策立案での広範な適用可能性を示唆している。本調査から得られた知見は、サヘル地域での気候変動の文脈でAGYWが経験する特有の問題に対応するための、特化した介入策や政策取り組みのための強固な基盤を提供している。

**「調査結果はコミュニティでの実体験に基づくため、関連性が高く実践可能である可能性が高いです」**

共同調査者のユース女性、ナイジェリア

**「FPAR手法は、彼女たちが変革の領域で優れた調査者となることを可能にさせます。彼女たちは質的分析での新たなスキルと専門知識を獲得したと述べています」**

共同調査者のユース女性、マリ

これは、FPAR手法が有益な調査知見を生み出すだけでなく、気候変動の影響を受ける疎外されたコミュニティの能力構築とカづけの促進に対しても大きな可能性を秘めていることを示唆している。

**「FPARは、年齢・社会経済的地位・居住地等の要素により、彼女たちの脆弱性の特徴が明らかになると同時に、気候危機下で既存のジェンダー不平等がいかに深化するかを示しました。また、女の子のレジリエンスとリーダーシップスキルを育成し、気候変動に関する彼女たちに影響する問題への解決策を創出できるようにしています」**

共同調査者のユース女性、ナイジェリア

共同調査者の意見から、今後のFPAR調査に対する提言が示され、それには以下が含まれた:

- 深い関与と学習を可能にするため、調査過程に長期の時間枠を設けること
- アンケートと調査ツールを簡素化すること
- 言語翻訳・通訳支援を強化すること

- より多様な経験を捉えるため、調査の地理的対象範囲を拡大し、対象者を思春期の男子とユース男性にまで広げること
- 異なる国の共同調査者が経験と学びを共有する機会を創出すること

## まとめ

- 全体的に、参加者のAGYWと共同調査者のユース女性は共に、調査過程が単なるデータ収集・分析を超えた、有益な参加型で共同学習の経験であったと認識していた
- アンケート調査・FGDの参加者と定期的なアンケート調査を通じた共同調査者の回答の大多数は、本プロジェクトが調査成果と個人の力づけの両面で成功を収めたことを示していた
- 参加者のAGYWは、自身の声が初めて聴かれ、人びとが彼女たちのことを気にかけられていると感じたという。彼女たちは、気候変動問題に関する知識が本調査により深まり感謝していると述べ、自身の苦しみが多なる議論だけでなく、実質的な解決策へとつながることを望んでいた
- FPAR調査は共同調査者にとって変革的な経験となり、問題への理解を大きく深め、有益な調査・提唱のスキルを身につける機会となった。彼女たちは、学習・経験共有・変革に向けた取り組みに焦点を当てた、協働的で力づけを促す調査方法の特徴を高く評価した

## 9 結論と政策上の課題

本調査結果は、気候変動がコミュニティのAGYWの食料/水の安全保障・健康・将来の可能性・安全・幸福に及ぼす多面的で壊滅的な影響を明らかにし、それは、既存の彼女たちへの人権侵害を悪化させているその喫緊の問題に対応するため、包括的で特化した政策・プログラムの介入策が緊急に必要であることを示すものである。

本調査は、AGYWが気候変動の不均衡に大きな影響を懸念しており、支援と制度的変革の必要性を示した。また本調査は、サヘル地域のAGYWに対する気候変動のジェンダー化した影響と、彼女たちが気候変動への適応と生活への影響軽減のために取り組んでいる行動について、深い分析を提供している。

全体的に、既存の政策・プログラムの不備に関し言及した参加者のAGYWはほとんどおらず、政策の不備に言及した参加者は、気候変動の影響と関連する社会経済的困難に対処するための政府支援と政策実施の欠如に対し、懸念を表明した。

気候変動・環境・ジェンダー問題に関する政策の存在を認識していた、何人かのAGYWは、森林伐採防止の失策・汚染規制の不備・異常気象にコミュニティが遭った後などに発表済みの取り組みやプログラムの未完遂等、政府の政策の効果の低さや執行の不十分さを批判した。

ギニアでは、参加者のAGYWが政府からの支援不足に疲弊していると訴え、気候変動の直接的・間接的影響の克服するため、コミュニティに対する支援の強化を求めている。ブルキナファソでは、共同調査者のユース女性が、コミュニティ代表者が解決策の提案を行ったが、政府からの支援と反応の欠如を批判した。ギニアの参加者のAGYWも似たように指摘し、洪水等の異常気象関連事象発生後、対応や既存の政策・規制が施行されておらず、当局からの長期的な支援の欠如を批判していた。

上述の通り、本調査で示されたAGYWの生活に及ぼす影響は、気候変動という用語から、食料・水・健康・保護危機が交差する、**多面的気候危機**への見直しを求めている。本調査は、AGYWのような交差する集団の人権・ニーズ・多様な声を真に考慮した、人権に基づく気候正義への手法の採用の根拠を提供するものである。

## 10 提言

以下の要約された提言は、調査対象5カ国の参加者のAGYWと共同調査者のユース女性が示した望みと本調査の第1段階および第2段階の分析に基づいている。詳細な提言はAnnex 2に記載されている。

本調査の共同調査者のユース女性・参加者のAGYW・プランとheraチームが、本調査プロジェクトの2つの段階に費やした時間・労力・投資の程度を調査チームは認識しており、それらの調査結果が持つ変革的で社会的正義の可能性に熱意を抱いている。本報告書で明確に提示されたAGYWの声・経験・提言・権利と先行文献レビューに基づき、調査チームは以下のアクター全員に対し、本調査結果を真摯に認識し、AGYWと彼女たちのコミュニティの実体験について深く学ぶ時間を取り、以下の緊急措置を講じることを提言する。

### 10.1 国家当局に対し

各国政府とCSOのアクターへの提言の前に、私たちの調査は高所得国の国家当局に対し、気候変動適応策への公平な分担金の支払いを求め、確実な気候変動対策の長期的な軽減のため、気候コミットメントの後退や撤回の停止・撤回を強く求めるものである。

国家当局は

1. 気候変動の多面的で交差的な性質を認識し、AGYWに特に焦点を当てた、彼女たちを対象とし彼女たち自身が主導する気候適応への取り組みへの予算配分を含む、ジェンダー・トランスフォーマティブな国家気候変動政策と行動計画を策定・実施・資金調達すること。
2. 食料・教育・健康・水・衛生に関する、ジェンダー・トランスフォーマティブで気候変動にレジリエンスを持つ、AGYWの権利とニーズに配慮した、公共サービスを通じた社会経済的権利の実現を保証すること。

3. AGYWを、ジェンダー公正で気候変動にレジリエンスを持つコミュニティ構築における主要なアクターと位置付け、気候変動対策行動のリーダーとしての既存の取り組みと能力を基盤として、政策立案・プログラム設計・実施への彼女たちの有意義な参加を保証すること。

## 10.2 CSO・国際NGOや現地NGO等の開発パートナー・ECOWASやAU等の地域/大陸組織に対し

市民社会アクターや国際NGOや現地NGO等の開発パートナー、およびECOWASやAU等の地域・大陸組織は

4. AGYWと共に、彼女たちの生活に気候変動が及ぼす相互作用を持つ影響に対応する包括的でジェンダー・トランスフォーマティブな交差性を含み、プロジェクトの各段階で、彼女たちのリーダーシップと多様な経験を中核に据えられる、気候変動プログラムを設計・実施すること。
5. あらゆる気候変動への提唱活動で、AGYWの多様な声と実体験を中核に据え、権力構造やジェンダー規範に挑む協働キャンペーンを通じて彼女たちの声を強化すること。また、政策決定者に直接解決策や提唱を提示するため、彼女たちのコミュニティにおける気候変動の影響を記録するよう、AGYW主導の取り組みを支援すること。
6. AGYW主導の知識ハブを設置し、多様な利害関係者間の変革的で参加型の調査・学習交流を促進すること。
7. 気候正義への取り組みを推進するAGYW主導・フェミニスト組織を優先するため、連携・資金調達・調査に関する手法を簡素化・脱植民地化・参加型・長期的視点に立つものに再設計すること。

## 10.3 プランに対し

プランの戦略とプログラム構造に関する第1段階の調査結果と本調査の一環として対象国5カ国との定期的な対話に基づき、プランは

### プログラム

- 気候政策とジェンダー規範での体系的な変革を推進するため、AGYWの多様な経験を活かした共同行動計画の策定を支援すること。それは、ジェンダーと気候正義の関係を再定義する変革的な取り組みを主導し、AGYWを主要な意思決定者兼変革の担い手として位置付けることを意味する。
- 国・地域を横断する、AGYWを対象とした革新的な「気候正義リーダーシップ学習・交流プログラム」を実施すること。それには、知識共有に留まらない、結束力と集団的力を構築するための集中研修旅行の設計が含まれ、その旅行は、南南交流の優先と先住民の知見を高く評価することで、植民地主義的構造への挑戦を図るべきである。またそこには、フェミニスト運動構築や交差性を持つ気候変動への提唱活動に関する内容を組み込むこともあり得る。
- あらゆる気候関連プログラム・連合で、AGYW主導の運営委員会を設置し、議決権を付与すると同時に、従来の階層構造に挑み、気候政策とジェンダー規範での体系的な変革を推進するためのAGYWの集団的力を育む、フェミニスト的リーダーシップモデルを実施すること。
- AGYWを関与させ、現地の適応・軽減策を把握・拡大・推進するための「気候変動へのレジリエンス革新ハブ」を設置すること。

それには、自身のコミュニティでAGYWが先住民の知恵や草の根の解決策を重視した、参加型行動調査を実施するためのリソースと場を提供することを含むべきである。それにより、AGYWが生み出された知識に対する所有権を持ち、政策や実践に影響を与えるよう、その普及を主導できるようになる。

- 食料安全保障・教育・生計・SRHR・子どもの保護の取り組みを含む全プログラム分野で、包括的なジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチと気候リスク評価を統合させ、気候変動へのレジリエンスを構築しながらジェンダー規範に明確に挑むこと。それには、気候変動下のジェンダー不平等の根本原因に対応する統合的活動専用の資金配分を含めるべきである。
- 気候変動適応策の食料安全保障・WASH・包括的性教育・月経衛生管理・SGBVの防止・ユースの経済的力づけプロジェクトとの統合等、AGYWの生活に気候変動が及ぼす相互関連する影響に対処し、縦割り型の姿勢に挑む、包括的かつ権利に基づくプログラムを開発すること。
- AGYWの主導による、コミュニティのレジリエンス構築とジェンダー関係を変革させる、多部門連携の取り組みを支援すること。それには、気候変動により強化された家父長制構造の解体のための反復的学習と持続的取り組みを可能とする、長期的で柔軟な資金調達モデルへの投資を含む。
- AGYWのリーダーシップを高め、伝統的知見を取り入れることで、コミュニティベースの早期警報体制を変革すること。これには、異常気象に対するジェンダーに配慮した防災戦略の設計・実施・管理へのAGYWの関与が含まれ、プランは、それらの体制が災害対応に関する伝統的なジェンダー的役割に挑み、AGYWがコミュニティのレジリエンス強化の取り組みを主導する機会を得られるようにすべきである。それらの取り組みは既存の現地の構造と統合され、外部のモデルを押し付けるのではなく、AGYW主導の取り組みの成功事例を増加・拡大させる必要がある。
- 新規・プログラムや連合等の既存の取り組みを主導し、特にAGYWの声・レジリエンス・意思決定・権利を前面に押し出し、ジェンダーと気候正義の連携を統合させること。

## アドボカシー活動と働きかけ

- 国際・地域・国家的な場や取り組みにおいて、AGYWの権利と声に焦点を当て、ジェンダー正義と気候正義の統合を主導する役割を担うこと。
- あらゆるレベルでの気候変動対応政策策定・行動へのAGYWの参加拡大を提唱すること。それには、彼女たちを支援する取り組みのための専用の気候適応資金の確保の達成も含まれる。
- 政府への提唱活動の一環として、女の子と女性の脆弱性を強調するのではなく、AGYWのレジリエンスと強みに注目し、意思決定へ関与させる必要性を訴えること。
- 気候変動とジェンダーに関する提唱活動の中の草の根のユース主導の取り組みが、世界的に著名で主要な活動に留まらず、国家・地域レベルで気候変動関連の提唱活動にAGYWを参加させることで、国家・地域・国際レベルで可視化され、声を聴いてもらうことに注力すること。
- 各COで、AGYW主導の気候正義に関するタスクフォースを設置し、意思決定権を付与すること: それらのタスクフォースが、自身の状況下でジェンダー規範・権力構造・気候変動がどう交差しているかをフェミニスト参加型分析で検証できるよう力づけること。

## 連携と調査

- プランの各COで、AGYW主導の変革的な利害関係者マッピングを実施すること。それには、従来の権力構造に挑む包括的なマッピング演習の設計・実施のため、多様なAGYWの集団を訓練・関与させ、報酬の付与が含まれるべきである。

- AGYWの主導による変革的な利害関係者の関与過程を開始させ、連携構築における従来の権力構造に挑むこと。それには、以下(1~3)含まれる:
  1. 主流のアクターから軽視されることの多い、草の根フェミニスト・若者主導の組織を優先した、潜在的なパートナーの包括的なマッピングの設計・実施のため、多様なAGYWの訓練・関与・報酬を付与する。
  2. AGYWが、ジェンダー正義と気候変動対策を基盤とする連携形成の基準を自ら設定できるよう力づける。
  3. 集団的な提唱活動とプログラムを通じた、AGYWの声を高め・権利を推進するフェミニスト気候正義連合を構築することに連携の過程を用いる。
- AGYWが意思決定の最前線に立つようにし、女性権利組織やユース主導の気候変動対策組織と戦略的で公平な連携関係を構築すること。それらのパートナー、特に新たなAGYW主導の取り組みに対し、長期的で柔軟な資金提供と能力強化を行う「フェミニスト気候変動対策行動支援組織」を設立すること。
- 学びと協働を同時に行う場を創出し、ジェンダー・トランスフォーマティブであり気候変動へのレジリエンス備えた革新的手法を促進すること。それには、AGYWが連携の効果と公平性を評価する説明責任の仕組みが含まれるべきである。
- AGYW主導の諮問委員会を設置し、調査優先事項・資金配分・実践で効果を上げるための証拠の活用方法に関する意思決定権限を付与すること。
- 調査機関と連携し、気候変動の文脈でのジェンダー的役割・認識・経験に関する知識を深めるため、思春期の女の子・男の子とユース女性・男性の有意義な関与を伴う、ジェンダー・トランスフォーマティブな気候変動対策行動に関する画期的な調査課題を共同で策定すること。それには以下(1~2)を含むべきである:
  1. 参加型調査手法を優先し、AGYWを調査対象ではなく調査者とし、従来の学術的階層構造に挑む; 多様な思春期の女の子と男の子を関与させ、気候変動への介入策が、ジェンダー規範と力関係での広範な変化をどれ程促進し得るかを調査する。
  2. 調査の設計・実施・普及が、積極的な力の再分配・疎外された声の拡大・気候変動とジェンダー政策での体系的な変革の推進を保証する。

## 組織能力

- 新入職員導入プログラムと既存職員向けに気候変動とフェミニスト手法に関する研修の提供の中で、包括的なフェミニスト気候正義研修を実施し、組織文化と能力を変革すること。
- 知識と専門性の伝統的な階層構造に挑み、交差性・権力分析・脱植民地化手法を気候変動対策行動に統合させた研修を盛り込んだ、AGYW主導の「気候正義リーダーシップ・アカデミー」を、全階層の職員を対象に開発すること。
- メンター制度を確立し、AGYWがリーダーシップ発揮の役割を担うための道筋を創出し、組織内の権力構造を根本的に変革すること。
- 気候正義を各国COの国内戦略に組み込みつつ、AGYWの気候変動の影響に関する声と実体験を優先させる形で、気候変動により深化するジェンダー不平等の根本原因に対応する戦略が明示的に取り扱うことを保証する、国内戦略策定過程を変革すること。
- AGYWが気候変動に対応するプログラムのジェンダー・トランスフォーマティブな影響力を評価する説明責任の仕組みを開発すること。

- 「ジェンダー・トランスフォーマティブな気候変動へのレジリエンス基金」という専用の基金の設立と、AGYWが資金配分の優先順位および気候変動へのレジリエンスを構築しつつ家父長制規範に挑む取り組みへの長期的で柔軟な資金提供を優先できる、配分基準を決める参加型助成金創出制度を実施すること。それには、AGYW主導の気候変動対策の革新や提唱活動向けの特定資金枠の創設も含まれ得る。
- 気候変動適応策がジェンダー平等とAGYWの力づけに与える影響を測定するための、新たなフェミニスト指標を開発すること。
- プランの活動が持続可能であることを保証し、そのCO2排出量(移動・水と電力消費・持続可能性への取り組み・廃棄物管理)を最小化して、気候への影響と規模を軽減すること。

本調査は、気候変動とジェンダー・社会経済的不平等が及ぼす多面的な困難に対応するため、AGYW・大陸規模の組織・各国政府・国際NGOや現地NGO・コミュニティ間の連携強化を求めている。

#### マリの共同調査者のユース女性による短い物語

「FPAR手法によって、AGYWがコミュニティのレジリエンスに関し、重要な役割を担っているのを認識しました。彼女たちの意思決定・リソース管理・現地の気候変動対策への積極的な参加が、彼女たちの行動力の強化につながり、包摂的な対応が実現するのです。FPARのおかげで、ユース女性が単に気候変動の被害者であるのではなく、変革の担い手でもあることがわかりました」

## ANNEX I: Stakeholders Mapping

### Stakeholders mapping (from Phase I)

Table 6. Actors involved in initiatives, projects, programmes at the intersection of climate change and women's rights/gender<sup>144</sup>

COUNTRY	ACTORS WORKING ON CLIMATE CHANGE & WOMEN'S RIGHTS/ GENDER
<b>BURKINA FASO</b>	Oxfam, WEP, IFAD, Helen Keller International, UNFPA (integrating SRHR into emergency preparedness plans), UNESCO (Climate Frontlines Initiative), UNICEF, UNDP (conducted a study that led to the NAP including gender dynamics) and several women's organisations based in BF (especially in relation to women in agriculture).
<b>GUINEA</b>	Renaissance de l'Africaine des femmes de l'Afrique de l'Ouest (RAFAO Guinea); NAP Global Network support programme for Guinea; Green Climate Fund (GCF); Partenariat - Recherches - Environnement – Médias (PREM); Enfants du Globe Guinée; Humanium Guinea; Local conflict management committees.
<b>MALI</b>	German Cooperation (GIZ), Oxfam, UN Women.
<b>NIGER</b>	World Bank, USAID, Oxfam, WEP-Niger.
<b>NIGERIA</b>	Climate and Sustainable Development Network (CSDeVNet); Women Environmental Programme (WEP); Girl Up Nigeria SLCA campaign; Center for Girls' Education (CGE); Smallholder Women Farmers Organization in Nigeria (SWOFON); Partnership for Economic Policy (PEP); Women's Consortium of Nigeria (WOCON); Solar Sister; Save the Children; Oxfam Nigeria; UN Women.

### Perspectives of AGYW on actions and organisations active on gender and climate change (from Phase II)

When asked which authorities are active on gender and climate change, the AGYW participants gave some examples of community-based organizations (CBOs), international/non-governmental organizations (I/NGOs), and the United Nations (UN) who have played a role in providing various forms of assistance to communities, including:

- Distribution of food, non-food items (e.g., blankets, mosquito nets), and school supplies
- Construction of water infrastructure (e.g., boreholes, wells, taps) to address water scarcity
- Provision of healthcare services and vaccination campaigns
- Support for education, such as paying school fees and providing learning materials
- Livelihood support, including distribution of livestock and cash assistance
- Shelter construction and camp management for displaced populations
- Awareness-raising and capacity-building activities on topics like gender equality, sanitation, and climate change adaptation

Key organisations mentioned include the Red Cross/Red Crescent, UNHCR, UNICEF, Plan International, Save the Children, IRC, and local NGOs. There is a recognition of the need for

<sup>144</sup> As identified as part of this research.

continued and enhanced support from these organisations, as well as the government and other organisations to address the diverse needs of the communities, particularly in the face of climate change impacts.

However, in light with data they collected in Coyah and Forecariah, young women co-researchers in Guinea deplored that the majority of AGYW participants have not received any help from organisations when faced with climatic related events. The young women co-researchers report that this was also mentioned in the FGDs. Some AGYW participants in Guinea also said that even when help was available in the community, they did not receive it. It was described that in the event of flooding, the authorities would come to assess the situation but would not come back afterwards. Food and basic items would be distributed but the aid would either be blocked or there would not be any follow-up. Also, for example, with regard to the treatment of wells following the floods, the wells had not been treated in Fily, leading to a high risk of disease because the well water is not fit for consumption or use.

In **Nigeria**, AGYW participants indicated that various organisations have supported by providing assistance such as food items and medical supplies. AGYW participants also mentioned organisations have provided support to build houses, and drill boreholes. They also organise life skills training to promote self-reliance, cleanliness, and decision-making.

In **Burkina Faso**, AGYW participants deplored that community-based organizations (CBOs) and non-governmental organizations (NGOs) often try to make proposals to government members through their neighbourhood representatives, but these efforts are usually without any follow-up. AGYW participants in Burkina Faso noted that the World Food Programme (WFP) has provided food aid to the community. The AGYW participants request that authorities help raise awareness about the impacts of climate change.

In **Niger**, community-based organizations (CBOs), international/non-governmental organizations (I/NGOs), and the United Nations (UN) have provided various forms of assistance to local communities, including through distribution of livestock (e.g., small ruminants), food aid and other supplies (e.g., clothing, basic necessities, school kits, mosquito nets). They have supported through cash transfers and financial support for community activities (e.g., recreation) and support for access to food, water, and shelter.

In **Mali**, community-based organizations (CBOs), international/non-governmental organizations (I/NGOs), and the United Nations (UN) have played a role in providing various forms of assistance to communities, including distribution of food and non-food items (e.g., blankets, mosquito nets and school supplies), construction of water infrastructure (e.g., boreholes, wells, water taps) to address water scarcity, provision of healthcare services, such as vaccination campaigns as well as support for education, including paying school fees and providing learning materials. The AGYW participants also indicated that they support awareness-raising and training on topics like gender equality, sanitation, and climate change adaptation as well as establishing temporary shelters and other forms of humanitarian aid.

In **Guinea**, an NGO (AJAFF) raising awareness about cleaning the environment was mentioned as well as Plan International.

We recommend complementing this stakeholders' mapping by further research at country level in order to identify potential partners and avoid duplication of efforts.

## ANNEX 2: Detailed RECOMMENDATIONS

Before providing recommendations to national governments and CSO actors, our research urges governments of wealthy nations to pay their fair share for climate adaptation and to ensure that the backsliding and backtracking from climate commitments are halted and reversed in order to ensure long-term climate change mitigation.

### To State Authorities

The study recommends that the State Authorities:

**1 - Recognise the multidimensional and intersectional nature of climate change and develop, implement and finance gender-transformative national climate change policies and action plans with dedicated focus on AGYW, including allocating budget for climate adaptation initiatives targeting and led by them.**

This includes:

- Recognising that vulnerabilities of adolescent girls and young women (AGYW) are not inherent but rather acquired based on societal norms, economic opportunities, socialization, education, and discrimination; while addressing the intersectional needs of communities, with a particular focus on AGYW and their families.
- Ensuring that intersectionality and climate-gender linkages are recognized in all key policy documents. This means guaranteeing that Nationally Determined Contributions (NDCs), National Adaptation Plans (NAPs), and other climate policies are gender-transformative, updated and sufficiently ambitious, especially in terms of gender and climate justice.
- Integrating climate considerations into all policies and action plans ensuring that funding, policies, and programs for gender equality, food security, water, education, health, SRHR and SGBV (among other sectors) account for climate change impacts, adaptation and mitigation.
- Recognising, respecting, and protecting local and traditional knowledge, while supporting community-based actors and initiatives, including opportunities for intergenerational knowledge transmission on climate action.

**2 - Guarantee the realisation of socio-economic rights through gender-transformative climate-resilient public services in food, education, health, water, and sanitation, with attention to the rights and needs of adolescent girls and young women (AGYW).**

This includes:

Food security	Education	Health and social protection
- Strengthening and developing climate-resilient and ecological food	- Integrating comprehensive gender-transformative climate	- Improving access to sexual and reproductive health services for

<p>production and distribution systems, with a focus on agroecological and environmentally sustainable approaches that respect human rights, biodiversity and the environment.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Providing financial and technical support for climate-resilient livelihoods, with a focus on empowering young women in sustainable agriculture (such as agroecology), ensuring equal access to resources, funding, training, and opportunities.</li> <li>- Ensuring equal land and resource rights for women and girls.</li> <li>- Supporting communities with fuel-efficient stoves and solar systems to reduce deforestation and carbon emissions.</li> </ul>	<p>change education into national curricula</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Enhancing awareness-raising and mobilization actions in communities particularly with and for AGYW.</li> <li>- Implementing the GADRRRES's Comprehensive School Safety Framework 2022-2030</li> <li>- Addressing barriers to AGYW education and women's employment.</li> <li>- Setting up and funding gender-transformative sustainable vocational/skills training programs that lead to green jobs, accessible to AGYW.</li> </ul>	<p>AGYW, recognizing increased risks of child, early, and forced marriage, unintended pregnancies, and (sexual) exploitation due to climate change and gender norms.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Expanding and transforming social protection and cash transfer programs to build resilience of at-risk households</li> </ul>
---	--	--

### 3 - Position AGYW as key actors in building gender-just climate-resilient communities guaranteeing AGYW's meaningful participation in policy making, program design and implementation while building on their existing efforts and capacities as climate action leaders.

This includes:

- Supporting youth-led and women-led climate initiatives, platforms and spaces for AGYW participation and leadership in climate decision-making while enabling intergenerational cross-learning.
- Ensuring policies and programs challenge gender norms by involving men and boys, promoting women's decision-making power, and providing AGYW with resources, skills, and opportunities to lead community adaptation efforts.

Conducting further research and collecting intersectional gender-disaggregated data to measure progress on gender equality and AGYW's enhanced capacity to address climate challenges. This may also include conducting further research (on SRHR and SGBV, food security, water...).

## To Civil Society Actors, Development Partners Including I/NGOs As Well As Continental Organisations Such As The African Union

The study recommends that the Civil Society actors, development partners including I/NGOs as well as regional and continental organisations such as ECOWAS and the African Union:

### 1- Co-create and implement holistic, gender-transformative and intersectional climate programs with AGYW that address the interconnected impacts of climate change on AGYW's lives centering their leadership and diverse experiences throughout the project cycle.

This includes:

- Integrating climate adaptation with education, sexual and reproductive health and rights, economic empowerment, and GBV prevention programs.

- Investing in long-term, flexible funding models that support AGYW to lead cross-sectoral initiatives that build community resilience and transform gender norms and power dynamics in the face of climate change.
- Integrating comprehensive gender and power analyses to address root causes of diverse inequalities, to challenge harmful norms, promote AGYW's rights, and build their capacities as climate leaders.
- Scaling up and adapting community-based adaptation models that explicitly advance gender equality and youth empowerment, prioritising initiatives that enhance AGYW's access to and control over resources, promote their leadership in climate-resilient livelihoods, and challenge traditional gender roles.
- Establishing youth-led steering committees with decision-making power and fair compensation.
- Fostering intergenerational partnerships to blend indigenous knowledge with youth innovation in building resilience.
- Mandating intersectional gender and youth analysis in all climate programs, with specific targets for AGYW's meaningful participation and leadership.
- Developing comprehensive frameworks to assess how initiatives transform gender relations and empower AGYW.
- Allocating dedicated funding for gender-transformative activities and AGYW-led climate solutions.

**2- Centre AGYW's diverse voices and lived experiences in all climate advocacy efforts, amplifying their demands through collaborative campaigns that challenge power structures and gender norms and supporting AGYW-led initiatives to document climate impacts on their communities in order to present solutions and advocacy points directly to policymakers.**

This includes :

- Funding dedicated platforms for their meaningful participation in high-level decision-making spaces.
- Creating platforms where AGYW educate communities and authorities on climate impacts and innovative solutions, while also learning from indigenous and local knowledge. Ensure these exchanges challenge power dynamics and position AGYW as experts, compensating them fairly for their contributions.
- Ensuring AGYW from diverse backgrounds, including marginalised communities, have equal opportunities to shape climate agendas at local, national, and international levels.
- Creating multimedia dissemination strategies that amplify AGYW's voices and reach diverse audiences, including policy makers.
- Advocating for gender-transformative climate finance mechanisms that directly reach AGYW and women-led organizations at the local level, and pushing for dedicated funding streams that support AGYW's climate innovations, entrepreneurship, and leadership development.
- Demanding transparency and accountability in how climate funds address gender equality and youth empowerment.

- Establishing AGYW-led monitoring and accountability systems to track government progress on climate and gender equality commitments.
- Train and support networks of young women to conduct gender audits of climate policies and programs, providing them with tools to hold decision-makers accountable.

### **3- Establish AGYW-led knowledge hubs that facilitate transformative and participatory research and learning exchanges between diverse stakeholders.**

This includes:

- Assessing knowledge of AGYW on climate action advocacy, supporting additional capacity building of AGYW as climate justice leaders by providing comprehensive training in advocacy skills, climate science, and policy processes.
- Developing comprehensive, AGYW-designed leadership programs that build climate advocacy skills while fostering critical consciousness about gender and power. This should combine technical training with mentorship, peer support networks, and opportunities for AGYW to lead climate initiatives. This should Integrate feminist popular education methodologies that value AGYW's lived experiences and challenge traditional hierarchies of knowledge.
- Implementing further participatory action research projects led by AGYW to document and analyse gender-transformative climate interventions.
- Supporting AGYW to develop their own criteria for "best practices" that prioritise shifting power relations and advancing gender equality.
- Providing long-term, flexible funding and capacity strengthening to local organizations working at the intersection of climate, gender, and youth while prioritising AGYW-led groups and those with feminist approaches
- Fostering partnerships that position such locally led organisations as leaders in climate action, valuing their expertise equally to international actors and amplifying their strategies.
- Funding and co-designing with AGYW a research agenda on gender-transformative climate interventions. This will prioritise participatory methodologies that position AGYW as researchers rather than subjects and ensure research outputs challenge dominant narratives, amplifying AGYW's perspectives.

### **4 – Re-design simplified, decolonial, participatory and long-term approaches to partnerships, funding and research in order to prioritise AGYW-led and feminist organisations driving climate justice initiatives.**

This includes:

- Establishing dedicated funding streams with simplified access for grassroots groups.
- Implementing participatory grant-making processes where AGYW decide funding allocations.
- Providing long-term, flexible core funding that allows organizations to address the root causes of gender inequality alongside climate action.
- Catalysing transformative cross-sectoral collaborations that challenge traditional power dynamics.

- Establishing accountability mechanisms led by feminist organizations to track how funds challenge power imbalances and shift social norms alongside climate goals.
- Contributing to re-design climate finance architecture to ensure resources directly reach and benefit AGYW at the local level. This could be promoted through the creation of decentralised funding mechanisms managed by AGYW collectives.
- Simplifying reporting and monitoring requirements and providing capacity strengthening on financial management that challenges gender biases.
- Funding AGYW-led participatory action research that centres Indigenous knowledge and challenges Western scientific dominance.
- Supporting the development of new, gender-transformative metrics for measuring climate resilience.
- Ensuring research processes and outputs actively redistribute power, amplify marginalised voices, and drive systemic change in how climate solutions are conceptualised and implemented.

## To PLAN International

---

Based on Phase I findings on Plan International's strategies and programmes structures, as well as regular interactions with the five countries involved as part of this research, the study recommends that Plan International:

### Programming

- Supports AGYW to develop joint action plans that leverage their diverse experiences to drive systemic change in climate policy and gender norms. This means spearheading transformative initiatives that redefine the nexus of gender and climate justice, positioning AGYW as primary decision-makers and change agents.
- Implements an innovative "Climate Justice Leadership Learning and Exchange Program" for AGYW across countries and regions. This includes designing immersive study trips for AGYW that go beyond knowledge sharing in order to build solidarity and collective power. Trips should aim to challenge colonial dynamics by prioritising South-South exchanges and valuing indigenous knowledge. These can incorporate modules on feminist movement building and intersectional climate advocacy.
- Establishes AGYW-led steering committees with voting power in all climate-related programs and coalitions while implementing feminist leadership models that challenge traditional hierarchies and cultivate AGYW's collective power to drive systemic change in climate policy and gender norms.
- Establishes a "Climate Resilience Innovation Hub" involving AGYW to capture, expand, and advance local adaptation and mitigation strategies. This should include providing resources and platforms for AGYW to conduct participatory action research in their communities, elevating indigenous knowledge and grassroots solutions. This should enable AGYW to have ownership over the knowledge produced and lead its dissemination to influence policy and practice.
- Incorporates comprehensive gender-transformative and climate risk assessments in all programming areas including food security, education, livelihoods, SRHR, and child protection initiatives to explicitly challenge gender norms while building climate resilience. This should

include dedicated funding for integrated activities that address root causes of gender inequality in the context of climate change.

- Develops holistic, rights-based programs that address the interconnected impacts of climate change on AGYW's lives, challenging siloed approaches. Examples could include integrating climate adaptation with food security, WASH, comprehensive sexuality education, menstrual health, SGBV prevention, and youth economic empowerment projects.
- Supports AGYW to lead multi-sectoral initiatives that build community resilience while transforming gender relations. This involves investing in long-term, flexible funding models that allow for iterative learning and sustained efforts to dismantle patriarchal structures exacerbated by climate change.
- Transforms community-based early warning systems by elevating AGYW's leadership and incorporating traditional knowledge. This includes involving AGYW to design, implement, and manage gender-responsive preparedness strategies for extreme climate events. Plan International should ensure these systems challenge traditional gender roles in disaster response and create opportunities for AGYW to lead community resilience efforts. These initiatives should be integrated with existing local structures, amplifying and scaling successful AGYW-led approaches rather than imposing external models.
- Takes the lead of new and existing initiatives (programmes, coalitions...) in order to integrate the link between gender and climate justice, with a focus on bringing the voices, resilience, decision-making and rights of adolescent girls and young women forward.

### Advocacy and Influencing

- Takes a leadership role in integrating gender justice and climate justice in International, regional and national platforms and initiatives, with a focus on the rights and voices of adolescent girls and young women.
- Advocates for increased participation of AGYW in climate policymaking and action at all levels. This includes pushing for dedicated climate adaptation funding for initiatives supporting AGYW.
- As part of advocacy efforts to governments, places more attention on adolescent girls' and young women's resilience and strengths, and the need for them to be involved in decision-making, as opposed to emphasizing on girls' and women's vulnerabilities.
- Focuses on making grassroots youth-led initiatives more visible and listened to in the climate change and gender advocacy space at national, regional and international levels by including adolescent girls and young women in climate change related advocacy at country and regional level, beyond main world-renowned activism.
- Creates AGYW-led climate justice task forces with decision-making authority in each country office: empowering these groups to conduct feminist participatory analyses of how gender norms, power structures, and climate change intersect in their contexts.

### Partnerships and Research

- Conducts transformative, AGYW-led stakeholder mapping across Plan International Country Offices. This should include training, involving and compensating diverse groups of AGYW to design and implement comprehensive mapping exercises that challenge traditional power structures.
- Initiates a transformative stakeholder engagement process led by AGYW, challenging traditional power dynamics in partnership development. This includes:
- Training, involving and compensating diverse AGYW to design and implement a comprehensive mapping of potential partners, prioritizing grassroots feminist and youth-led organizations often overlooked by mainstream actors.

- Empowering AGYW to define partnership criteria based on commitment to gender justice and climate action.
- Using this process to build a feminist climate justice coalition that amplifies AGYW's voices and advances their rights through collective advocacy and programming.
- Forges strategic, equitable partnerships with women's rights organizations and youth-led climate groups, ensuring AGYW are at the forefront of decision-making. Establish a "Feminist Climate Action Incubator" that provides long-term, flexible funding and capacity strengthening to these partners, particularly supporting emerging AGYW-led initiatives.
- Creates spaces for cross-movement learning and collaboration, fostering innovative approaches that integrate gender transformation with climate resilience. This should include accountability mechanisms where AGYW evaluate the effectiveness and equity of partnerships.
- Establishes an AGYW-led advisory board with decision-making authority over research priorities, funding allocations, and how evidence is used to influence practice.
- Co-creates a groundbreaking research agenda on gender-transformative climate action, in collaboration with research institutions, meaningfully engaging Adolescent girls and boys, young women and young women in order to enhance knowledge of gender roles, perceptions, and experiences in the context of climate change. This should include:
  - prioritising participatory methodologies that position AGYW as researchers rather than subjects, challenging traditional academic hierarchies;
  - investigating how climate interventions can catalyse broader shifts in gender norms and power relations involving adolescent girls and boys in their diversity;
  - Ensuring research design, implementation, and dissemination actively redistribute power, amplify marginalised voices, and drive systemic change in climate and gender policy.

### Organisational Capacity

- Transforms organizational culture and capacity by implementing a comprehensive, feminist climate justice training including this in new staff induction programmes, and offering trainings for existing staff on climate change and feminist approaches.
- Develops an AGYW-led "Climate Justice Leadership Academy" for staff at all levels, challenging traditional hierarchies of knowledge and expertise, integrating modules on intersectionality, power analysis, and decolonial approaches to climate action.
- Establishes mentorship programs and creates pathways for AGYW to advance into leadership roles, fundamentally shifting power dynamics within the organization.
- Includes climate justice in the Country Offices' country strategies while transforming country strategy development processes by prioritising AGYW's voices and lived experiences of climate impacts. This should guarantee that strategies explicitly address root causes of gender inequality exacerbated by climate change.
- Develops accountability mechanisms where AGYW evaluate the gender-transformative impact of climate-informed programming.
- Establishes a dedicated "Gender-Transformative Climate Resilience Fund" and implements participatory grant-making processes where AGYW define funding priorities and allocation criteria prioritising long-term, flexible funding for initiatives that challenge patriarchal norms while building climate resilience. This could include creating specific funding streams for AGYW-led climate innovations and advocacy efforts.
- Develops new, feminist metrics for measuring the impact of climate adaptation work on gender equality and AGYW empowerment.

- Mitigates the climate impact and footprints of Plan International's work by ensuring their activities are sustainable and minimise its carbon footprints (travel, water and electricity consumption, sustainability efforts, waste management).

## RECOMMENDATIONS FROM CO-RESEARCHERS AND PARTICIPANTS

### Recommendations made by the young women co-researchers

The co-researchers identified several key areas requiring further research and action:

- **Policy:** Co-researchers highlighted the need for gender-inclusive policymaking addressing root causes of marginalisation/discriminations through gender-transformative policies. Integrating climate change considerations into national education, health, and social protection systems. Encouraging girls' leadership and include them in the development, implementation and monitoring of Nationally Determined Contributions (NDCs) and National Adaptation Plans (NAPs).
- **Education and awareness:** Many co-researchers emphasised the need for more climate change education, awareness-raising and mobilization actions in communities particularly with and for AGYW. They indicated the need of developing gender-responsive climate education and skills training programs
- **Economic empowerment:** Recognising the link between economic vulnerability and climate change impacts, co-researchers called for vocational training and empowerment programs.
- **Extensive research:** the need for further research on climate change's impacts on reproductive health and gender-based violence was frequently mentioned.
- **Advocacy:** supporting platforms and initiatives for AGYW participation and leadership in climate decision-making.

A co-researcher from Mali provided comprehensive recommendations: **"Encourage governments, NGOs and researchers to integrate the gender dimension into climate surveys by collecting disaggregated data... Create participatory platforms for adolescent girls and young women in decision-making spaces such as climate conferences, local resilience forums or consultation with governments... Develop vocational training and economic empowerment programs specifically for young women in vulnerable communities."**

The research process also sparked a desire for further action among many co-researchers. This indicates the potential for FPAR approaches to not only generate knowledge but also to catalyse community-level action and advocacy.

Recommendations for future FPAR studies emerged from the co-researchers' feedback. These included:

- Providing longer timeframes for the research process to allow for deeper engagement and learning
- Simplifying the questionnaires and research tools
- Strengthening support for language translation and interpretation
- Expanding the geographical scope of studies to capture a wider range of experiences and extending to adolescent boys and young men

- Creating opportunities for co-researchers from different countries to share experiences and learnings

The table below provides a detailed set of recommendations that the AGYW participants suggested as part of this research.

### Recommendations made by the AGYW participants who took part in this research

The AGYW who participated in this study recommended that the governments of the five countries effectively engage in:

<b>Food security</b>	<b>Education</b>	<b>SGBV/SRHR</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• Enabling effective access to food, water, and other basic necessities</li> <li>• Supporting access to food by reducing and regulating food prices and subsidising essential goods, as well as supporting sustainable farming</li> <li>• Improving access to clean and affordable water through construction of wells, boreholes, and dams and improving water supply for agriculture, including rice farming</li> <li>• Subsidising environmentally-friendly cooking energy to reduce wood cutting and enable food cooking and encouraging the use of electric vehicles and renewable energy</li> <li>• Educating communities about ecological issues and train them in sustainable farming techniques such as agroecology</li> <li>• Creating awareness around littering and ensuring water streams</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Integrating climate change education into curricula</li> <li>• Ensuring access to education by providing food, books, bags, and other school supplies</li> <li>• Implementing girls' education and preventing CEFM</li> <li>• Building more schools and ensuring effective and resilient access</li> <li>• Ensuring safe, inclusive and accessible facilities for girls, including by building more schools and ensuring proper and safe sanitation/WASH facilities for (adolescent) girls</li> <li>• Building infrastructure like drainage systems, schools, and waste management systems.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Improving healthcare services (availability of medicines, sensitization of health workers), including SRHR services.</li> <li>• Addressing exploitation including sexual exploitation and child labour</li> <li>• Addressing CEFM and sexual and gender-based violence</li> <li>• Increasing and strengthening mechanisms for sexual and gender-based violence management cases</li> <li>• Increasing access to electricity and healthcare services.</li> </ul>

<p>and land remain free from waste</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Supporting eco-friendly business and agricultural practices including off-season crops based on local practices and knowledge.</li> <li>• Implementing climate change adaptation measures (e.g., solar panels, irrigation systems, sustainable food systems...).</li> </ul>		
<p>The AGYW who participated in this study recommended that NGOs and International organisations working in the five countries effectively engage in:</p>		
<p><b>Financial and technical support</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Providing financial and technical support for climate change adaptation projects</li> <li>• Supporting income-generating activities and entrepreneurship</li> <li>• Improving access to agricultural inputs and techniques</li> <li>• Equipping communities with motorbike pumps to evacuate rainwater in the event of flooding.</li> <li>• Creating employment and income-generating opportunities, especially for women and youth</li> <li>• Supporting entrepreneurship through cash-for-work programs and financing</li> <li>• Providing financial and material support (e.g., food, shelter, school</li> </ul>	<p><b>Awareness and education:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Empowering young people, especially young women, with skills acquisition for economic opportunities</li> <li>• Building capacity of health, education, and community workers</li> <li>• Coaching farmers on climate change mitigation measures</li> <li>• Implementing awareness campaigns on climate change impacts and mitigation strategies</li> <li>• Educating communities, especially in schools, about climate change</li> <li>• Increasing awareness and sensitisation on climate change, environmental protection, deforestation, littering and hygiene</li> </ul>	<p><b>Collaboration:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Collaborating with local authorities and communities to design and implement targeted programs that respond to the needs and rights of AGYW</li> <li>• Seeking funding and partnerships to address community needs.</li> <li>• Involving AGYW in decision-making</li> <li>• Collaborating with the community and supporting their actions (including financially), especially AGYW, and involving them in decision-making</li> <li>• Encouraging community participation in adapting and mitigation climate change effects.</li> </ul>

<p>supplies, agricultural practices).</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Addressing the needs of widows, women with disabilities and female-headed households</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Providing practical skills training for climate change adaptation</li> </ul>	
--	---	--

The AGYW who participated in this study recommended that community members in the areas they conducted research and beyond in the five countries effectively engage in:

<p><b>Environmental Protection</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Participating in tree planting, waste management, and prevent deforestation</li> <li>• Encourage crops and farming practices that regenerate the soil including agroecology</li> <li>• Setting up watchdog committees on climate change</li> <li>• Practicing good hygiene and sanitation, including not littering or participating to pollution of water streams</li> <li>• Participating in community clean-up days.</li> </ul>	<p><b>Awareness and Action</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Raising awareness of climate change prevention and harmful effects</li> <li>• Establishing youth-led organizations to address climate change challenges</li> <li>• Advocating for adolescent girls and young women's involvement in decision-making processes</li> <li>• Setting up AGYW's environmental protection associations.</li> </ul>	<p><b>Social Support</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Supporting each other and work together to address community challenges</li> <li>• Encouraging girls' education and preventing early marriage</li> <li>• Supporting women and girls' empowerment and development.</li> </ul>
---	--	--

The AGYW who participated in this study recommended that the media in the five countries effectively engage in disseminating accurate and accessible information on climate change causes, consequences, and mitigation strategies, especially towards youth.

The study calls for greater collaboration between AGYW, regional and continental organisations (such as ECOWAS and the African Union), governments, I/NGOs, and communities to address the multifaceted suffering posed by climate change as well as gender and socioeconomic inequalities.

## ANNEX 3: Research Questions

AREA OF RESEARCH	RESEARCH QUESTIONS	METHODOLOGY
<b>Feminist Participatory Action Research</b>		
<b>IMPACTS AND EXPERIENCES</b> Map out the gendered effects of climate change through Adolescent girls' lived realities and voices	<b>4. How do adolescent girls experience and perceive the gendered impacts of climate change in their lives and the lived realities of their peers?</b> 1.1. How do they experience the gendered effects of climate change in terms of food security, SGBV, SRHR, and education? 1.2. How do they take action against climate change consequences?	FPAR data collection and analysis
<b>EXPECTATIONS AND RECOMMENDATIONS</b> Key interventions needed from Plan International for the designing of a gender transformative climate action.	<b>2. What do girls and young women expect from authorities at international, regional, national, and local levels?</b> 2.1. Which authorities are active on these issues and why are they important? 2.2. How do the existing gaps in policies, actors, and programmes impact on adolescent girls and young women's rights? 2.3. How can Plan International contribute to filling the existing gaps, building on strong alliances with girls and young women?	FPAR data collection and analysis Co-creation of recommendations with adolescent girls and Plan I.
<b>IMPACT OF FPAR Methods</b>	<b>3. How have the young women co-researchers experienced and perceived the FPAR methods used as part of this research?</b> 3.1. Do FPAR methods impact empowerment and learning among young women co-researchers and mentors?	FPAR data collection and analysis Pre- and post-research surveys

## ANNEX 4: CODEBOOK (Used for Data Analysis)

Access & control over Resources	Identification of disparities in access & control over resources. This includes instances where disparities in resource access and control, such as land, water, or financial resources, are discussed in the context of climate change impacts.																												
Intersectionality	Intersections of gender with other identity factors (e.g., ethnicity, socioeconomic status) influencing vulnerability and resilience. Analyse how multiple identity factors intersect to shape unique experiences. <b>EXAMPLES</b> Varied impacts on girls from different socioeconomic backgrounds during climate-induced events. Intersectional challenges in accessing SRHR services for specific ethnic groups during environmental crises.																												
What is climate Change & signs	Definition of climate change according to AGYW																												
General Impact	General impacts of climate change in the community Any changes observed by adolescent girls and young women as a result of climate change, that will inform their perception of climate change effects in their community.																												
Socioeconomic consequences																													
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Economic Impact</th> <th>Economic impacts of CC</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Source of Livelihood</td> <td>forced to seek alternative means of livelihood as a result of climate change</td> </tr> <tr> <td>Sexual exploitation, transactional sex</td> <td>Mention of transactional sex, sexual exploitation in relation to economic struggles related to CC.</td> </tr> <tr> <td>Extreme weather</td> <td>Mention of extreme weather events</td> </tr> <tr> <td>Sandstorm</td> <td>Mention of sandstorm or harmattan.</td> </tr> <tr> <td>Flooding</td> <td>Mention of flooding.</td> </tr> <tr> <td>Drought</td> <td>Mention of drought</td> </tr> <tr> <td>Heat</td> <td>Mention of heat</td> </tr> <tr> <td>Rain</td> <td>Mention of rain</td> </tr> <tr> <td>Wind</td> <td>Mention of wind.</td> </tr> <tr> <td>Environmental Degradation &amp; Destruction of property</td> <td>Description of how climate change leads to environmental degradation and destruction of property.</td> </tr> <tr> <td>Destruction of property</td> <td>Specific mention of the ways that property was/is destroyed due to climate change.</td> </tr> <tr> <td>Deforestation</td> <td>Mention of deforestation in the context of environmental degradation.</td> </tr> <tr> <td>Decreased agricultural yields</td> <td>Mention of decreased agricultural yields due to climate change related events.</td> </tr> </tbody> </table>	Economic Impact	Economic impacts of CC	Source of Livelihood	forced to seek alternative means of livelihood as a result of climate change	Sexual exploitation, transactional sex	Mention of transactional sex, sexual exploitation in relation to economic struggles related to CC.	Extreme weather	Mention of extreme weather events	Sandstorm	Mention of sandstorm or harmattan.	Flooding	Mention of flooding.	Drought	Mention of drought	Heat	Mention of heat	Rain	Mention of rain	Wind	Mention of wind.	Environmental Degradation & Destruction of property	Description of how climate change leads to environmental degradation and destruction of property.	Destruction of property	Specific mention of the ways that property was/is destroyed due to climate change.	Deforestation	Mention of deforestation in the context of environmental degradation.	Decreased agricultural yields	Mention of decreased agricultural yields due to climate change related events.
Economic Impact	Economic impacts of CC																												
Source of Livelihood	forced to seek alternative means of livelihood as a result of climate change																												
Sexual exploitation, transactional sex	Mention of transactional sex, sexual exploitation in relation to economic struggles related to CC.																												
Extreme weather	Mention of extreme weather events																												
Sandstorm	Mention of sandstorm or harmattan.																												
Flooding	Mention of flooding.																												
Drought	Mention of drought																												
Heat	Mention of heat																												
Rain	Mention of rain																												
Wind	Mention of wind.																												
Environmental Degradation & Destruction of property	Description of how climate change leads to environmental degradation and destruction of property.																												
Destruction of property	Specific mention of the ways that property was/is destroyed due to climate change.																												
Deforestation	Mention of deforestation in the context of environmental degradation.																												
Decreased agricultural yields	Mention of decreased agricultural yields due to climate change related events.																												
Socio-cultural	Sociocultural norms influencing the gendered impact of climate change on adolescent girls and young																												

	women. Examine how social, cultural and gender norms contribute to differential vulnerabilities and resilience. Examine changes in power, reversed roles (women and girls taking on male roles).
Chores	Mention of chores in the context of AGYW experiences.
Forced or early marriage	Mention of forced or early marriage.
Gender inequality	If participants specifically mention differences in gender or gender inequality
Food security impact	Influence of climate change on access to and availability of food resources, including nutritional challenges. Address changes in food availability and drinking water, access, utilization, and nutritional status.
Water	Mention of water issues related to CC (lack of water, walking far to fetch water, contaminated water, etc.). This could be an impact or a consequence of climate change.
SRHR Impact	Identification of impacts on Sexual and Reproductive Health and Rights (SRHR). Include changes in access to reproductive health services, family planning, and the prevalence of reproductive health issues. It will also look at (perceived) increased sexually transmitted infections or (unwanted) pregnancies. EXAMPLES Decreased access to contraceptives due to climate-induced disruptions. Increased vulnerability to reproductive health challenges in the aftermath of extreme weather events
Menstruation	Mention of menstruation, especially in the context of decreased financial resources due to CC or difficulties managing hygiene related to water shortages or contaminated water as a result of CC.
Pregnancy	This code summarizes text on how pregnancy is affected (directly or indirectly) by issues related to CC. This code IS NOT applied to text that discusses pregnancy as a concern for AGYW in general, but only text that links this with issues related to climate change (e.g., dropping out of school, violence due to poverty related to shifting/low agricultural yields related to poor rains, etc.).
SGBV	Identification of impacts on Sexual and Gender Based Violence. This includes impact on Sexual and Gender Based Violence. EXAMPLES

	Increased violence as a result of climate related events.
Education Impact	<p>Situations where climate change is observed to affect educational opportunities and outcomes for adolescent girls and young women.</p> <p>Capture disruptions in education, changes in school attendance, and barriers to access educational resources. This includes, capturing school closures and teachers not attending due to disruptions.</p> <p><b>EXAMPLES</b></p> <p>Increased school dropout rates due to climate-induced events affecting families. Limited access to educational materials and facilities during extreme weather conditions</p>
Safety and Security	How has climate change impacted their safety and security?
Migration, displacement	Mention of migration or displacement.
Health impacts	This includes impacts and consequences of climate change on health.
Dehydration	Mention of dehydration.
Malnutrition	Mention of malnutrition.
Death	Mention of loss of life or death.
Blood pressure	Mention of blood pressure.
Accidents	Mention of accidents.
UTI	Mention of urinary tract infections.
Digestive	Mention of digestive or stomach issues.
Diarrheal disease	Mention of diarrheal disease.
Mental health	Mention of mental health.
Headaches	Mention of headaches.
Chronic disease	Mention of chronic disease.
Respiratory infections	Mention of respiratory infections.
Health care challenges	Mention of health care access.
Infectious disease	Mention of infectious disease. This can include typhoid and cholera.
Skin infections	Mention of skin infections.
Malaria	Mention of Malaria.
Lack hygiene	Mention of hygiene.
Drug use	Mention of drug use.
Pollution and contamination	Mention of pollution and contamination in the context of health.
Actions by adolescent girls and young women	Actions outline by AGYW related to climate change.
Water strategies	Strategies employed related to water access, controlling water or water flow or other ways AGYW focus on water.

Home care	The ways in which AGYW protect their homes or prepare their homes from extreme weather events.
Plant trees	Mention of planting trees.
Work	Mention of attempting to find additional work due to the poverty related to decreased crop yield and high food prices (which is linked with CC in the study overall).
Help each other	Mention of AGYW helping each other through difficult times.
challenges	All challenges mentioned that are related to actions in response to CC.
Self-care	Mention of the care AGYM take for themselves to alleviate the effects of climate change.
Awareness and advocacy	Mention of awareness and advocacy activities.
Change harmful practices	Mention of trying to change harmful practices to alleviate CC.
Cleaning and sanitation	Mention of cleaning and sanitation efforts.
Existing state actions and policy gaps	Identify potential areas for policy intervention and improvement. EXAMPLES Recommendations for inclusive climate adaptation policies addressing the specific needs of adolescent girls and young women. Suggestions for integrating gender-responsive strategies into education and food security policies in the context of climate change.
Current role of CBOs, I/NGOs, UN	Role of community based or non-governmental organizations, including Plan International Identification of projects or initiatives that have supported the community. This includes instances where initiatives from NGOs, community-based organizations are discussed or referred to. EXAMPLES Community beliefs about the role of women in disaster response and recovery. Perceived barriers to girls' education during climate-related challenges.
Recommendations/expectations	What do adolescent girls and young women expect from Plan or other civil society organizations?
FPAR	Third research question on documenting research process from participants' view

## ANNEX 5. Selection of Co-Researchers, Mentors and Study Participants

---

### Selection of Co-Researchers and Mentors

---

The co-researchers were selected following a transparent and inclusive approach: the TORs were sent through different communication channels. Applications were reviewed and Plan International proceeded to a first selection. The selected individuals were requested to send a 2-min video or recording with a set of questions on their motivation and background. The selection was then finalised by Plan International and her focal points based on recordings/videos. The criteria for selection were as follows:

#### Criteria for selection of co-researchers:

---

Female candidates in all their diversity / Age range: 18-24 / Based in the data collection region

---

Minimum level of education: Baccalaureate (end of high school) for 3 co-researchers; and Baccalaureate + 3 years for 2 co-researchers (according to availability of profiles in the research area)

---

At least 2 languages spoken (English and language of the data collection zone)

---

Active member of the community in the selected data collection region

---

Active on gender equality at community level

---

Motivation and interest to take part in a participatory, innovative and interactive research

---

Ability to facilitate group discussions

---

Ability to use digital and communication tools (ie tablets, phones, cameras)

---

Available throughout the process (around 20 working days)

---

Knowledge of climate change would be an asset

---

Analysis skills (of data, documents, images) would be an added advantage

---

Diversity of profiles is encouraged. Diversity of locations (urban, rural, refugee camps, and others) is sought.

Young women with disabilities, young women from marginalised groups, young women living in displacement settings, young women working on seasonal mining areas, are encouraged to apply.

Accesssibility will be ensured.

---

#### Criteria for selection of research mentors:

---

Woman (>18) ; Minimum BAC+3; based in the data collection region

---

Minimum 2 year experience working with young people, especially young women, and working on gender equality at community or national level

---

Languages spoken: English and minimum one language spoken in the data collection region

---

---

Ability to adapt data collection tools

---

Experience accompanying researchers in a data collection exercise

---

Knowledge and strict respect of safeguarding principles

---

Experience in the research sector and on youth participation

---

Availability throughout the process (around 20 working days)

---

Knowledge of climate change issues would be an added advantage

---

Communication skills, including digital skills

---

## Selection of Study Participants

---

Research participants were selected by Plan International from individuals who already participate in Plan International activities/programs. Individuals/families were contacted and asked if they would like to participate in this research. Plan International identified adolescent girls and young women who met the following inclusion criteria, with particular emphasis on diversity and inclusion elements to ensure intersectionality of analysis. The list was split in two age ranges: 15-17 (adolescent girls) / 18-24 (young women).

Inclusion criteria for study participants was as follows:

### **PARTICIPANTS IN THE SURVEY, FOCUS GROUPS AND PHOTOVOICE METHODOLOGIES**

#### **Adolescent girls and young women aged 15-24**

**Participants must be from the data collection regions noted above**

**Participants must be available on the day(s) where the data collection methodology for which they were sampled for will be conducted.**

**Plan International was particularly encouraged to be mindful of intersectionality, diversity and inclusion when selecting participants to enable further intersectionality, for instance encouraging participation of individuals with lived experience of:**

- **Known disability or chronic disease (or who participate in programming for people with disabilities)**
  - **Child, early or forced marriage**
  - **Being a refugee or internally displaced person**
- Being out of school**

## ANNEX 6. Key Workshop Insights from Co-Researchers

The last country workshops dedicated a session in which co-researchers were provided a space to reflect on the methodology. Some of the key insights from this session can be found in the table below.

*Table 7. Key insights from workshops*

BURKINA FASO	GUINEA	MALI	NIGER	NIGERIA
<p>In Burkina Faso, the research process was marked by strong community engagement and effective collaboration between co-researchers. The team successfully integrated environmental departments into their work, creating valuable institutional connections. They highlighted the importance of pre-collection community agreements and the diligent provision of mission expenses as crucial factors in their success. A co-researcher from Burkina Faso noted the "collaboration and interpersonal solidarity" as a key positive aspect of the experience.</p>	<p>Guinea's experience was characterized by strong peer awareness-raising and effective mentoring support. One co-researcher described the experience as "magical and inexplicable," highlighting the transformative nature of the process. The team particularly praised their selection process, which included innovative video/audio components, as well as FPAR workshops. Many of them had already been involved in some research initiatives before, but they indicated that this research did not look like their previous experiences: they particularly felt included and valued for their experiences, and they appreciated the fact that they were fully integrated in the creation of the</p>	<p>The Mali team achieved comprehensive method integration and demonstrated strong target determination. Their use of problem tree analysis proved particularly effective in helping participants understand climate change impacts. As one Mali co-researcher noted, "This research has enabled me to get to know, study and understand several themes, especially Photovoice and the interpretation workshop."</p>	<p>The Niger team reported significant personal growth throughout the process. Co-researchers noted enhanced self-confidence, improved public speaking abilities, and stronger team collaboration skills. One memorable observation came from a wrap-up session: "The wrap-up session gave us a better understanding of the process and enabled us to do some remarkable work."</p>	<p>The Nigerian experience emphasized tool development and ownership, with significant attention paid to capacity building in data analysis. A Nigerian co-researcher reflected, "Developing the research tools and data collection process was a very positive experience, allowing the young researchers to take ownership and give voice to the issues faced by young women and girls." The team particularly appreciated the use of MAXQDA software for data analysis, viewing it as a valuable learning opportunity.</p>

	questionnaire and photovoice methodology. They enjoyed participating in participatory data analysis, a step they had never been involved in before.			
--	---	--	--	--



**Until we are all equal**

## About Plan International

Plan International is an independent development and humanitarian organization that advances children's rights and equality for girls. We believe in the power and potential of every child but know this is often suppressed by poverty, violence, exclusion and discrimination. And it is girls who are most affected.

Working together with children, young people, supporters and partners, we strive for a just world, tackling the root causes of the challenges girls and vulnerable children face. We support children's rights from birth until they reach adulthood and we enable children to prepare for and respond to crises and adversity. We drive changes in practice and policy at local, national and global levels using our reach, experience and knowledge. For over 85 years, we have rallied other determined optimists to transform the lives of all children in more than 80 countries.

**We won't stop until we are all equal.**

---

Published in 2025. Text © Plan International.

Plan International has obtained permission and the necessary consent to publish the photos contained herein.

---

### Plan International

Global Hub  
Dukes Court, Duke Street, Woking,  
Surrey GU21 5BH, United Kingdom

Tel: +44 (0) 1483 755155

Fax: +44 (0) 1483 756505

E-mail: [info@plan-international.org](mailto:info@plan-international.org)



[plan-international.org](https://plan-international.org)



[facebook.com/planinternational](https://facebook.com/planinternational)



[twitter.com/planglobal](https://twitter.com/planglobal)



[instagram.com/planinternational](https://instagram.com/planinternational)



[linkedin.com/company/plan-international](https://linkedin.com/company/plan-international)



[youtube.com/user/planinternationaltv](https://youtube.com/user/planinternationaltv)